

2025 年 9 月

# 食料安全保障月報 (第 51 号)



令和 7 年 9 月 30 日

**農林水産省**

# 食料安全保障月報について

## 1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

## 2 対象者

本月報は、2021年6月まで発行していた海外食料需給レポートに食料安全保障の観点から注目している事項を適宜追加する形で、国民のみならず、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

## 3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報(生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等)について重点的に記載しています。

## 4 公表頻度

月1回、月末を目処に公表します。

# 2025年9月食料安全保障月報(第51号)

## 目次

### 概要編

I	2025年9月の主な動き	1
II	2025年9月の穀物等の国際価格の動向	4
III	2025/26年度の穀物需給(予測)のポイント	4
IV	2025/26年度の油糧種子需給(予測)のポイント	4
V	今月の注目情報「豪州及びカナダの穀物等の生産・輸出動向」	5

### (資料)

1-1~3	穀物等の主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較)	9
1-4	穀物等の国際価格の動向	12
1-5	サプライチェーン等に関する状況	13
2	穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移	14
3	穀物等の期末在庫率の推移(穀物全体、品目別)	15
4	加工食品の主な輸入原材料(穀物等を除く)の状況	17
5	食品小売価格の動向	21
6	海外の畜産物の需給動向(ALIC提供)	22
7	FAO食料価格指数	24

### 品目別需給編

I	穀物	
1	小麦	1
	＜米国＞	2025/26年度の輸出量は前年度から8.9%増の見込み
	＜カナダ＞	2025/26年度の生産量は上方修正され前年度並みの見込み(USDA)
	＜豪州＞	2025/26年度の生産量は前年度から1.0%減も史上4番目の見込み(ABARES)
	＜EU27＞	2025/26年度の生産量は前年度から14.7%増の見込み(EC)
	＜ロシア＞	2025/26年度の生産量は前年度から4.2%増の見込み
	＜ウクライナ＞	2025/26年度の生産量は前年度から1.7%減の見込み
	＜中国＞	2025/26年度の輸入量は前年度から43.9%増の見込み
2	とうもろこし	9
	＜米国＞	2025/26年度の生産量は、前年度から13.1%増加する見込み
	＜ブラジル＞	2025/26年度の生産量は、前年度から3.0%減少する見込み
	＜アルゼンチン＞	2025/26年度の生産量は、前年度から6.0%増加する見込み
	＜ウクライナ＞	2025/26年度の生産量は、前年度から19.4%増加する見込み
	＜中国＞	2025/26年度の生産量は、前年度から0.03%増加する見込み

3 コメ	1 5
<タイ>	2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 0.7%減少する見込み
<米国>	2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 6.0%減少する見込み
<中国>	2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 0.5%増加する見込み
<インド>	2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 0.7%増加する見込み
<ベトナム>	2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 2.8%減少する見込み
II 油糧種子	
大豆	2 1
<米国>	2025/26 年度の生産量は前年度から 1.5%減少する見込み
<ブラジル>	2025/26 年度の生産量は前年度から 3.6%増加する見込み
<カナダ>	2025/26 年度の生産量は前年度から 6.1%減少する見込み(AAFC)
<中国>	2025/26 年度の生産量は前年度から 1.7%増加する見込み
<アルゼンチン>	2025/26 年度の生産量は前年度から 4.7%減少する見込み
(参考1)本レポートに使用されている各国の市場年度について(2025/26 年度)	2 7
(参考2)単位換算表	2 7
(参考3)各国のクロープカレンダー一覧(主要品目毎)	2 8

【利用上の注意】

表紙写真: 米国インディアナ州の収穫作業が進む大豆畑。今年の作柄は良好で、1エーカー当たり 75~80 ブッシェルの単収を見込んでいる。(撮影日:2025 年9月 17 日 撮影者:Neil Mylet)

## (概要編)

## I 2025年9月の主な動き

### 主要穀物等の需給・相場等について

9月の米国農務省(USDA)の需給報告によれば、2025/26年度の状況について、品目別にみると、小麦については、カザフスタン、パキスタンで収穫面積・単収ともに前年度より減少、イランで単収が減少し生産量が減少するものの、EU、インドで収穫面積・単収ともに前年度より増加、ロシアで単収が増加し生産量が増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。ロシアのウクライナ侵攻に関連し、2022年3月に史上最高を更新した小麦の国際相場は、同年8月には侵攻前の水準まで低下したものの、ウクライナ産穀物の輸出再開に関する4者合意(黒海穀物イニシアティブ)については2023年7月にロシアが離脱し停止。現在、黒海の臨時回廊からの輸出が順調に機能しているものの、EU向け輸出の動向も含め注視が必要。

とうもろこしについては、EUで収穫面積が前年度より減少、ブラジルで単収が減少し生産量が減少するものの、米国、ウクライナ、ザンビアで収穫面積・単収ともに前年度より増加、アルゼンチンで収穫面積が増加し生産量が増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。

大豆については、アルゼンチンで収穫面積が前年度より減少するものの、ブラジルで収穫面積・単収ともに増加し生産量が増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。

いずれの品目も、旺盛な消費需要により期末在庫は依然としてタイトな状況であり、引き続き注視が必要。

FAO(国連食糧農業機関)が公表している食料価格指数については、主に穀物と乳製品の価格指数の低下が、肉、砂糖と植物油の上昇を相殺したこと等により、7月の130.0から、8月(最新値)は130.1とほぼ横ばい(参考:2024年8月121.7、2023年8月121.8、2022年8月138.7、2021年8月128.0、2020年8月95.7)。海上運賃については、バルチック海運指数(穀物輸送等に使用される外航ばら積み船の運賃指数)が、直近5カ年の平均値より約1割高い水準で推移。



写真:カナダ・アルバータ州

収穫が進む小麦畑

撮影日:2025年8月28日

撮影者:Lynn Dargis



写真:豪州・ニューサウスウェールズ州

開花期に入った小麦

撮影日:2025年9月10日

撮影者:Anne Wilkins

## ウクライナの生産・輸出動向

USDA の9月需給報告によれば、2025/26 年度のウクライナの小麦の生産量は、単収の減少を受け、前年度より2%減少し 2,300 万トンとなる見込み。また、輸出量は、生産量の減少等を受け、前年度より5%減少し 1,500 万トンとなる見込み。2025/26 年度のとうもろこしの生産量は、収穫面積・単収ともに増加することから、前年度より19%増加し 3,200 万トンとなる見込み。また、輸出量は、生産量の増加等を受け、前年度より24%増加し 2,550 万トンとなる見込み。

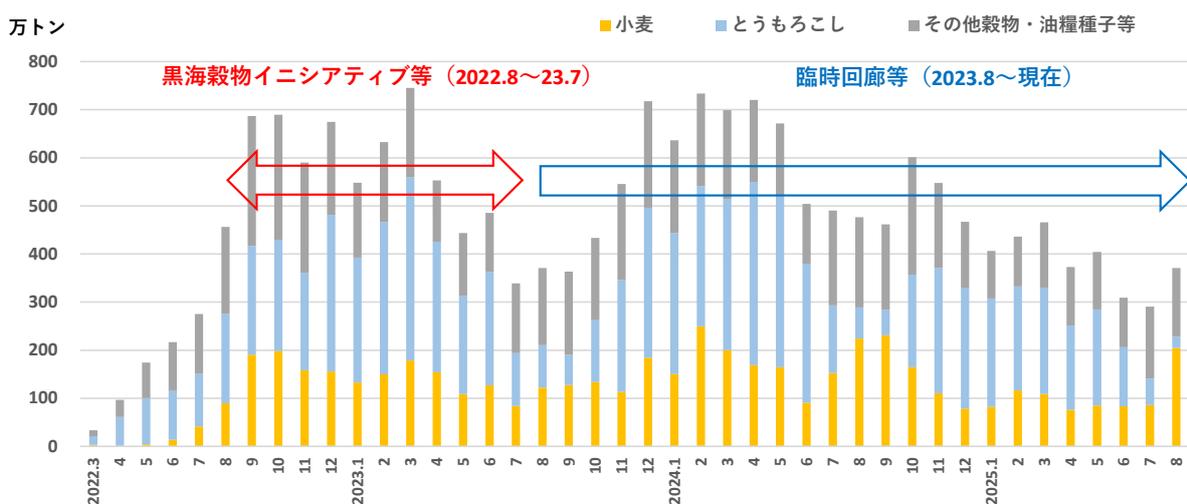
現地情報会社によれば、9月4日現在、2025/26 年度の冬小麦及び春小麦の収穫進捗率は 98%と収穫はほぼ終了した。とうもろこしについては、8月末現在、早生種は黄熟期から完熟期に入っており、西部及び北部では、未だ開花期から乳熟期の段階の圃場もある。ウクライナ経済・環境・農業省によれば、複数の州で 2026/27 年度の秋播き作物の作付けが始まっており、9月8日現在、秋播き作物の作付済面積は 72.75 万ヘクタール。うち、冬小麦は 3.99 万ヘクタール。

## 臨時回廊からの輸出状況

2022年7月22日の国連、ウクライナ、ロシア及びトルコの4者によるウクライナ産穀物の黒海経由での輸出再開に関する合意(黒海穀物イニシアティブ)により、同年8月以降、オデーサ港等3港からの輸出が再開したが、2023年7月17日にロシアが同イニシアティブからの離脱を表明し、輸出が停止した。

黒海穀物イニシアティブの停止後、ウクライナは、ルーマニア・ブルガリアの黒海沿岸を通過する新ルート「臨時回廊」を国際海事機関(IMO)に通報し、2023年8月以降、運用が開始された。現在、臨時回廊や、運河等を利用し、ルーマニアのコンスタンツァ港などを経由した輸出が行われている。輸出ルートのうち、EU域内を経由した輸出(鉄道又はトラック)は減少傾向にある一方、臨時回廊からの輸出量が大半を占めている。

## (参考)ウクライナの輸出量の推移(月毎)(2022年3月～2025年8月)



出典:旧農業政策食料省、ウクライナ穀物協会のデータをもとに農林水産省で作成

注:データは港湾、鉄道、陸路などすべての輸出の計。

## 1 EU:2025/26 年度のとうもろこしの生産量は前月から更なる下方修正

USDA によれば、2025/26 年度の EU のとうもろこし生産量は 5,530 万トンと、前月予測から 5% 下方修正され、前年度から 7% 減少し、過去 5 年平均を 12% 下回る見込み。収穫面積は 800 万ヘクタールと、前月予測から 5 万ヘクタール下方修正され、前年度から 8% 減少し、過去 5 年平均を 10% 下回る見込み。単収は 6.91 トン/ヘクタールと、前月予測の 7.21 トン/ヘクタールから下方修正されたものの、前年度の 6.81 トン/ヘクタールを上回る見込み。

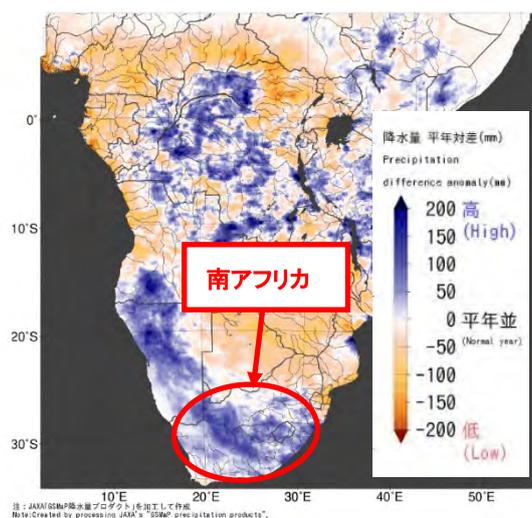
南東ヨーロッパのバルカン半島では、2 年連続で極めて厳しい夏の気象条件に見舞われている。記録的な冬小麦の収穫後、6 月には産地の大部分で降雨量が皆無となり状況は劇的に悪化し、7 月及び 8 月も高温乾燥型の天候が続いた。EU ではとうもろこしの作付面積が近年減少傾向にある。これは、多くの農家が、季節的に水分量に恵まれる冬作物や、干ばつに強いヒマワリへ作付けをシフトしていることによる。

9 月、ルーマニアの生産量は前月予測から 160 万トン減の 610 万トンに、ハンガリーは 80 万トン減の 360 万トンに、ブルガリアは 60 万トン減の 140 万トンに下方修正された。

## 2 南アフリカ:2024/25 年度のとうもろこしの単収は史上 3 番目の水準に

USDA によれば、2024/25 年度の南アフリカのとうもろこし生産量は 1,650 万トンと、前月予測から 5% 上方修正され、エルニーニョ現象による干ばつの影響により減産となった前年度から 23% 増加し、過去 5 年平均を 3% 上回る見込み。収穫面積は 300 万ヘクタールと、前月予測からの変更はなく、前年度から 1% 減少し、過去 5 年平均を 2% 下回る見込み。単収は 5.58 トン/ヘクタールと、前年度から 24% 増加し、過去 5 年平均を 5% 上回る見込み。作柄を決定づける重要な受粉期及び登熟期に降雨に恵まれ、史上 3 番目の単収を達成した。南アフリカのとうもろこしの作付けは、季節的な降雨の到来に応じて 10 月上旬から 1 月中旬にかけて行われる。中でも最適な作付時期は 11 月と 12 月である。2024 年 10 月から 12 月中旬にかけて、南アフリカの降雨量は平年を下回り、2025 年 1 月上旬の作付状況は不良であったが、1 月下旬の受粉期から 4 月の登熟期にかけて平年を上回る降雨に恵まれ(図)、作柄が改善した。

図:南アフリカの降水量(平年対差)  
(2025 年 3 月)



出典:農業気象情報衛星モニタリングシステム(JASMAI)

## 3 インド:2025/26 年度のとうもろこしの生産量は史上最高を記録

USDA によれば、2025/26 年度のインドのとうもろこし生産量は 4,300 万トンと、前月予測から 2% 上方修正され、前年度から 2% 増加し、史上最高を記録する見込み。収穫面積も前年度から 3% 増加し、史上最高の 1,150 万ヘクタール、単収は 3.74 トン/ヘクタールと前月予測から 2% 上方修正されるものの、前年度から 1% 減少する見込み。

インドのとうもろこしは、カリフ作(雨季)で総生産量の 70% が、ラビ作(乾季)で 30% が栽培されている。カリフ作の作付けは、南西モンスーンの降雨が始まる 6 月から始まり、ラビ作の作付けは 11 月から始まる。カリフ作とうもろこしの作付作業は予定通り進捗し、現在、十分な土壌水分の下、作物は順調に生長している。害虫・病害の発生もない模様。

## II 2025年9月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、8月末、190ドル/トン台前半で推移。9月に入り、世界的に小麦の供給が潤沢なこと等を受けて下落し、9月中旬現在、180ドル/トン台半ばで推移。

とうもろこしは、8月末、150ドル/トン台後半で推移。9月に入り、米中の関税交渉の不透明感等から一時的に150ドル/トン台半ばまで下落したものの、9月中旬現在、150ドル/トン台後半で推移。

コメは、8月末、380ドル/トン台半ばで推移。9月に入り、世界的に供給が潤沢なことを受け価格はほぼ横ばいで推移し、9月中旬現在、390ドル/トン台半ばで推移。

大豆は、8月末、380ドル/トン台前半で推移。9月に入り、米中の関税交渉の不透明感等を受けて360ドル/トン台後半まで下落したものの、米国産大豆の良好な輸出成約等を受けて上昇し、9月中旬現在、370ドル/トン台後半で推移。

(注)小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場(期近物)、コメはタイ国家貿易委員会価格

## III 2025/26年度の穀物需給(予測)のポイント

2025/26年度の世界の穀物全体の生産量は、前年度より2.7%増の29.30億トン。消費量は、前年度より1.7%増の29.33億トンとなり、生産量が消費量を下回る見込み。

期末在庫量は前年度より減少し、期末在庫率も前年度を下回り26.0%となる見込み(P14資料2参照)。

生産量は、前年度より、小麦、とうもろこし、コメは増加し、穀物全体では増加となり、29.30億トンの見込み。

消費量は、前年度より、小麦、とうもろこし、コメは増加し、穀物全体では増加となり、29.33億トンの見込み。

貿易量は、前年度より、小麦、とうもろこし、コメは増加し、穀物全体では増加となり、5.22億トンの見込み。

期末在庫量は、7.61億トンと前年度より減少、期末在庫率も前年度より減少する見込み。

(注:数値は9月のUSDA「PS&D」による)

## IV 2025/26年度の油糧種子需給(予測)のポイント

2025/26年度の油糧種子全体の生産量は前年度を上回り6.92億トン。消費量は前年度を上回り6.87億トンとなり、前年度に引き続き、生産量が消費量を上回る見込み。

期末在庫量は、前年度より増加するものの、期末在庫率は前年度を下回り21.1%となる見込み。

(注:数値は9月のUSDA「PS&D」による)

## V 今月の注目情報: 豪州及びカナダの穀物等の生産・輸出動向

2025/26年度の豪州の小麦、大麦、菜種は、主要産地の大部分で作付期(4~7月)に乾燥型の天候となり厳しいスタートを切った。カナダでも同様に、主要産地の3割以上で作付期(4~6月)に水分不足となり厳しいスタートを切っている。2025/26年度の生産・輸出動向等についてまとめた。

注: 文中の「2025/26年度」等は市場年度で、豪州の小麦は2025年10月から2026年9月、カナダの小麦は2025年8月から2026年7月。市場年度は国や作物によって異なる(品目別需給編参照)。

### 1 豪州の生産・輸出動向

#### (1) 生産動向

豪州農業資源経済科学局(ABARES)の「Australian Crop Report」(2025.9.2)によれば、2025/26年度の冬作物(小麦、大麦、菜種等)の生産量は、前年度から2%増加し、6,200万トンとなる見込み。これは、過去10年平均を26%上回り、過去3番目に高い水準となる。

サウスオーストラリア州(SA州)、ビクトリア州(VIC州)西部、ニューサウスウェールズ州(NSW州)南部では、作付期(4~7月)に乾燥型の天候に見舞われ、土壌水分が限られた状態での作付けを強いられた(図1)ものの、SA州及びVIC州では、7月の降雨が平年を上回り、8月も十分な降雨に恵まれ、作物の生長は3~4週間の遅れがみられるものの、良好な単収が見込まれている。一方、NSW州南部では、作物の生長を維持する最低限の降雨量に留まっており、更なる降雨が望まれている(図2)。

ウエスタンオーストラリア州(WA州)、クイーンズランド州(QLD州)、NSW州北部では、シーズンを通じて適時適切な降雨に恵まれ、作柄は良好となっている。

豪州気象局は最新3カ月(9~11月)の降雨量について、QLD州及びNSW州では同期間の降雨量が平年を上回る確率は65~80%、VIC州及びSA州では55~70%、WA州では35~50%と予想している。全国的に概ね良好な降雨見通しとなっており、実現すれば更なる単収の引上げが期待される。

品目別には、2025/26年度の小麦の生産量は3,380万トンと、作付面積の減少により前年度から1%減少するものの、過去10年平均を22%上回る見込み。作付面積の前年度からの減少は、南部の生産地域において、作付期間中に土壌水分量と降水量が

図1 豪州の土壌水分量(平年対比)(2025.4.1~4.15)  
SA州、VIC州、NSW州南部で土壌水分不足  
WA州、QLD州、NSW北部で十分な土壌水分量

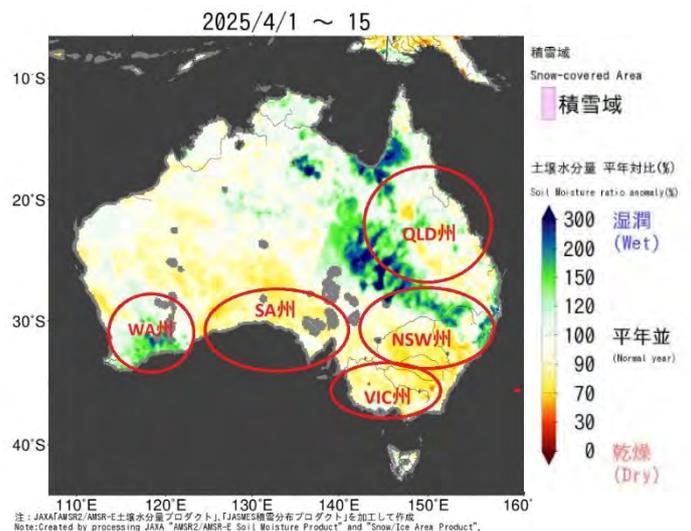
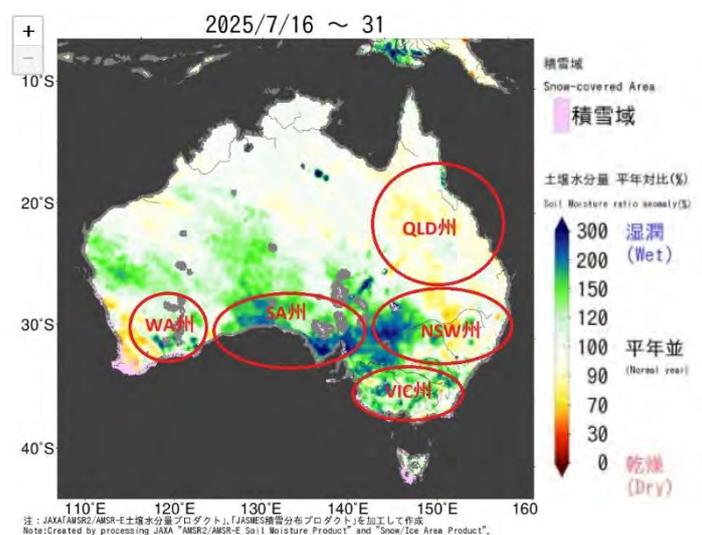


図2 豪州の土壌水分量(平年対比)(2025.7.16~7.31)  
SA州、VIC州は十分な土壌水分量に  
NSW南部は最低限の土壌水分量に留まる



出典: 農業気象情報衛星モニタリングシステム(JASMAI)

不足したことを受け、生産者の一部が小麦から大麦に作付けをシフトしたことが一因とみられる。

2025/26 年度の大麦の生産量は 1,460 万トンと、前年度から 10% 増加し、過去 10 年平均を 23% 上回る見込み。

2025/26 年度の菜種の生産量は 640 万トンと、前年度から 1% 増加し、過去 10 年平均を 34% 上回る見込み(図3)。

## (2) 輸出動向

小麦について、豪州の主要輸出先国はインドネシア、中国、フィリピン、韓国等のアジア諸国である。3 年連続の豊作により 2021 年から 2023 年まで輸出量が大きく増加したものの、2024 年は乾燥による生産量の減少と、主として中国の小麦生産量増加により、同国への輸出量が大きく減少したことに伴い、輸出量が減少した(図4)。USDA によれば、2025/26 年度の小麦輸出量は 2,500 万トンと、前年度と変わらず、過去 10 年平均を 26% 上回る見込み。

大麦について、2024 年の豪州の主要輸出先国は中国、日本、ベトナム、メキシコ、サウジアラビア等となっており、中国が全体の 75% を占める。中国は豪州にとって主要な輸出先国であるが、2020 年 5 月、中国が豪州産大麦に対し 73.6% のアンチダンピング関税及び 6.9% の相殺関税を課したことにより中国向けの輸出が激減した。2023 年 8 月、中国は国内の大麦供給ではニーズを満たせないことから関税を撤廃。その後、中国向け大麦輸出は急速に増加している(図5)。USDA によれば、2025/26 年度の大麦輸出量は 830 万トンと、前年度から 4% 増加し、過去 10 年平均を 24% 上回る見込み。

菜種について、豪州はカナダに次ぐ世界第 2 位の輸出国であり、2025/26 年度では世界全体の貿易の 28% を占める見込み。主要輸出先国は、EU が約 5 割を占め、次いで日本、アラブ首長国連邦、パキスタン等となっている(図6)。2020 年、中国は黒脚病検出を理由に豪州産菜種の実質的な輸入停止を実施した。以降、技術的議論が継続されていたが、報道によれば、中国とカナダの菜種を巡る貿易摩擦の拡大を受け、中国・豪州間で試験的な出荷の準備が進展しているという。USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は 490 万トンと、前年度から 2% 減少するもの

図3 豪州の小麦、大麦、菜種の生産量の推移

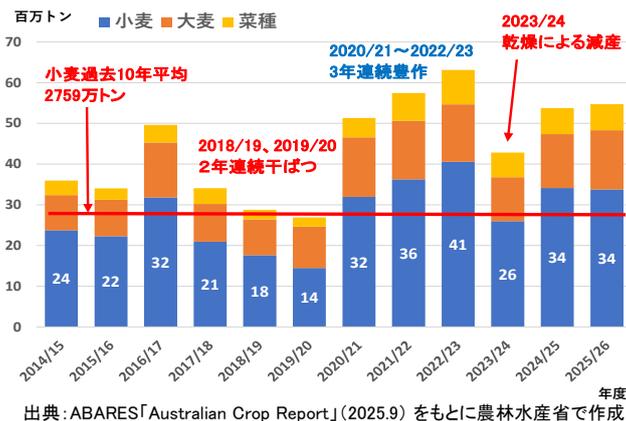


図4 豪州の小麦輸出量及び輸出先国の推移

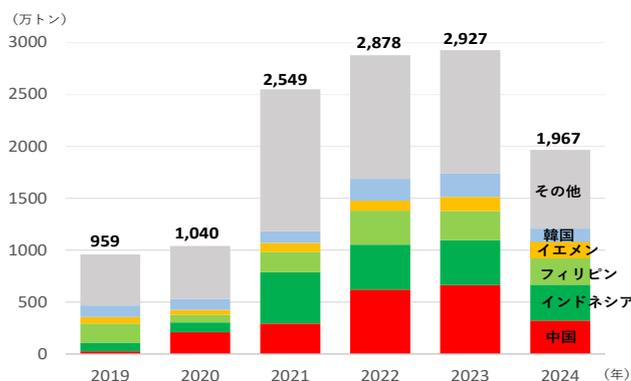


図5 豪州の大麦輸出量及び輸出先国の推移

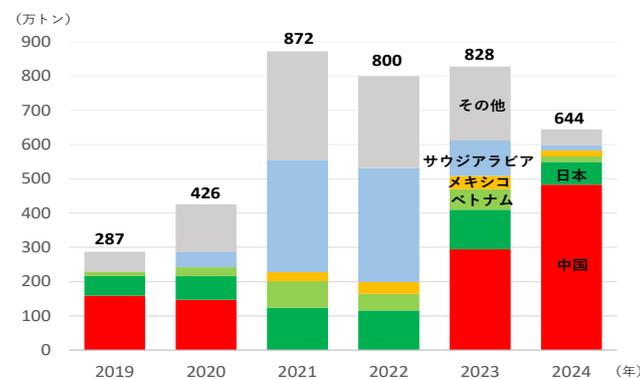
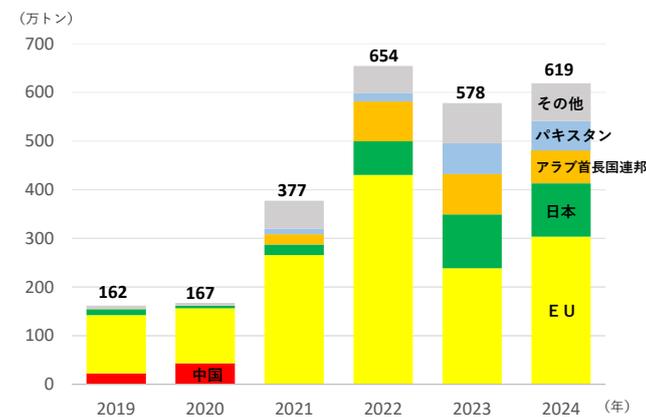


図6 豪州の菜種輸出量及び輸出先国の推移





## (2) 輸出動向

小麦について、カナダの主要輸出先国は、インドネシア、中国、日本等のアジア向け、米国、ペルー、コロンビア等の北・中米向け、イタリア等の欧州向け、モロッコ等のアフリカ向けと多岐にわたっており(図 10)、ロシア、EU に次ぐ世界第3位の輸出国である。AAFC によれば、2025/26 年度の小麦の輸出量は 2,590 万トンと、前年度から 10%減少する見込み。これはデュラム小麦の輸出量が 480 万トンと前年度から 16%減少するとともに、普通小麦についても 2,110 万トンと前年度から 8%減少することによる。

大麦について、カナダの主要輸出先国は、中国が全体の約7割を占め、次いで日本、米国の順(図 11)。AAFC によれば、2025/26 年度の輸出量は、前年度と変わらず 284 万トンとなる見込み。

菜種について、カナダは世界最大の輸出国であり、主要輸出先は、中国が全体の約7割を占め、次いで日本、メキシコ等となっている(図 12)。2025 年8月、中国はカナダ産菜種の輸入に対し 75.8%の保証金納付を義務付ける暫定的なアンチダンピング措置を発表した。これは本年3月のカナダ産菜種油及び油粕への 100%の追加関税に続く措置である。これらの措置は、カナダの菜種輸出の減少要因となり、生産者の一部は菜種から小麦に作付けをシフトするとみられている。AAFC によれば、2025/26 年度の菜種の輸出量は、前年度から 26%減少し 700 万トンとなる見込み。

大豆について、カナダは世界第5位の輸出国であり、主要輸出先国は、中国が 23%を占め、次いでイラン、アルジェリア、日本、米国等となっている(図 13)。AAFC によれば、2025/26 年度の大豆の輸出量は、前年度から 0.9%減少し 535 万トンとなる見込み。

## 3 今後の動向

2025/26 年度は、豪州、カナダともに、生育初期に乾燥型の天候に見舞われ厳しいスタートとなったが、その後の降雨により生育状況は尻上がりに改善した。現在、カナダでは収穫作業が進んでおり、豪州でも 10 月から収穫が始まる。今後の天候状況に注目したい。

中国は、豪州及びカナダにとって主要な輸出先であり、中国の輸入動向は両国の輸出に大きな影響を与える。また、豪州の大麦、カナダの大麦、菜種について、中国に次ぐ第2位の輸出先国は日本となっていることから、中国の輸入動向を含め、豪州・カナダの輸出動向を引き続き注視していきたい。

図 10 カナダの小麦輸出先国(2024 年)

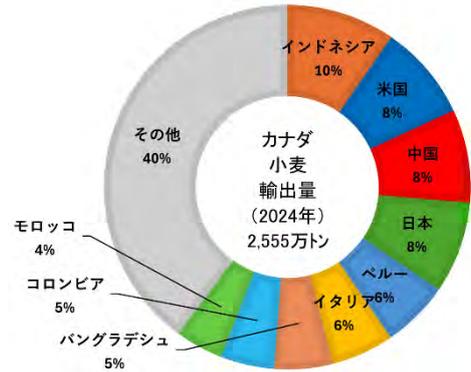


図 11 カナダの大麦輸出先国(2024 年)

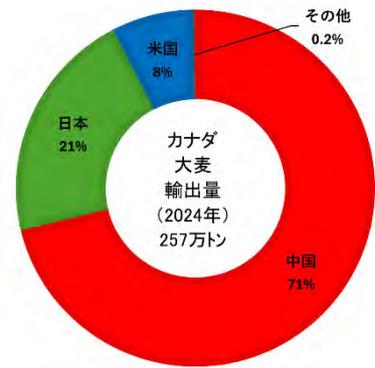


図 12 カナダの菜種輸出先国(2024 年)

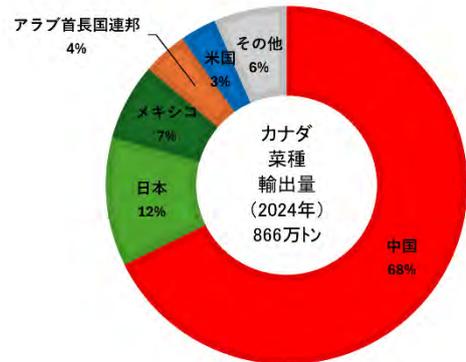
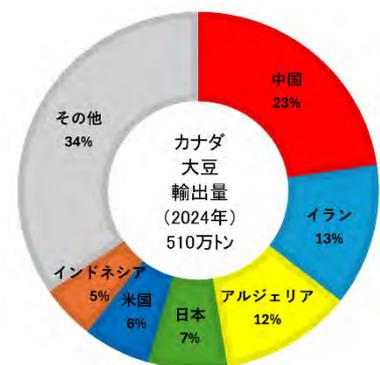


図 13 カナダの大豆輸出先国(2024 年)



出典: S&P Global Intelligence をもとに農林水産省で作成

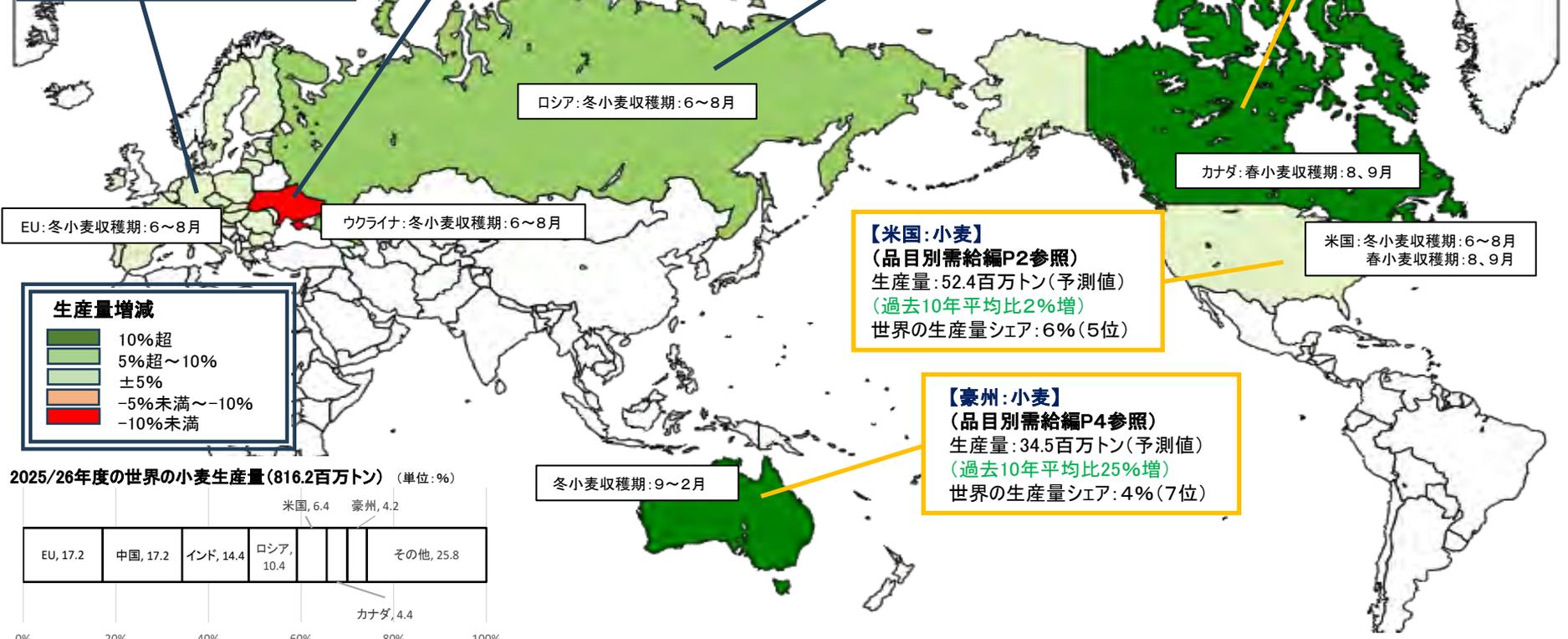
# 資料1-1 小麦の主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2025/26年度(9月版)

**【EU:小麦】(品目別需給編P5参照)**  
 生産量:140.1百万トン(予測値)  
 (過去10年平均比4%増)  
 世界の生産量シェア:17%(1位)

**【ウクライナ:小麦】(品目別需給編P7参照)**  
 生産量:23.0百万トン(予測値)  
 (過去10年平均比12%減)  
 世界の生産量シェア:3%(9位)

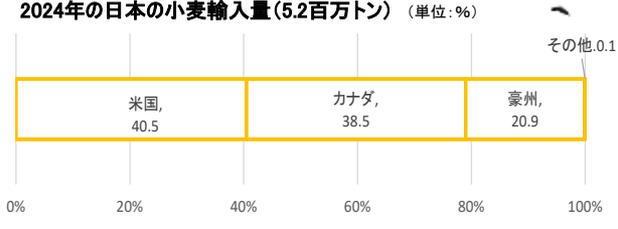
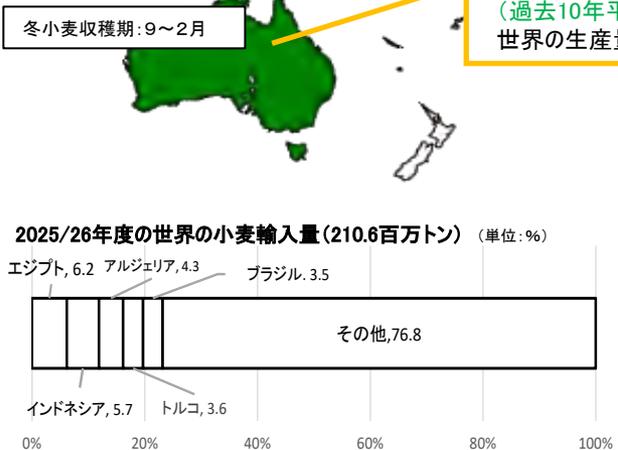
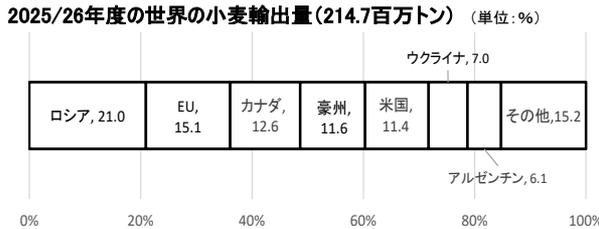
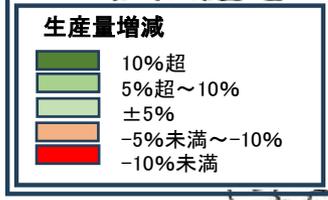
**【ロシア:小麦】(品目別需給編P6参照)**  
 生産量:85.0百万トン(予測値)  
 (過去10年平均比8%増)  
 世界の生産量シェア:10%(4位)

**【カナダ:小麦】(品目別需給編P3参照)**  
 生産量:36.0百万トン(予測値)  
 (過去10年平均比13%増)  
 世界の生産量シェア:4%(6位)



**【米国:小麦】(品目別需給編P2参照)**  
 生産量:52.4百万トン(予測値)  
 (過去10年平均比2%増)  
 世界の生産量シェア:6%(5位)

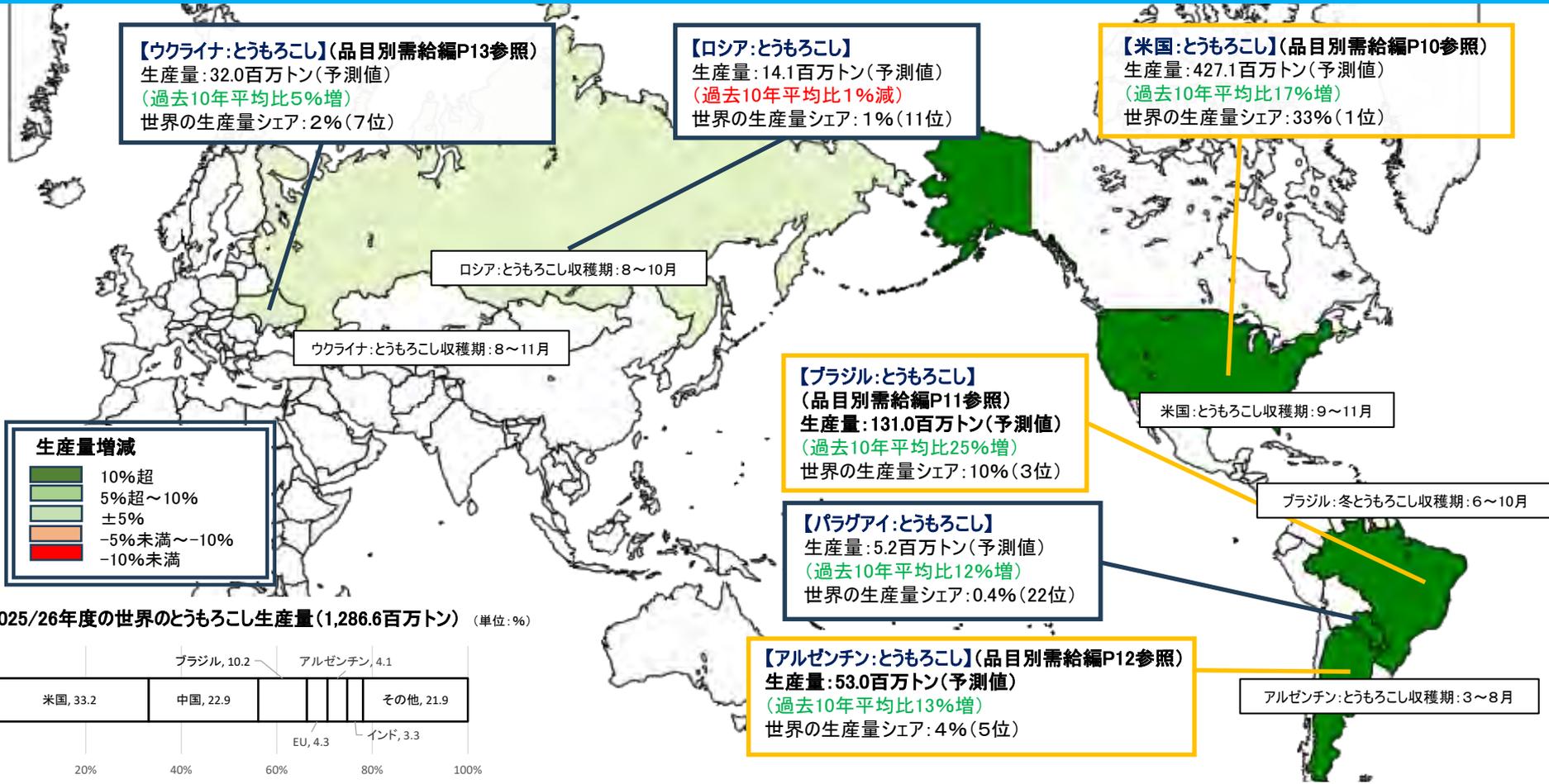
**【豪州:小麦】(品目別需給編P4参照)**  
 生産量:34.5百万トン(予測値)  
 (過去10年平均比25%増)  
 世界の生産量シェア:4%(7位)



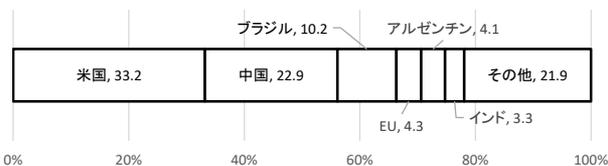
○ 2023年度の日本の小麦輸入量は510万トンであり、日本の小麦国内消費仕向量(631万トン、うち食用は494万トン)の80.9%を占める。  
 ○ 輸入小麦の1人1日当たり供給熱量は238kcalと、1人1日当たり総供給熱量(2,203kcal)の10.8%を占める。

出典:USDA「PS&D」(2025.9)、財務省「貿易統計」(2024年輸入量)、農林水産省「令和5年度食料需給表」(破線枠内)、AMIS「Supply and demand balances manual」(収穫期)をもとに農林水産省で作成。

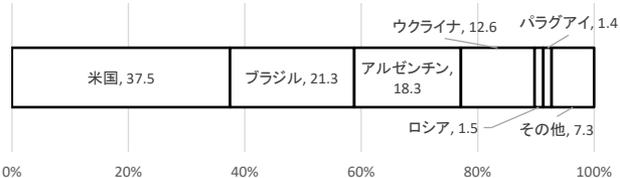
# 資料1-2 とうもろこしの主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2025/26年度(9月版)



2025/26年度の世界のとうもろこし生産量(1,286.6百万トン) (単位:%)



2025/26年度の世界のとうもろこし輸出量(201.7百万トン) (単位:%)



2025/26年度の世界のとうもろこし輸入量(193.2百万トン) (単位:%)



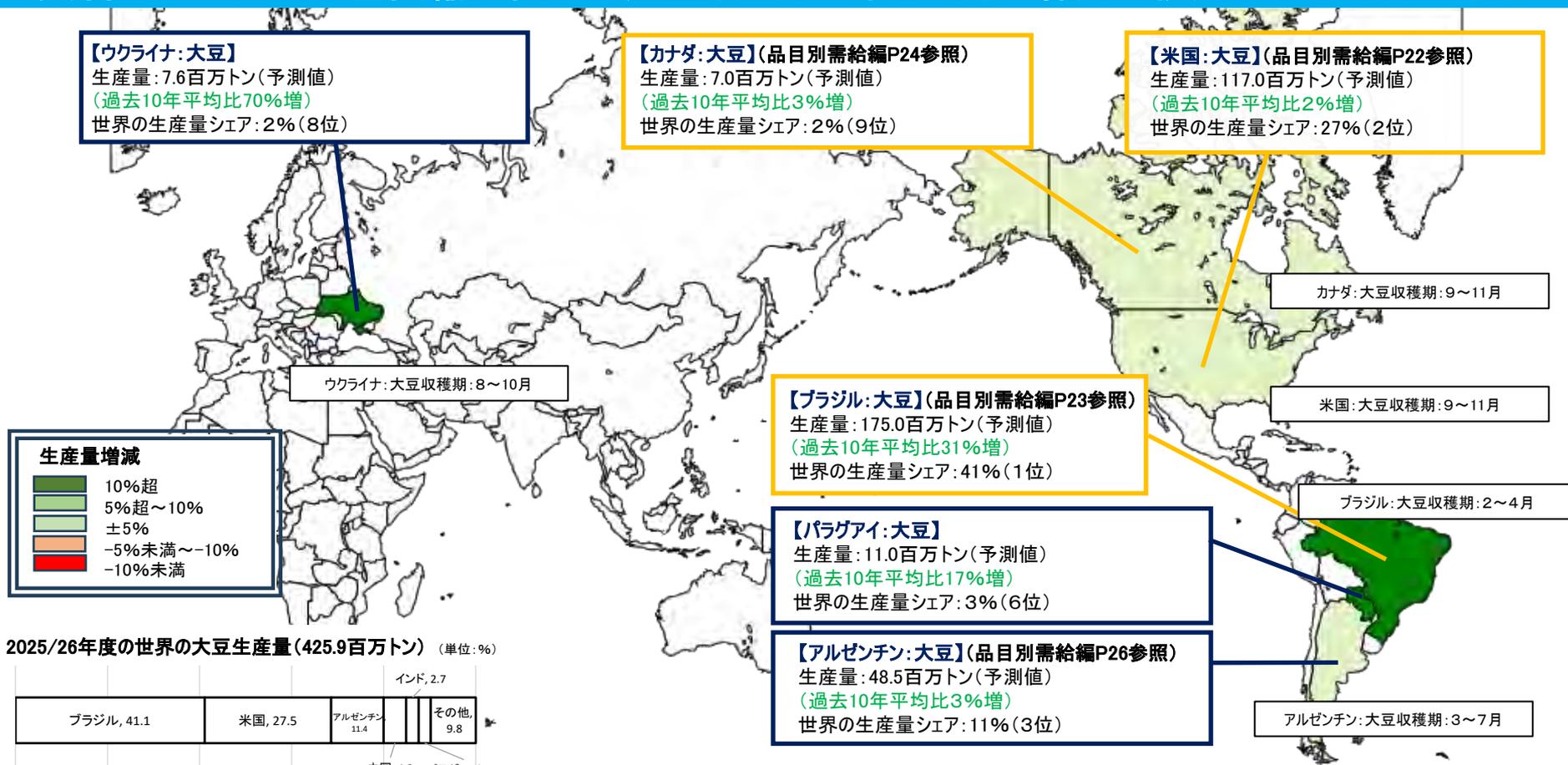
2024年の日本のとうもろこし輸入量(15.3百万トン) (単位:%)



○ 2023年度の日本のとうもろこし輸入量は1,499万トンと、日本のとうもろこし国内消費仕向量(1,486万トン、うち飼料用は1,159万トン)のほぼ全量を占める。

出典:USDA「PS&D」(2025.9)、財務省「貿易統計」(2024年輸入量)、農林水産省「令和5年度食料需給表」(破線枠内)、AMIS「Supply and demand balances manual」(収穫期)をもとに農林水産省で作成。

# 資料1-3 大豆の主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2025/26年度(9月版)



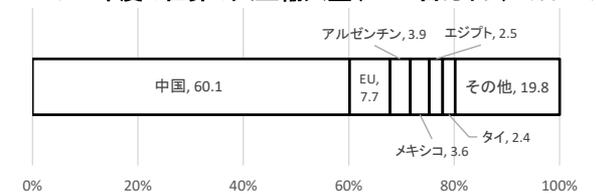
2025/26年度の世界の大豆生産量(425.9百万トン) (単位:%)



2025/26年度の世界の大豆輸出量(187.8百万トン) (単位:%)



2025/26年度の世界の大豆輸入量(186.2百万トン) (単位:%)



2024年の日本の大豆輸入量(3.17百万トン) (単位:%)



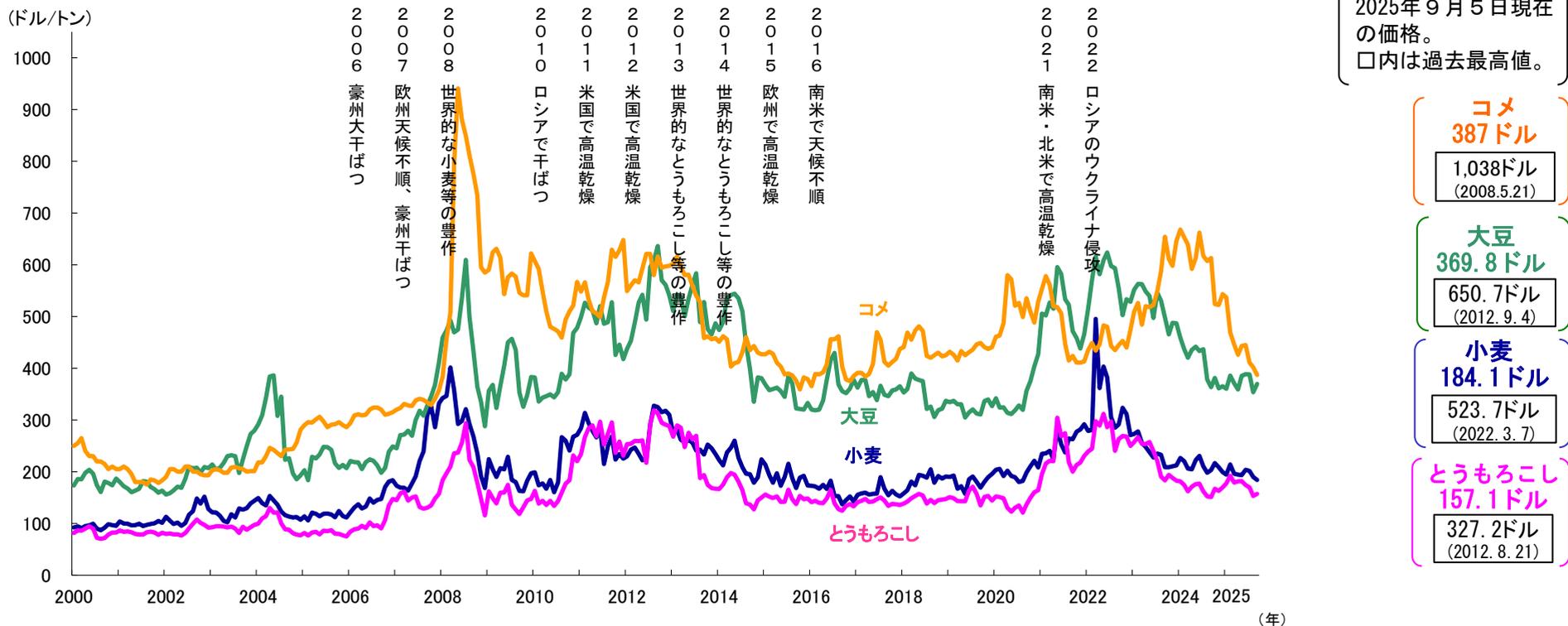
○ 2023年度の日本の大豆輸入量は307万トンであり、日本の大豆国内消費仕向量(356万トン、うち大豆油などの加工用は255万トン、食用は87万トン)の86.2%を占める。  
○ 輸入大豆の1人1日当たり供給熱量は55kcalと、1人1日当たり総供給熱量(2,203kcal)の2.5%を占める。

出典:USDA「PS&D」(2025.9)、財務省「貿易統計」(2024年輸入量)、農林水産省「令和5年度食料需給表」(破線枠内)、AMIS「Supply and demand balances manual」(収穫期)をもとに農林水産省で作成。

# 資料 1-4 穀物等の国際価格の動向 (ドル/トン)

- とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から穀物等価格は下落。2020年後半から南米の乾燥、中国の輸入需要の増加、2021年の北米の北部の高温乾燥等により上昇。2022年、ロシアのウクライナ侵攻により、小麦は史上最高値を更新も、ウクライナからの臨時回廊等による輸出再開などもあり侵攻前の水準まで下落。とうもろこし、大豆はウクライナ侵攻時に高騰も、ブラジル等の豊作から侵攻前の水準まで下落。コメは、2022年9月以降、インドの輸出規制強化、インドネシアの需要増等から上昇も、2024年以降、インドの輸出規制解除等を受け下落。
- 穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要等により、2008年以前を上回る水準で推移。

## □ 穀物等の国際価格の動向



注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格(セツルメント)である。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。

注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

# 資料 1-5 サプライチェーン等に関する状況

## ○サプライチェーン等に大きな影響を与える情報は特段なし (2025年8月25日時点)

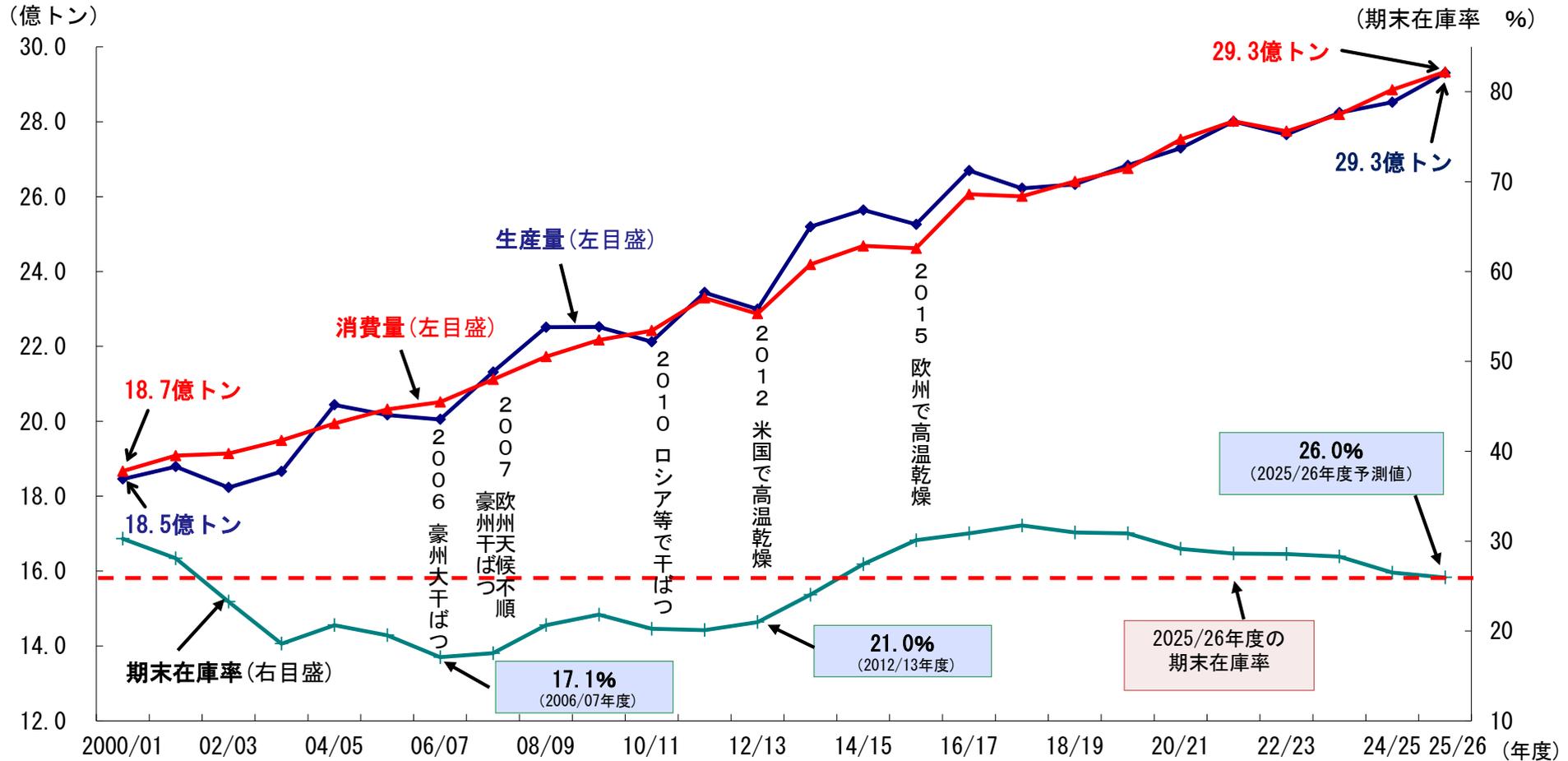
生産国の情報	チョークポイント情報	その他
<p>○米国・ブラジル 主要河川の流量変動によるサプライチェーンへの影響に関する情報は特段なし。</p> <p>○アルゼンチン パラナ川の水位が低い状況だが、サプライチェーンへの影響に関する情報は特段なし。</p> <p>○カナダ 中国がカナダ産菜種に75.8%の関税を課したことで、カナダは最大の輸出市場を失い、価格下落や在庫過剰に直面。</p> <p>○豪州 中国がカナダ産菜種に関税を課したことで、豪州産菜種の輸出増へ期待が高まっている。</p> <p>○インドネシア インドネシアの2025/26年度のパーム油輸出は、EU・米国との関税緩和(米国のパーム油関税はマレーシア、インドネシアともに19%(8月7日時点)。EUのパーム油関税は7月にIEU-CEPAについて政治合意し今後0となる見込み。)により、前年比で増加見込み。</p>	<p>○パナマ運河 パナマ運河の通行に関し特段問題なし。7月のパナマ運河通行数は、1日平均33.1隻と前月31.6隻と比較して増加。前年同月29.9隻と比べても増加。</p> <p>○スエズ運河 紅海の安全保障リスクがあるものの、中国系船社は同海域の利用を継続。</p> <p>○バブ・エル・マンデブ海峡周辺 フーシ派はイスラエルと取引する企業の船舶を国籍を問わず攻撃対象とすると宣言。ただし、同海峡付近を航行する船舶が「制裁対象」と関係ないことを示した場合には安全な通行を保証。</p>	<p>○荷積みの混乱 ロッテルダム港、ハンブルク港、アントワープ港などの北欧の主要港では継続的な混雑で、利用可能な輸送能力が減少。品目への直接的な言及はないが、輸送能力低下が運賃増につながる可能性。</p> <p>○アルゼンチン輸出税一時的に撤廃 アルゼンチン政府は、9月22日、とうもろこしや大豆を含む穀物及びその副産物について、輸出税を一時的に撤廃すると発表。期限は、10月31日又は申告された輸出額が70億米ドルに相当する額に達する日のいずれか早い方までとしていたが、輸出額の上限に達したため、9月25日から再び輸出税を課すこととなった(2025年9月25日時点)。</p> <p>○米国関税政策によるコンテナ運賃への影響 米国の関税政策により、上半期のコンテナ運賃は急騰と急落を繰り返している。下半期は供給過剰と追加関税により運賃は下落と予測。</p>

## 資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

○ 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2025/26年度は、2000/01年度に比べ1.6倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。

○ 2025/26年度の期末在庫率は、消費量が生産量を上回り、前年度より減少し、26.0%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

### □ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移

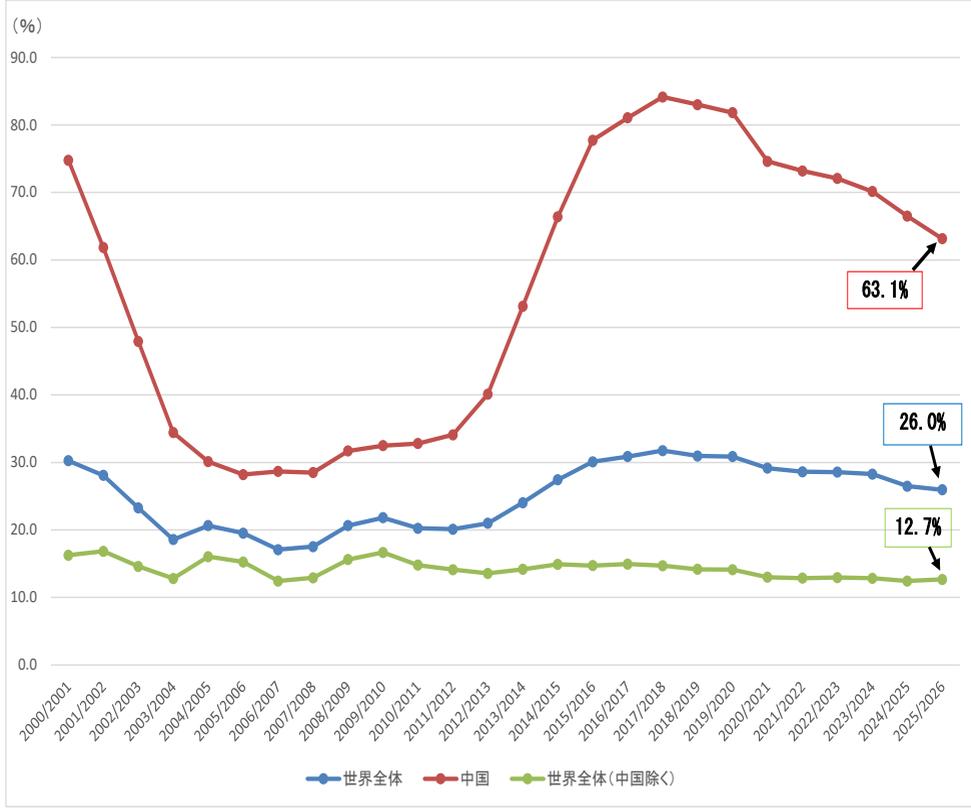


資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (September 2025)、「PS&D」

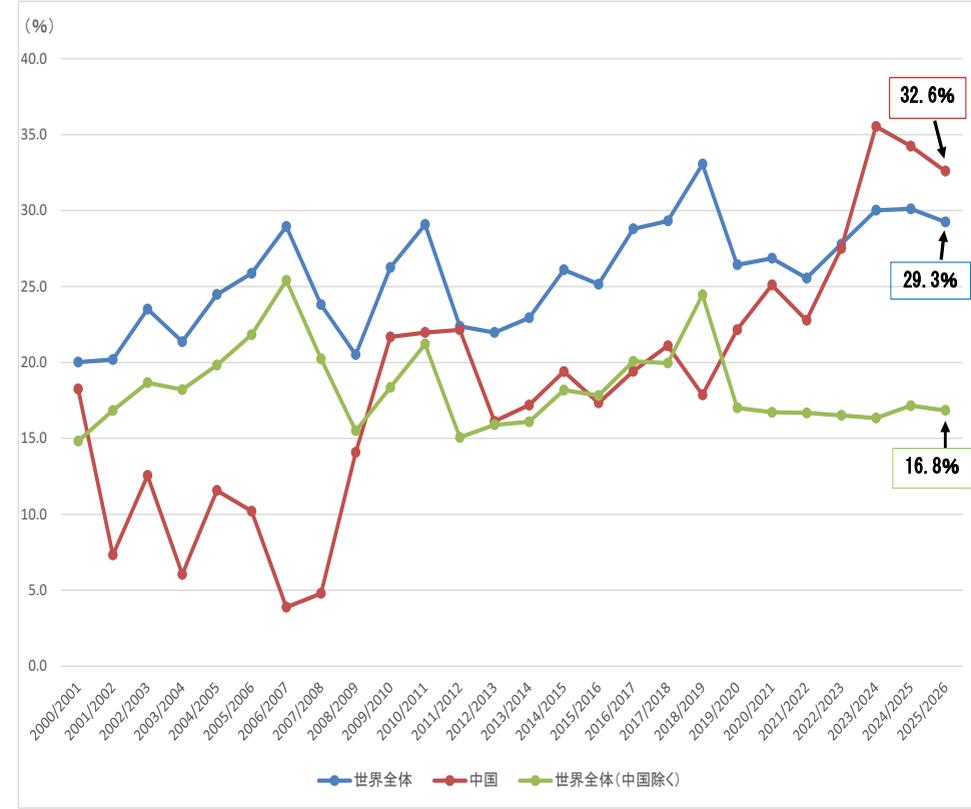
(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

# 資料 3-1 穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、大豆）

○ 穀物全体の期末在庫率の推移



○ 大豆の期末在庫率の推移



資料：米国農務省「PS&D」(September 12, 2025)

注：1)穀物はとうもろこし、小麦、コム等(大豆除く)。

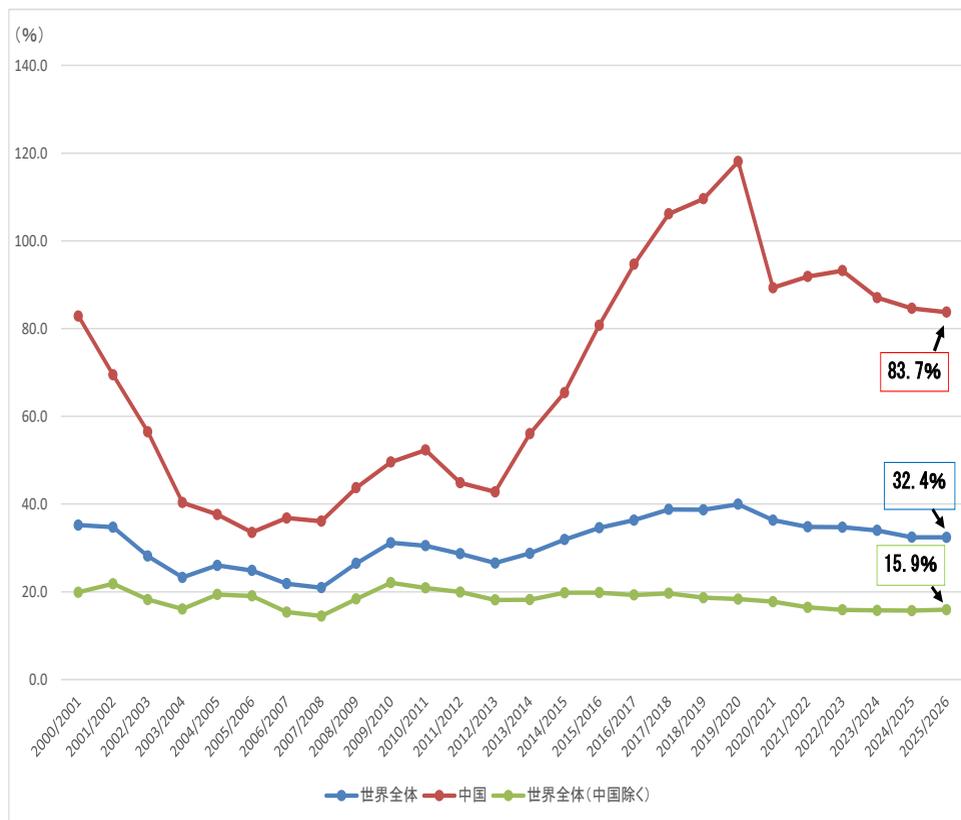
2)世界の期末在庫率(%)=期末在庫量/(消費量+輸出量-輸入量)×100 ※ただし大豆については、世界の期末在庫率(%)=期末在庫量/消費量×100

3)中国の期末在庫率(%)=中国の期末在庫量/(中国の消費量+中国の輸出量)×100

4)中国除く期末在庫率(%)=中国除く期末在庫量/(中国除く消費量+中国除く輸出量)×100

# 資料 3-2 穀物等の期末在庫率の推移（小麦、とうもろこし）

## ○ 小麦の期末在庫率の推移



資料：米国農務省「PS&D」(September 12, 2025)

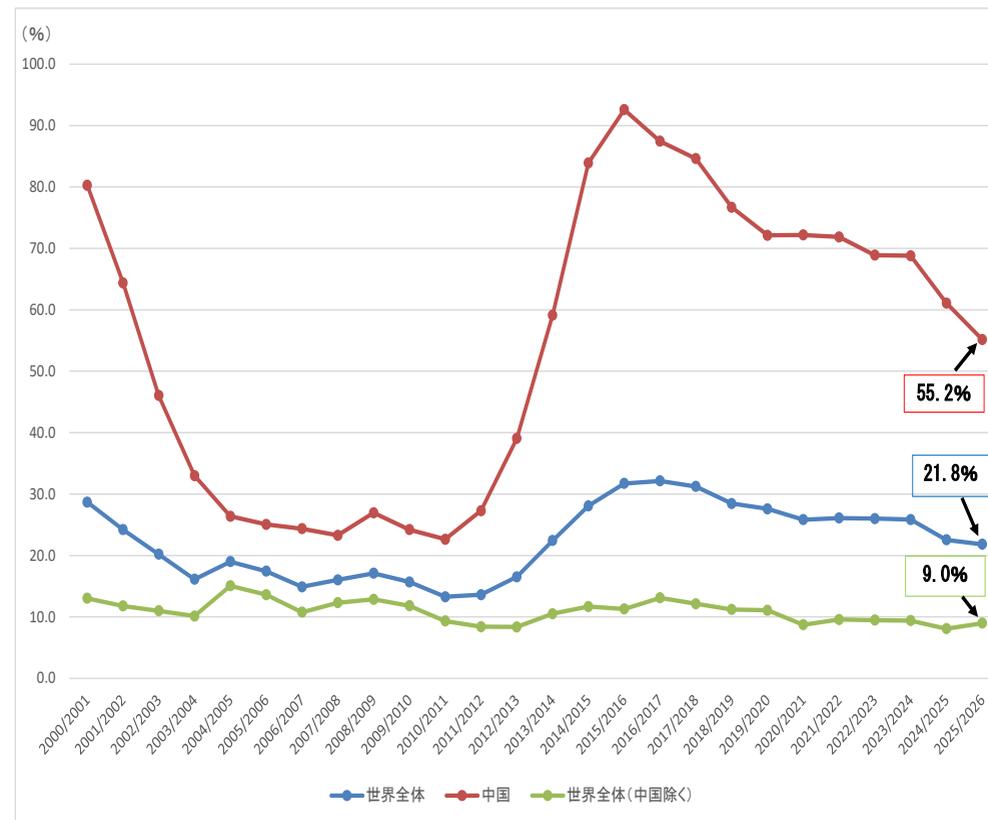
注：1)小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

2)世界の期末在庫率(%)=期末在庫量/(消費量+輸出量-輸入量)×100

3)中国の期末在庫率(%)=中国の期末在庫量/(中国の消費量+中国の輸出量)×100

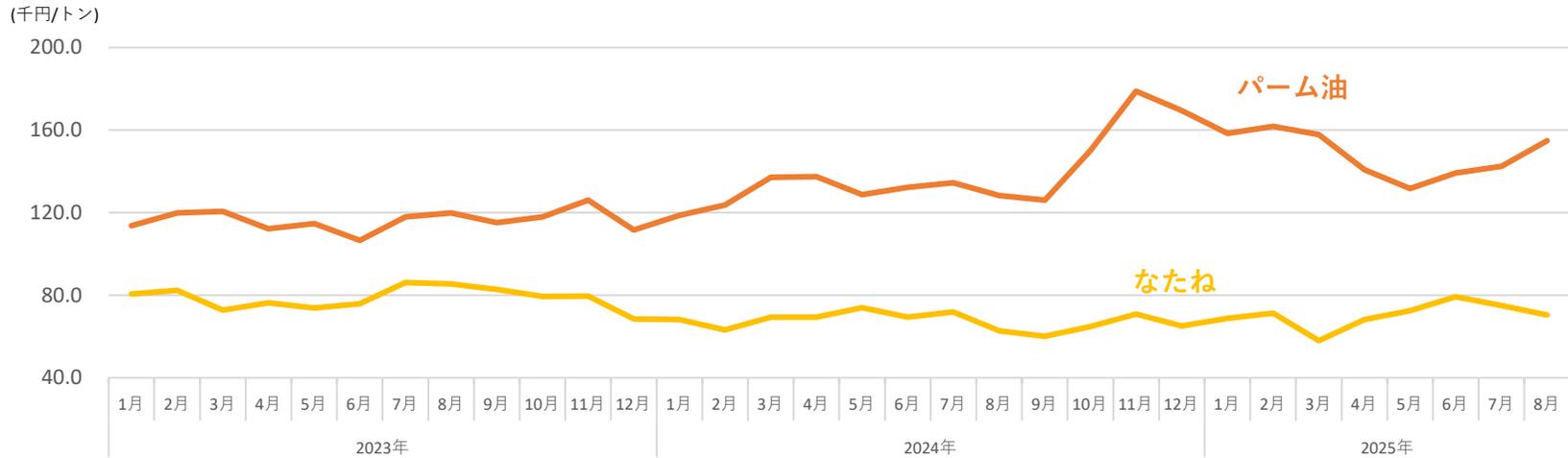
4)中国除く期末在庫率(%)=中国除く期末在庫量/(中国除く消費量+中国除く輸出量)×100

## ○ とうもろこしの期末在庫率の推移



# 資料 4 - 1 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の動向

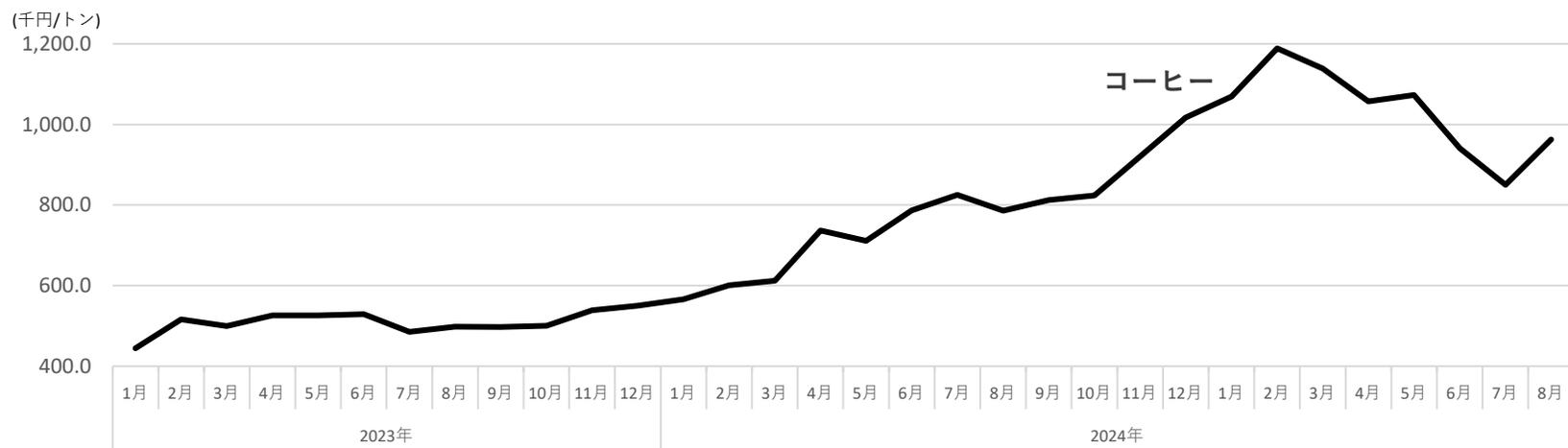
- パーム油については、インドネシアのバイオ燃料政策等の影響で2024年10月以降上昇したが、その後マレーシアとインドネシアのパーム油生産量増加や在庫の増加見通し等により下落。直近では、インドからの堅調な祝祭需要等により上昇傾向にある。
- なたねについては、概ね安定している。
- コーヒーについては、ブラジルにおける天候不順やベトナムにおける干ばつによる収穫量減少等により、2024年以降上昇しているが、直近では米国の関税政策によりブラジルの輸出先に変更が生じたが、売り急ぎをしなかったため、上昇に転じている。



2025年9月22日現在  
□内は2023年1月以降の最高値。

パーム油  
154.8千円/トン  
178.8千円/トン  
(2024.11)

なたね  
70.4千円/トン  
86.2千円/トン  
(2023.7)



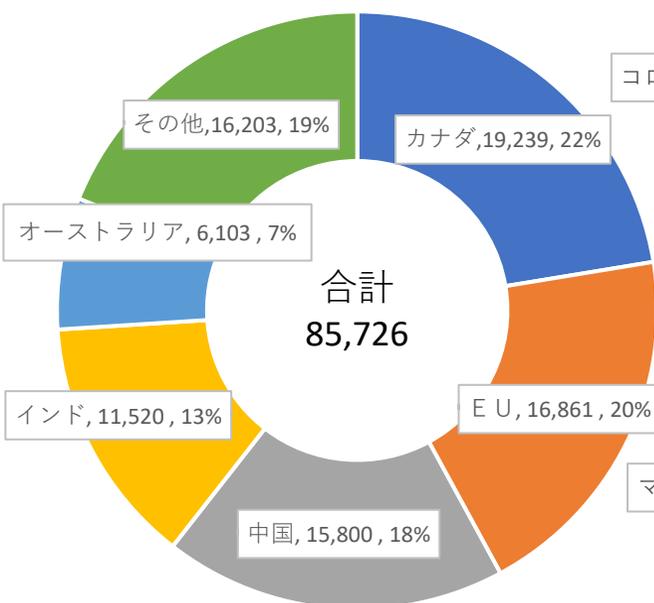
コーヒー  
963.0千円/トン  
1188.8千円/トン  
(2025.2)

※ なたねの国際価格についてはカナダウィニペグなたね市場の先物価格（期近物）を、パーム油の国際価格についてはマレーシアパーム油市場の先物価格（期近物）を、コーヒーの国際価格については国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均を用い、為替レートから円に換算して算出。

# 資料 4-2 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の生産量及び輸入先

## ○主要生産国の生産状況（単位：千トン）

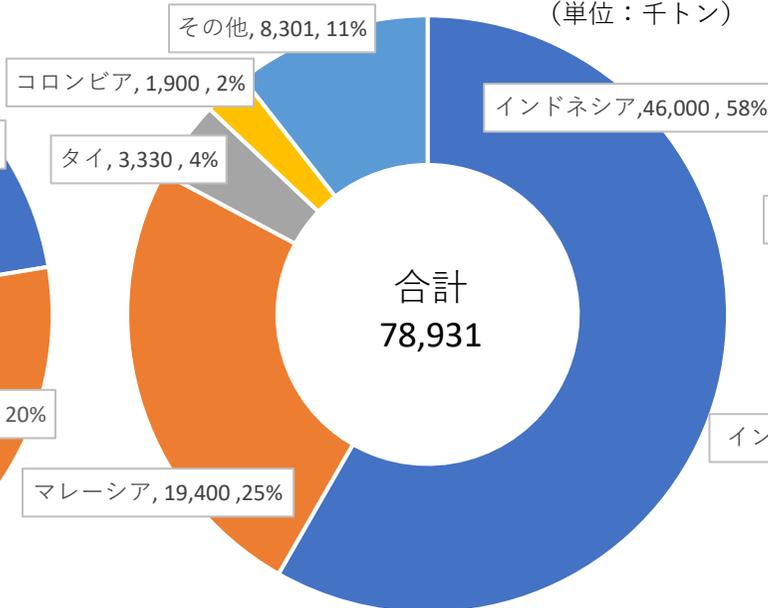
なたね生産量（2024/25）



※米国農務省 (PS&D)  
2025年9月時点

パーム油生産量（2024/25）

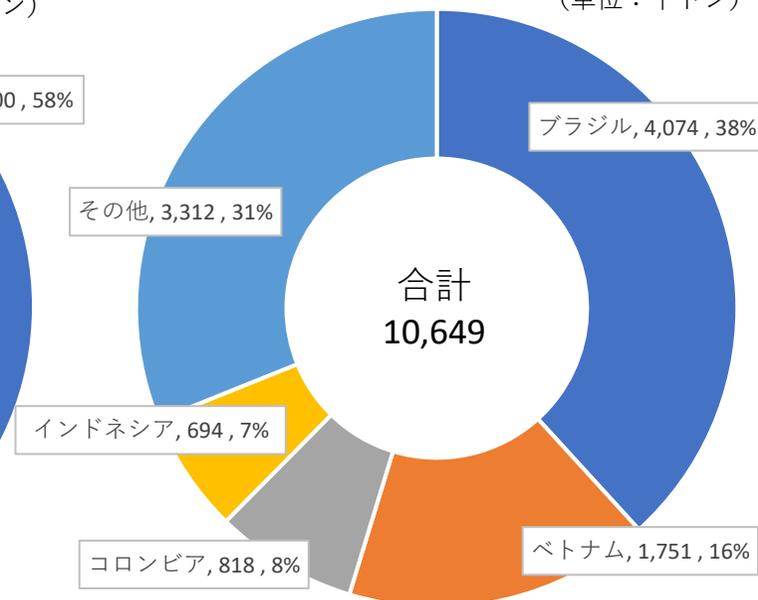
（単位：千トン）



※米国農務省 (PS&D)  
2025年9月時点

コーヒー生産量（2024/25）

（単位：千トン）



※国際コーヒー機関 (ICO) 統計資料  
2025年7月時点

## ○我が国の主な輸入先の状況（単位：千トン（2024年））

なたね	輸入量	割合
オーストラリア	1,141	54.2%
カナダ	963	45.8%
その他	0	0.0%
<b>合計</b>	<b>2,104</b>	<b>100.0%</b>

※財務省「貿易統計」（HSコード：1205）

パーム油	輸入量	割合
マレーシア	561	85.6%
インドネシア	94	14.4%
その他	0	0.0%
<b>合計</b>	<b>655</b>	<b>100.0%</b>

※財務省「貿易統計」（HSコード：1511）

コーヒー	輸入量	割合
ブラジル	130	36.1%
ベトナム	97	26.9%
コロンビア	36	10.0%
その他	97	26.9%
<b>合計</b>	<b>360</b>	<b>100.0%</b>

※財務省「貿易統計」（HSコード：0901.11～0901.12）





# 資料5 食品小売価格の動向

○ 令和7年8月の国内の主な加工食品の消費者物価指数は118.1～152.3(前年同月比は-3.0%～14.5%)の範囲内。

消費者物価指数(総務省)  
(令和7年3月～令和7年8月)

品目	R4	R5	R6	R7							上昇率 (前年 同月比)
	年平均	年平均	年平均	3月	4月	5月	6月	7月	8月		
食パン	110.2	118.7	122.0	127.5	127.1	127.4	127.8	127.4	127.0	3.6%	
即席めん	107.6	119.7	122.4	120.8	119.1	121.0	119.3	120.5	120.6	-3.0%	
豆腐	105.3	114.6	118.2	120.1	120.4	120.6	121.8	121.8	122.0	3.5%	
食用油 (キャノーラ油)	144.4	160.2	148.6	149.2	147.5	149.3	149.8	150.0	144.7	-2.3%	
みそ	101.2	108.1	113.6	115.3	116.1	118.0	117.7	118.3	118.1	3.9%	
マヨネーズ	125.6	149.5	153.1	152.0	151.9	153.7	151.8	153.0	152.3	0.3%	
チーズ	107.5	131.1	133.0	139.3	141.8	138.6	137.0	139.9	145.1	7.2%	
バター	99.2	108.6	119.7	123.1	124.4	125.9	126.6	133.5	137.6	14.5%	
生鮮食品を 除く食料	104.1	112.6	116.9	122.5	123.6	124.6	125.4	126.0	126.4	8.0%	

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。

【参考】  
食品価格動向調査(農林水産省)  
(令和7年3月～令和7年9月)

品目	R4	R5	R6	R7							上昇率 (前月比)	上昇率 (前年 同月比)
	年平均	年平均	年平均	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
食パン	107.8	114.5	117.9	124.5	124.7	124.0	124.2	125.3	124.7	124.9	0.2%	5.0%
即席めん	105.6	117.5	118.8	116.7	117.3	117.3	116.1	118.5	119.1	116.1	-2.5%	-2.5%
豆腐	103.7	113.0	116.4	117.6	120.7	119.8	119.8	118.5	119.3	118.9	-0.3%	1.9%
食用油 (キャノーラ油)	140.7	159.4	145.8	141.3	142.2	140.3	141.6	141.3	142.2	142.9	0.5%	-0.4%
みそ	100.1	105.9	109.5	110.4	110.2	110.4	111.7	113.6	113.1	114.2	1.0%	3.6%
マヨネーズ	117.7	139.8	141.2	138.9	138.9	140.3	139.6	139.6	139.9	145.4	3.9%	2.9%
チーズ	105.7	126.5	127.0	133.7	136.7	134.7	130.3	134.2	138.2	139.2	0.7%	8.1%
バター	99.1	108.0	119.3	124.8	127.1	127.1	127.3	136.2	138.5	139.4	0.6%	17.3%

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。

注2: 調査は原則、各都道府県10店舗で実施。

## 資料 6-1 海外の畜産物の需給動向（ALIC提供）

○独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は毎月25日頃に海外の畜産物の需給動向を公表（月報 畜産の情報）

○2025年10月号（9月25日に公表）の各品目の主な動きは以下の通り

『月報 畜産の情報』

### ◆牛肉

（米国）25年7月の牛総飼養頭数はわずかに減少も、繁殖雌牛保留の兆し

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003905.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003905.html)

（豪州）生産量、輸出量ともに過去最高を更新、生体価格も上昇

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003906.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003906.html)

（ブラジル）25年1～7月の牛肉輸出は好調を維持

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003907.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003907.html)

### ◆豚肉

（米国）25年6月の豚肉輸出量は前年同月比5.2%増、メキシコ向けがけん引

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003908.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003908.html)

（EU）豚肉生産量は増加を継続するも、輸出量はわずかに減少

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003909.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003909.html)

（中国）生産能力調整措置などから子豚価格は下落傾向、前年同月比18.6%安

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003910.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003910.html)

### ◆牛乳・乳製品

（EU）25年上半期の乳製品輸出量、チーズと脱脂粉乳は前年同期をわずかに上回る

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003914.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003914.html)

（豪州）24/25年度の生乳生産量はわずかに減少、主要乳製品の輸出量は増加

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003915.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003915.html)

（NZ）乳製品国際相場を踏まえ24/25年度の生産者支払乳価を引き上げ

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003916.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003916.html)

### ◆飼料穀物

（世界・トウモロコシ）25/26年度は生産量の上方修正から期末在庫は上方修正

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003919.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003919.html)

（世界・大豆）米国の大豆生産量の下方修正から期末在庫は下方修正

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003920.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003920.html)

（米国）米国は生産量の増加などから期末在庫は大幅に増加

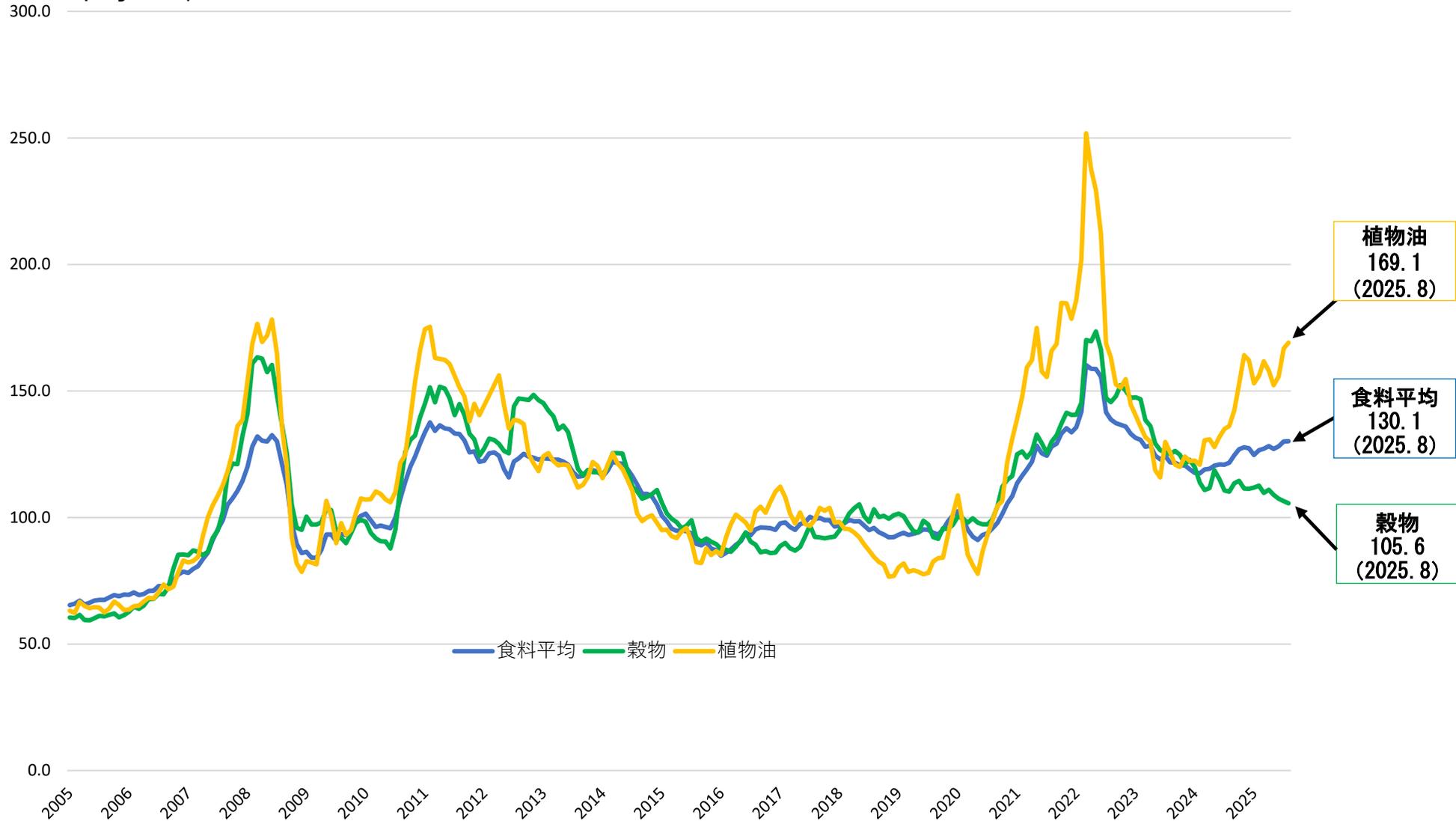
[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003921.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003921.html)

（中国）トウモロコシおよび大豆の価格動向

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003922.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003922.html)

# 資料 7 FAO食料価格指数

(2014-16平均=100)



資料: FAO「Food Price Index」(2025.8)より作成

注: 穀物はとうもろこし、小麦、コム等、植物油は大豆油、菜種油、ひまわり油、パーム油等

**(品目別需給編)**

# I 穀物

## 1 小麦

### (1) 国際的な小麦需給の概要(詳細は右表を参照)

<USDAの見通し> 2025/26年度

**生産量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・アルゼンチンで下方修正されたものの、豪州、EU、ロシア、カナダ、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

**消費量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

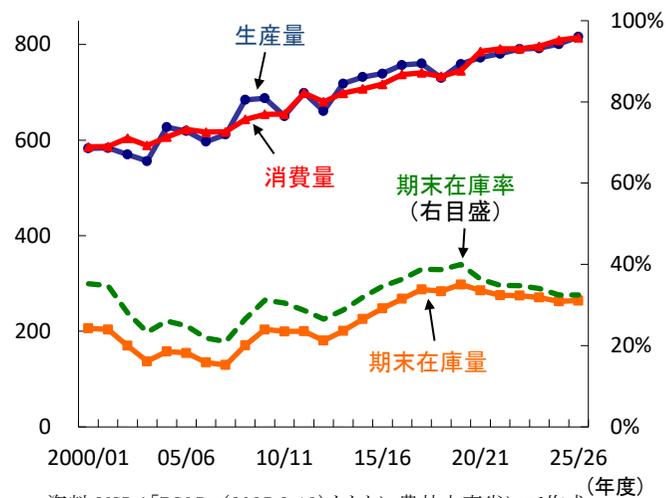
・EU、ロシア、豪州、カナダ、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

**輸出量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ロシア、ウクライナで下方修正されたものの、豪州、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。

**期末在庫量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

(百万トン)



資料:USDA「PS&D」(2025.9.12)をもとに農林水産省にて作成

### ◎世界の小麦需給

(単位:百万トン)

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	792.3	800.9	816.2	9.3	1.9
消費量	796.3	809.1	814.6	5.0	0.7
うち飼料用	158.5	155.9	158.1	3.3	1.4
輸出量	222.2	209.6	214.7	1.2	2.5
輸入量	223.2	199.4	210.6	1.1	5.6
期末在庫量	270.7	262.4	264.1	4.0	0.6
期末在庫率	34.0%	32.4%	32.4%	0.3	▲ 0.01

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 September 2025)

#### ○ 2025/26年度 世界の小麦の生産量(816.2百万トン)(単位:%)



#### ○ 2025/26年度 世界の小麦の輸出量(214.7百万トン)(単位:%)



#### ○ 2025/26年度 世界の小麦の輸入量(210.6百万トン)(単位:%)



## (2) 国別の小麦の需給動向

### < 米国 > 2025/26 年度の輸出量は前年度から 8.9% 増の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が前年度から減少することから前年度と比べ 2.2% 減となるものの、過去5年平均(48.4 百万トン)と比べ 8.4% 増の 52.5 百万トンとなる見込み。同「Crop Production」(2025.8.12)によれば、2025/26 年度の作付面積は、前年度と比べ 1.5% 減の 1,837 万ヘクタールとなる見込み。種類別には、冬小麦が前年度と比べ 0.5% 減の 1,344 万ヘクタール、デュラム小麦を除く春小麦も同 6.0% 減の 404 万ヘクタールとなる一方、春小麦のうちデュラム小麦が同 5.9% 増の 88 万ヘクタールとなる見込み。2025/26 年度の実産量は、5,245 万トンで、種類別には冬小麦が前年度と比べ 0.5% 増の 3,688 万トン、春小麦のうちデュラム小麦が同 9.2% 増の 238 万トンとなる一方、デュラム小麦を除く春小麦は同 10.7% 減の 1,319 万トンとなる見込み。

同「Crop Progress」(2025.8.25 及び 9.15)によれば、8月 24 日現在、2025/26 年度の冬小麦の収穫進捗率は、98%と収穫はほぼ終了。9月 14 日現在、春小麦の収穫進捗率は 94%と、前年同期の 91%、過去5年平均の 92% を上回っている。2025/26 年度の冬小麦は、前年度と比べ降雨が多く、単収が増加した。一方、春小麦については、乾燥により作柄が悪化している。

また、2026/27 年度の冬小麦の作付けが開始されており、9月 14 日現在、作付進捗率は 11%と、前年同期及び過去5年平均の 13%を若干下回っている。

【貿易情報・その他】USDA「Wheat Outlook」(2025.9.16)によれば、2025/26 年度の輸出量は、ハード・レッド・ウインターの販売が好調なこと及び米国産の価格が他の輸出国に比べ競争力があること受け、前月予測から 0.7 百万トン上方修正され、前年度と比べ 8.9% 増、過去5年平均(22.2 百万トン)と比べ 10.2% 増の 24.5 百万トンと、5年ぶりの高水準となる見込み。しかし、世界全体では米国の輸出量は依然として第5位と予想されている(図)。ロシア、EU、カナダ及び豪州では生産量の増加が見込まれており、主要な市場において米国産と競合するとみられる。

同「Global Agricultural Trade System」によれば、2025/26 年度のうち 2025 年6月～7月の輸出量は、前年同期(339.7 万トン)と比べ 18.5% 増の 402.4 万トン。輸出先国別には、メキシコ 67.0 万トン(16.7%)、フィリピン 46.2 万トン(11.5%)、ナイジェリア 45.1 万トン(11.2%)の順となっている(表)。

2025/26 年度の期末在庫量は、輸出量の引上げを受け、前月予測から 0.7 百万トン下方修正され、前年度と比べ 0.8% 減の 23.0 百万トンとなる見込み。

## 小麦一米国(冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

(単位:百万トン)

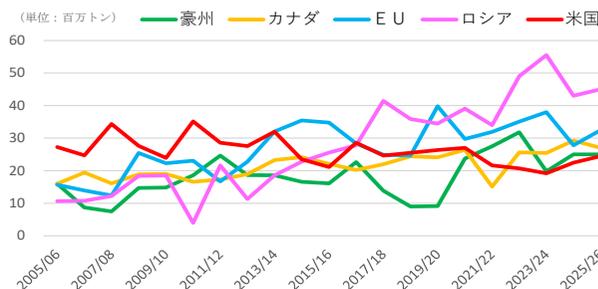
年度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年6月～26年5月)		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	49.1	53.7	52.5	-	▲ 2.2
消費量	30.2	31.0	31.4	-	1.2
うち飼料用	2.3	3.0	3.3	-	10.1
輸出量	19.2	22.5	24.5	0.7	8.9
輸入量	3.8	4.1	3.3	-	▲ 19.3
期末在庫量	19.0	23.2	23.0	▲ 0.7	▲ 0.8
期末在庫率	38.4%	43.3%	41.1%	▲ 1.7	▲ 2.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	15.01	15.57	14.80	-	▲ 4.9
単収(t/ha)	3.27	3.45	3.54	-	2.6

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)

### 図 主要小麦輸出国の小麦輸出量の推移



資料:USDA「PS&D」をもとに農林水産省で作成

### 表 米国の小麦の輸出先国と輸出量

(輸出量:万トン、シェア:%)

2024/25年度 (2024年6月～2025年5月)			2024/25年度 (2024年6月～7月)			2025/26年度 (2025年6月～7月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
メキシコ	400.8	18.3	メキシコ	65.4	19.2	メキシコ	67.0	16.7
フィリピン	245.0	11.2	韓国	39.8	11.7	フィリピン	46.2	11.5
韓国	238.7	10.9	フィリピン	32.6	9.6	ナイジェリア	45.1	11.2
日本	215.1	9.8	日本	28.8	8.5	日本	33.2	8.3
台湾	103.5	4.7	台湾	15.2	4.5	韓国	19.7	4.9
タイ	93.2	4.2	インドネシア	15.1	4.4	台湾	18.3	4.6
その他	897.2	40.9	その他	142.8	42.0	その他	173.0	43.0
計	2,193.5	100.0	計	339.7	100.0	計	402.4	100.0

資料:USDA「Global Agricultural Trade System」をもとに農林水産省で作成

## < カナダ > 2025/26 年度の生産量は上方修正され前年度並みの見込み(USDA)

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、単収の引上げを受け前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、収穫面積が前年度から増加することから、前年度と比べ 0.2%増、過去5年平均(32.4 百万トン)と比べ 11.0%増の 36.0 百万トンとなる見込み。同「World Agricultural Production」(2025.9.12)によれば、2025 年の夏は、プレーリー3州に単収向上となる降雨をもたらし、大部分の地域の作物の生長を促進させた一方で、その他の一部地域では継続的な高温乾燥により作物の生長が制限された。

カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2025.8.20)によれば、2025/26 年度の実産量は、降雨により作柄が改善し単収が引き上げられたことを受け、7月予測から 0.4 百万トン上方修正され、史上3番目の生産量となった前年度(35.0 百万トン)と比べ 0.3%減となるものの、過去5年平均(32.1 百万トン)と比べ 8.5%増の 34.9 百万トンとなる見込み。種類別には、普通小麦は前年度(29.1 百万トン)と比べ 0.8%減、過去5年平均(27.0 百万トン)と比べ 6.7%増の 28.9 百万トンとなる見込み。デュラム小麦は前年度(5.9 百万トン)と比べ 2.1%増、過去5年平均(5.1 百万トン)と比べ 18.2%増の 6.0 百万トンとなる見込み。

主要生産州政府によれば、サスカチュワン州の9月8日現在の収穫進捗率は、冬小麦 96%(前年同期 97%)、春小麦 35%(同 60%)、デュラム小麦 49%(同 83%)。アルバータ州の9月9日現在の収穫進捗率は、冬小麦 95.5%(前年同期 100%)、春小麦 48.8%(同 69.8%)、デュラム小麦 56.7%(同 71.7%)。マニトバ州の9月 14 日現在の収穫進捗率は、冬小麦 100%(前年同期 100%)、春小麦 90%(同 87%)。サスカチュワン州及びアルバータ州の春小麦及びデュラム小麦の収穫進捗率は、降雨の影響により進捗が遅れている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、史上最高となった前年度と比べ 7.8%減となるものの、過去5年平均(24.4 百万トン)と比べ 10.7%増の 27.0 百万トンとなり、史上2番目の輸出量となる見込み。また、AAFC によれば、2025/26 年度の輸出量は、生産量の引上げ等を受け7月予測から 0.2 百万トン上方修正されるものの、前年度と比べ 9.8%減の 25.9 百万トンとなる見込み。種類別には、普通小麦が前年度と比べ 8.3%減の 21.1 百万トン、デュラム小麦が同 15.8%減の 4.8 百万トン。

カナダ穀物委員会(CGC)によれば、2024/25 年度の輸出量は、前年度(2,458.9 万トン)と比べ 19.7%増の 2,943.2 万トン。種類別には、普通小麦が前年度(2,115.3 万トン)と比べ 11.9%増の 2,366.5 万トンとなり、輸出先国別には、インドネシア 243.2 万トン(10.3%)、中国 206.1 万トン(8.7%)、日本 191.0 万トン(8.1%)の順。デュラム小麦は前年度(343.5 万トン)と比べ 67.9%増の 576.7 万トンとなり、輸出先国別には、アルジェリア 156.8 万トン(27.2%)、モロッコ 124.2 万トン(21.5%)、イタリア 83.8 万トン(14.5%)の順(表)。

## 小麦—カナダ(春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26(25年8月～26年7月)		
			予測値、( )はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	33.4	35.9	36.0 (34.9)	1.0	0.2
消費量	9.0	8.4	9.4 (8.3)	0.6	10.9
うち飼料用	3.8	3.1	4.0 (3.8)	0.5	27.8
輸 出 量	25.4	29.3	27.0 (25.9)	-	▲ 7.8
輸 入 量	0.6	0.6	0.6 (0.1)	-	▲ 1.6
期末在庫量	5.3	4.1	4.4 (4.4)	0.9	6.1
期末在庫率	15.3%	10.9%	12.0% (12.7%)	2.2	1.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	10.71	10.65	10.70 (10.75)	-	0.5
単収(t/ha)	3.12	3.37	3.36 (3.24)	0.09	▲ 0.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)  
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(20 August 2025)

## 表 カナダの小麦の輸出先国と輸出量

○普通小麦			(輸出量:万トン、シェア:%)		
2023/24年度 (2023年8月～2024年7月)			2024/25年度 (2024年8月～2025年7月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
中国	310.3	14.7	インドネシア	243.2	10.3
インドネシア	251.9	11.9	中国	206.1	8.7
日本	173.9	8.2	日本	191.0	8.1
バングラデシュ	172.7	8.2	ペルー	164.2	6.9
ペルー	137.3	6.5	コロンビア	143.1	6.0
その他	1,069.2	50.5	その他	1,419.1	60.0
計	2,115.3	100.0	計	2,366.5	100.0

○デュラム小麦			(輸出量:万トン、シェア:%)		
2023/24年度 (2023年8月～2024年7月)			2024/25年度 (2024年8月～2025年7月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
アルジェリア	89.3	26.0	アルジェリア	156.8	27.2
モロッコ	81.7	23.8	モロッコ	124.2	21.5
米国	46.2	13.5	イタリア	83.8	14.5
イタリア	44.7	13.0	米国	51.0	8.8
日本	21.2	6.2	日本	22.7	3.9
その他	60.4	17.6	その他	138.2	24.0
計	343.5	100.0	計	576.7	100.0

資料:CGC のデータをもとに農林水産省で作成

## < 豪州 > 2025/26 年度の生産量は前年度から 1.0%減も史上4番目の見込み(ABARES)

【生育・生産状況】豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Australian Crop Report」(2025.9.2)によれば、2025/26 年度の生産量は、収穫面積及び単収の引上げを受け前回予測(6月)から 3.2 百万トン上方修正され、前年度から収穫面積が減少することから前年度(34.1 百万トン)と比べ 1.0%減となるものの、過去5年平均(33.8 百万トン)と比べ同水準の 33.8 百万トンとなり、史上4番目の生産量となる見込み(図)。

州別には、ウェスタンオーストラリア州(WA 州)は 1.7 百万トン上方修正の 12.7 百万トン(前年度比 0.4%増)、ニューサウスウェールズ州(NSW 州)は 1.0 百万トン上方修正の 10.7 百万トン(同 17.1%減)、サウスオーストラリア州(SA 州)はわずかに上方修正され 4.2 百万トン(同 53.1%増)、ビクトリア州(VIC 州)は 0.2 百万トン上方修正の 4.0 百万トン(同 14.3%増)、クイーンズランド州(QLD 州)は 0.2 百万トン上方修正の 2.1 百万トン(同 8.1%減)と、全土にわたり適度な降雨により前回予測から生産見通しが改善した(図)。

また、USDA によれば、2025/26 年度の生産量は、収穫面積及び単収の引上げを受け前月予測から 3.5 百万トン上方修正され、前年度から単収が増加することから前年度と比べ 1.1%増、過去5年平均(33.8 百万トン)と比べ 2.2%増の 34.5 百万トンとなり、史上3番目の生産量となる見込み。

同「World Agricultural Production」(2025.9.12)によれば、2025/26 年度シーズン当初は、非常に乾燥した状態から始まり、特に豪州の小麦作付面積の約 27%を占める WA 州で顕著であった。6月上旬に恵みの降雨があり、7月8月、9月上旬にも適時の降雨があり、小麦の生長が促進された。

【貿易情報・その他】ABARES によれば、2025/26 年度の輸出量は、生産量の引上げ等を受け前回予測から 1.5 百万トン上方修正され、期首在庫量が増加することから前年度(23.0 百万トン)と比べ 9.6%増加するものの、過去5年平均(25.0 百万トン)と比べ 2.1%減の 24.5 百万トンとなる見込み。

また、USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、生産量の引上げ等を受け前月予測から 2.0 百万トン上方修正され、前年度同の 25.0 百万トンとなる見込み。

ABARES によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 10 月～2025 年7月の輸出量は、前年同期(1,764.1 万トン)と比べ 12.9%増の 1,991.9 万トン。輸出先国別には、インドネシア 376.0 万トン(18.9%)、フィリピン 284.3 万トン(14.3%)、タイ 161.5 万トン(8.1%)の順で、中国は生産量の増加により 93.0 万トン(4.7%)と大きく輸入量を減少させている(表)。2025/26 年度の期末在庫量は、生産量の引上げ等を受け前回予測から 1.0 百万トン上方修正され、前年度(5.7 百万トン)と比べ 4.6%増の 5.9 百万トンとなる見込み。

## 小麦一豪州(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26(25年10月～26年9月)		
			予測値、( )はABARES	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	26.0	34.1	34.5 (33.8)	3.5	1.1
消費量	7.8	8.0	8.7 (8.9)	0.6	8.7
うち飼料用	4.3	4.5	5.1 …	0.5	13.3
輸出量	19.8	25.0	25.0 (24.5)	2.0	-
輸入量	0.2	0.2	0.2 …	-	-
期末在庫量	2.9	4.3	5.3 (5.9)	0.9	24.2
期末在庫率	10.5%	12.9%	15.7% (17.8%)	1.6	2.8

(参考)

収穫面積(百万ha)	12.37	13.06	12.70 (12.71)	0.20	▲ 2.8
単収(t/ha)	2.10	2.61	2.72 (2.66)	0.24	4.2

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(12 September 2025)

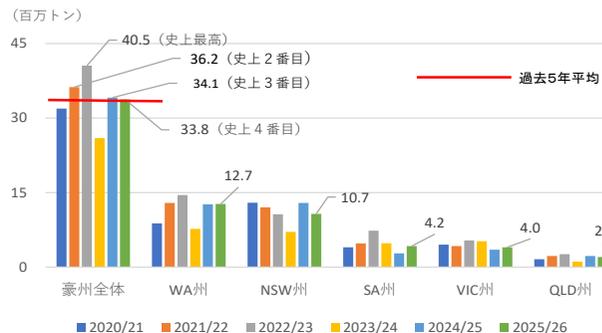
ABARES「Australian Crop Report」(2 September 2025)

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(12 September 2025)

ABARES「Australian Crop Report」(2 September 2025)

### 図 豪州の小麦の州別生産量の推移



資料:ABARES「Australian Crop Report」(2025.9.2)をもとに農林水産省で作成

### 表 豪州の小麦の輸出先国と輸出量

(輸出量:万トン、シェア:%)

2023/24年度 (2023年10月～2024年9月)			2023/24年度 (2023年10月～2024年7月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年7月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
中国	375.6	19.0	中国	374.0	21.2	インドネシア	376.0	18.9
インドネシア	323.5	16.3	インドネシア	284.4	16.1	フィリピン	284.3	14.3
フィリピン	233.7	11.8	フィリピン	193.3	11.0	タイ	161.5	8.1
イエメン	152.2	7.7	イエメン	141.7	8.0	ベトナム	131.2	6.6
韓国	123.5	6.2	韓国	111.7	6.3	韓国	124.3	6.2
日本	120.6	6.1	日本	103.7	5.9	イエメン	111.7	5.6
その他	651.8	32.9	その他	555.3	31.5	その他	803.0	40.3
計	1,980.8	100.0	計	1,764.1	100.0	計	1,991.9	100.0

資料: ABARES「Trade dashboard」をもとに農林水産省で作成

## < EU27 > 2025/26 年度の生産量は前年度から 14.7%増の見込み(EC)

【生育・生産状況】欧州委員会(EC)「EU Cereals Balance Sheets」(2025.8.28)によれば、2025/26 年度の実産量は、単収の引上げを受け前月予測から 0.8 百万トン上方修正され、主産国で生育期間を通じた降雨過多等により減産となった前年度(118.9 百万トン)から生産量が回復することから、前年度と比べ 14.7%増、過去5年平均(129.5 百万トン)と比べ 5.3%増の 136.4 百万トンとなる見込み。

種類別には、普通小麦がフランス等で前月予測から上方修正され、前年度からフランス、ドイツ等で生産量が回復することから前年度と比べ 14.7%増、過去5年平均と比べ 5.0%増の 128.1 百万トンとなる見込み。デュラム小麦は、スペイン等で前月予測からわずかに下方修正されるものの、前年度と比べ 15.0%増、過去5年平均と比べ 10.5%増の 8.3 百万トンとなる見込み(図)。

また、USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、単収の引上げを受け前月予測から 1.8 百万トン上方修正され、前年度と比べ 14.7%増の 140.1 百万トンとなる見込み。

現地情報会社によれば、9月上旬現在、2025/26 年度小麦の大部分の収穫が終了しているとみられる。

【貿易情報・その他】EC によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、減産の前年度から生産量が回復することから、前年度(25.9 百万トン)と比べ 18.5%増の 30.7 百万トンとなる見込み。

同「EU trade for cereals」(2025.8.25)によれば、2024/25 年度の輸出量は、減産により前年度(3,621.2 万トン)と比べ 28.5%減の 2,590.6 万トン。種類別には、普通小麦が前年度と比べ 28.7%減の 2,513.7 万トン。デュラム小麦も同 21.4%減の 76.9 万トン(表)。EC によれば、2025/26 年度の輸入量は、前月予測から 0.4 百万トン上方修正されるものの、ウクライナからの輸入が減少すると見込まれることから前年度(9.9 百万トン)と比べ 42.2%減の 5.7 百万トンとなる見込み。EU は、ウクライナ産品の輸入に関し、2022 年6月から輸入関税及び関税割当を停止してきたが、本年6月5日に関税割当制度等の適用を再開した。再開によりウクライナからの小麦の輸入は減少する見込み(詳細については、<ウクライナ>【貿易情報・その他】関税割当制度等の適用再開を参照。)。EC「EU trade for cereals」(2025.8.25)によれば、2024/25 年度の輸入量は、ウクライナやロシアからの輸入が減少したこと等から前年度(1,200.5 万トン)と比べ 17.8%減の 986.4 万トン。種類別には、普通小麦が前年度と比べ 17.8%減の 780.6 万トン。デュラム小麦も同 18.1%減の 205.8 万トン(表)。

EC によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、期首在庫量の引下げ等を受け前月予測から 0.1 百万トン下方修正され、前年度(8.9 百万トン)と比べ 7.2%減の 8.3 百万トンとなる見込み。

## 小麦—EU27 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26(25年7月~26年6月)			
			予測値、( )はEC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	135.4	122.1	140.1 (136.4)	1.8	14.7	
消費量	110.5	109.0	113.0 (112.0)	1.0	3.7	
うち飼料用	46.5	45.0	48.5 (46.7)	1.0	7.8	
輸出量	38.0	27.8	32.5 (30.7)	-	16.9	
輸入量	12.7	10.6	5.5 (5.7)	▲ 1.0	▲ 48.1	
期末在庫量	15.8	11.7	11.8 (8.3)	▲ 0.8	0.9	
期末在庫率	10.6%	8.5%	8.1% (5.8%)	▲ 0.6	▲ 0.4	

(参考)

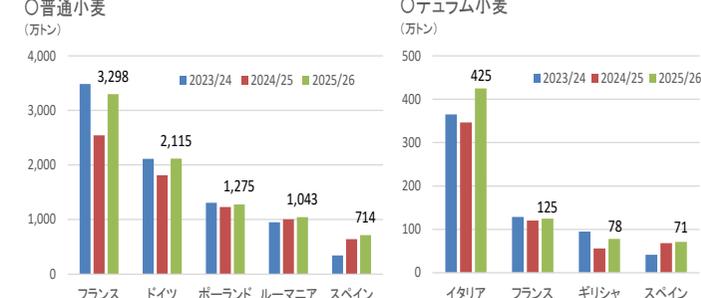
収穫面積(百万ha) 24.32 22.70 23.85 (23.24) - 5.1

単収(t/ha) 5.57 5.38 5.87 (5.87) 0.07 9.1

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)

EC「EU Cereals Balance Sheets」(28 August 2025)

図 主要小麦生産国の生産量の推移



資料:EC「EU cereals production, area and yield」(2025.8.28)をもとに農林水産省で作成

## 表 EUの小麦の輸出量及び輸入量

輸出量		輸入量									
2023/24年度 (2023年7月~2024年6月)		2024/25年度 (2024年7月~2025年6月)		2023/24年度 (2023年7月~2024年6月)		2024/25年度 (2024年7月~2025年6月)					
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)
モロッコ	489.1	13.5	モロッコ	343.2	13.2	ウクライナ	647.1	53.9	ウクライナ	449.8	45.6
アルジェリア	396.7	11.0	アルジェリア	335.7	13.0	カナダ	138.5	11.5	カナダ	237.0	24.0
ナイジェリア	348.9	9.6	ナイジェリア	280.4	10.8	ロシア	82.1	6.8	モルドバ	62.5	6.3
中国	237.2	6.5	英国	179.2	6.9	トルコ	76.7	6.4	米国	57.9	5.9
エジプト	178.2	4.9	エジプト	174.8	6.7	モルドバ	72.9	6.1	セルビア	56.7	5.8
その他	1,971.1	54.4	その他	1,277.2	49.3	その他	183.2	15.3	その他	122.5	12.4
合計	3,621.2	100.0	合計	2,590.6	100.0	合計	1,200.5	100.0	合計	986.4	100.0

資料:EC「EU trade for cereals」(2025.8.25)をもとに農林水産省で作成

## < ロシア > 2025/26 年度の生産量は前年度から 4.2%増の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実生産量(クリミア地域分を含まず)は、単収の引上げを受け前月予測から 1.5 百万トン上方修正され、霜害と高温乾燥により生産量が減少した前年度から単収が増加することから、前年度と比べ 4.2%増、過去5年平均(85.1 百万トン)と比べ同水準の 85.0 百万トンとなる見込み(図)。

種類別には、冬小麦は収穫面積の引上げを受け 1.0 百万トン上方修正され、前年度(55.8 百万トン)と比べ 10.2%増の 61.5 百万トンとなる一方、春小麦は単収の引上げを受け 0.5 百万トン上方修正されるものの、前年度(25.8 百万トン)と比べ 8.9%減の 23.5 百万トンとなる見込み。

同「World Agricultural Production」(2025.9.12)によれば、ロシア統計庁が発表した 2025/26 年度の冬小麦の作付面積は前年度と比べ約2%減の 1,580 万ヘクタール、春小麦の作付面積は同約 10%減の 1,110 万ヘクタールとなった。春小麦の単収は、広範囲で好天に恵まれたことを受け前月予測から上方修正されており、主要な春小麦産地であるヴォルガ、ウラル、シベリア連邦管区では平年を上回る生育となっている。なお、冬小麦の単収については、前月予測から下方修正されたものの、前年度からは 11.8%増加し 3.97 トン/ヘクタールとなる見込み。

現地情報会社によれば、9月 12 日現在、2025/26 年度小麦の収穫進捗率は、主要な産地のうち、欧州部の沿ヴォルガ連邦管区において収穫が遅れていることから 77%となっているものの、前年同期 74%を上回っている。

報道によれば、ロシア南部では穀物生産における収益性の低下を背景に中小農家の廃業が増加している。ここ数年の天候不順のほか、高金利や資材・機械のコストの上昇が背景にあるとみられる。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、年度当初の低調な輸出を受け前月予測から 1.0 百万トン下方修正されたものの、生産量が増加することから前年度と比べ 4.7%増、過去5年平均(44.1 百万トン)と比べ 2.0%増の 45.0 百万トンとなり、史上3番目の輸出量となる見込み(図)。

現地情報会社によれば、2025/26 年度のうち 2025 年7月～8月の輸出量は、前年同期(891.5 万トン)と比べ 31.5%減の 611.1 万トンとなっている。輸出先国別には、エジプト 115.7 万トン(18.9%)、トルコ 51.6 万トン(8.4%)、イスラエル 37.9 万トン(6.2%)の順(表)。8月の輸出量は 437.4 万トンと7月の 173.7 万トンから大きく増加したものの、7月～8月の輸出量は前年同期を下回っている。なお、9月に入りルーブル安となっており、輸出に追い風になる可能性がある。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、生産量の引上げ等を受け前月予測から 1.8 百万トン上方修正され、前年度と比べ 5.7%増の 11.2 百万トンとなる見込み。

## 小麦—ロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

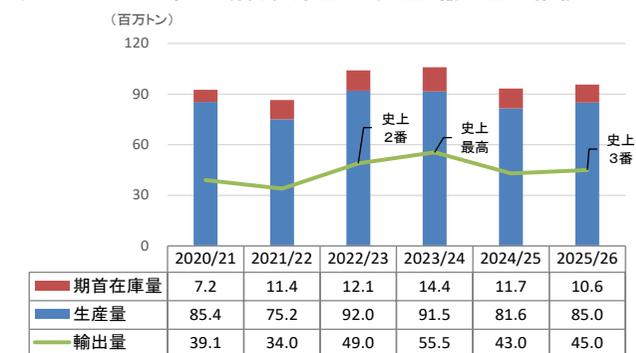
年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26(25年7月～26年6月)		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	91.5	81.6	85.0 (83.7)	1.5	4.2
消費量	39.0	40.0	39.7 (40.2)	0.7	▲ 0.7
うち飼料用	16.0	17.0	16.5 (17.0)	0.5	▲ 2.9
輸出量	55.5	43.0	45.0 (43.6)	▲ 1.0	4.7
輸入量	0.3	0.3	0.3 (0.5)	-	-
期末在庫量	11.7	10.6	11.2 (9.7)	1.8	5.7
期末在庫率	12.4%	12.8%	13.2% (11.6%)	2.2	0.5

(参考)

収穫面積(百万ha)	28.83	27.80	26.50 (26.37)	▲ 0.20	▲ 4.7
単収(t/ha)	3.17	2.94	3.21 (3.18)	0.08	9.2

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)  
IGC「Grain Market Report」(21 August 2025)

## 図 ロシアの小麦の期首在庫量・生産量・輸出量の推移



資料:USDA「PS&D」をもとに農林水産省で作成

## 表 ロシアの小麦の輸出先国と輸出量

(輸出量:万トン、シェア:%)

2024/25年度 (2024年7月～8月)			2025/26年度 (2025年7月～8月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
エジプト	150.5	16.9	エジプト	115.7	18.9
トルコ	55.2	6.2	トルコ	51.6	8.4
バングラデシュ	52.7	5.9	イスラエル	37.9	6.2
イスラエル	42.2	4.7	ケニア	34.6	5.7
サウジアラビア	37.6	4.2	サウジアラビア	32.3	5.3
その他	553.3	62.1	その他	339.0	55.5
合計	891.5	100.0	合計	611.1	100.0

資料:現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

## ＜ウクライナ＞ 2025/26年度の生産量は前年度から1.7%減の見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2025/26年度の生産量(クリミア地域分を含む)は、単収の引上げを受け前月予測から1.0百万トン上方修正されたものの、前年度から単収が減少することから前年度と比べ1.7%減、ロシアの侵攻前の過去5年平均(2017/18～2021/22年度、27.9百万トン)と比べ17.6%減の23.0百万トンとなる見込み(図)。

現地情報会社によれば、9月4日現在、小麦の収穫進捗率は98.1%と収穫はほぼ終了しており、収穫量は2,205万トンとなっている。作柄は、昨年から続く長期的な乾燥による土壌水分量の不足等により、前年度を下回る単収となる見込み。なお、2026/27年度の冬小麦の作付けが始まっており、9月8日現在の作付進捗率は1%(前年同期2%)となっている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2025/26年度の輸出量は、年度当初の低調な輸出を受け前月予測から0.5百万トン下方修正され、生産量の減少等から前年度と比べ4.8%減、ロシアの侵攻前の過去5年平均(18.1百万トン)と比べ17.1%減の15.0百万トンとなる見込み。

一方、2024/25年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度と比べ15.2%減の15.8百万トン(図)。

EUは、ウクライナ産品の輸入に関し、2022年6月から輸入関税及び関税割当を停止する「自主貿易措置(ATMs)」を実施してきた。当該措置は本年6月5日に失効し、「深化した包括的自由貿易協定(DCFTA)」に基づき、関税割当制度等の適用を再開した。その後、6月30日に新たな貿易措置についてウクライナと合意し、小麦及びメスリンに対する年間輸入割当数量は130万トン、小麦粉等は同3万トンに見直し、今後、正式採択を経て発効する見通し。報道によれば、ATMsが失効し、関税割当が再開されたことにより、ウクライナ産小麦のEU輸出は減少すると予想されており、ウクライナは北アフリカやアジアへの輸出に一層注力するとみられる。

ウクライナ税関庁によれば、2025/26年度のうち2025年7月～8月の輸出量は、前年同期(378.3万トン)と比べ30.6%減の262.4万トンとなっている。輸出先国別には、エジプト69.9万トン(26.6%)、インドネシア52.8万トン(20.1%)、ベトナム31.5万トン(12.0%)の順(表)。

現地情報会社によれば、8月の輸出量は189.1万トンと7月の73.3万トンから大きく増加した。これは、遅れていた小麦の収穫が順調に進んだことやインドネシアやエジプトへの輸出が好調であることが要因とみられる。

USDAによれば、2025/26年度の期末在庫量は、生産量の引上げ等を受け前月予測から1.0百万トン上方修正され、前年度と比べ107.5%増の1.9百万トンとなる見込み。

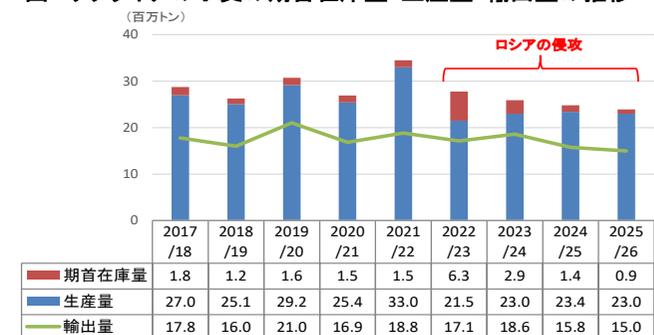
## 小麦－ウクライナ(主に冬小麦を栽培)

(単位:百万トン)

年度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26(25年7月～26年6月)		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	23.0	23.4	23.0 (24.5)	1.0	▲ 1.7
消費量	6.0	8.2	7.1 (9.0)	0.5	▲ 13.4
うち飼料用	1.5	3.6	2.5 (1.6)	0.5	▲ 30.6
輸出量	18.6	15.8	15.0 (15.5)	▲ 0.5	▲ 4.8
輸入量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	42.9
期末在庫量	1.4	0.9	1.9 (0.9)	1.0	107.5
期末在庫率	5.7%	3.9%	8.7% (3.8%)	4.5	4.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.01	5.20	5.50 (6.10)	-	5.8
単収(t/ha)	4.59	4.50	4.18 (4.02)	0.18	▲ 7.1

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)  
IGC「Grain Market Report」(21 August 2025)

## 図 ウクライナの小麦の期首在庫量・生産量・輸出量の推移



資料:USDA「PS&D」をもとに農林水産省で作成

## 表 ウクライナの小麦の輸出先国と輸出量

(輸出量:万トン、シェア:%)

2024/25年度 (2024年7月～2025年6月)			2024/25年度 (2024年7月～8月)			2025/26年度 (2025年7月～8月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
スペイン	326.1	20.9	スペイン	77.5	20.5	エジプト	69.9	26.6
エジプト	211.1	13.5	インドネシア	60.6	16.0	インドネシア	52.8	20.1
アルジェリア	195.1	12.5	ベトナム	37.8	10.0	ベトナム	31.5	12.0
インドネシア	158.8	10.2	アルジェリア	37.3	9.9	アルジェリア	26.8	10.2
ベトナム	104.7	6.7	エジプト	36.1	9.5	スペイン	24.3	9.3
その他	566.5	36.3	その他	129.1	34.1	その他	57.0	21.7
合計	1,562.2	100.0	合計	378.3	100.0	合計	262.4	100.0

資料:現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

## < 中国 > 2025/26年度の輸入量は前年度から43.9%増の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度から単収が減少することから、前年度と比べ 0.1%減となるものの、過去5年平均(137.1 百万トン)と比べ 2.1%増の 140.0 百万トンとなり、史上最高の前年度に次ぐ生産量となる見込み(図)。

中国国家统计局(2025.7.10)によれば、2025/26 年度の夏季産小麦(夏季に収穫された冬小麦及び春小麦。なお、甘寧省等の一部地域の春小麦は生育が遅いため推定値。)の作付面積は、前年度と比べ 1.7 万ヘクタール減少し 0.1%減の 23.07 百万ヘクタール。単収は前年度と比べ僅かに減少するものの、ほぼ横ばいの 5.99 トン/ヘクタール。生産量は前年度と比べ 17 万トン減少し 0.1%減の 138.2 百万トン。

中国農業農村部(2025.6.18)によれば、6月 18 日現在の冬小麦の収穫進捗率は、96%となっており、主要生産地の収穫は終了している。また、9月上旬現在、春小麦の主要生産地の大部分で収穫が終了したとみられる。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度と比べ 1.3%減、過去5年平均(150.9 百万トン)と比べても 1.9%減の 148.0 百万トンとなる見込み(図)。

2025/26 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、期首在庫量の減少等から前年度と比べ 43.9%増となるものの、過去5年平均(10.3 百万トン)と比べ 41.5%減の 6.0 百万トンとなる見込み(図)。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2025 年7月号」によれば、小麦は2年連続で豊作となり国内供給が充足したため輸入需要は減退し、2025 年1月～6月の小麦輸入量は大幅に減少した。

中国国務院関税税則委員会は、米中共同声明を受け、5月 14 日から税委会公告 2025 年第4号の追加関税 34%のうち 24%の適用を 90 日間停止するとともに、同第5号及び第6号の追加関税を停止すると発表(同第7号)した。これにより小麦は計 25%の追加関税を課すこととなった。その後、ストックホルムで実施された米中経済貿易協定の共同声明を受け、8月 12 日、同第4号の追加関税 34%のうち 24%の適用を引き続き 90 日間停止すると発表した。

中国海関統計によれば、2025/26 年度のうち 2025 年7月の輸入量は、前年度(80.1 万トン)と比べ 48.3%減の 41.4 万トンとなっている。輸入先国別には、カナダ 35.6 万トン(85.9%)、豪州 5.2 万トン(12.4%)、日本 0.3 万トン(0.8%)の順となっている(表)。米国からの輸入は 2.2 トンと大きく減少している。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度と比べ 2.3%減の 124.8 百万トンとなる見込み(図)。

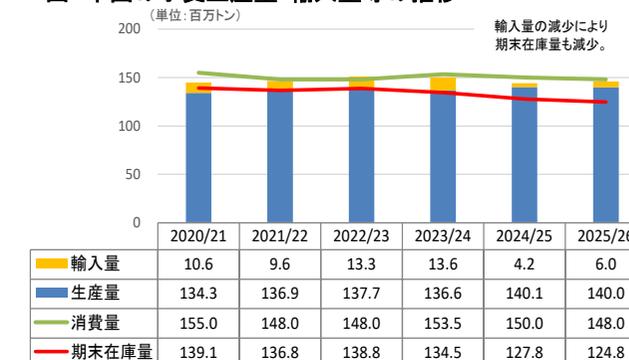
## 小麦—中国(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26(25年7月～26年6月)		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	136.6	140.1	140.0 (140.0)	-	▲ 0.1
消費量	153.5	150.0	148.0 (147.3)	-	▲ 1.3
うち飼料用	37.0	33.0	31.0 (28.0)	-	▲ 6.1
輸 出 量	1.0	1.0	1.0 (1.2)	-	▲ 2.0
輸 入 量	13.6	4.2	6.0 (6.2)	-	43.9
期末在庫量	134.5	127.8	124.8 (134.9)	-	▲ 2.3
期末在庫率	87.1%	84.6%	83.7% (90.9%)	-	▲ 0.9

(参考)  
 収穫面積(百万ha) 23.63 23.59 23.60 (23.65) - 0.04  
 単収(t/ha) 5.78 5.94 5.93 (5.92) - ▲ 0.2  
 資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
 「World Agricultural Production」(12 September 2025)  
 IGC「Grain Market Report」(21 August 2025)

図 中国の小麦生産量・輸入量等の推移



資料:USDA「PS&D」をもとに農林水産省で作成

表 中国の小麦の輸入先国と輸入量

(輸入量:万トン、シェア:%)

2024/25年度 (2024年7月～2025年6月)			2024/25年度 (2024年7月)			2025/26年度 (2025年7月)		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
カナダ	185.9	48.1	米国	30.8	38.5	カナダ	35.6	85.9
豪州	87.1	22.5	カナダ	20.4	25.5	豪州	5.2	12.4
米国	46.2	12.0	豪州	14.4	17.9	日本	0.3	0.8
カザフスタン	30.8	8.0	カザフスタン	8.9	11.1	ロシア	0.2	0.5
ロシア	29.7	7.7	ロシア	5.1	6.4	フランス	0.1	0.3
日本	4.9	1.3	日本	0.3	0.4	韓国	0.01	0.03
その他	1.5	0.4	その他	0.1	0.2	その他	0.01	0.02
合計	386.1	100.0	合計	80.1	100.0	合計	41.4	100.0

資料:中国海関統計をもとに農林水産省で作成

## 2 とうもろこし

### (1) 国際的なとうもろこし需給の概要(詳細は右表を参照)

<USDAの見通し> 2025/26年度

**生産量** 前年度比 前月比

・米国、インド等で上方修正されたものの、EU、セルビア、ロシア、モルドバで下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

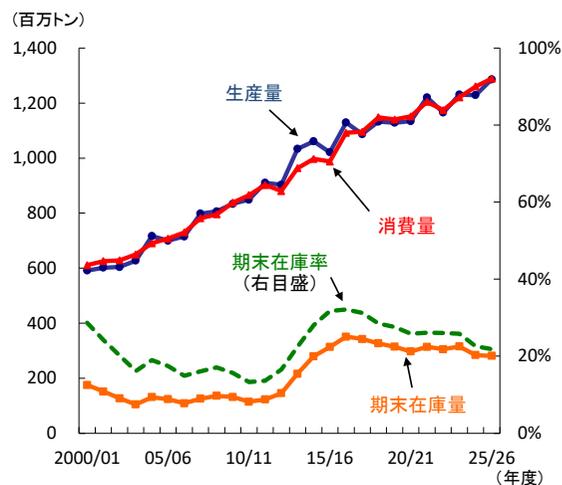
**消費量** 前年度比 前月比

・EU、セルビア等で下方修正されたものの、ブラジル、インド等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

**輸出量** 前年度比 前月比

・セルビア、EU、ロシア等で下方修正されたものの、米国、ザンビア等で上方修正され、前月から上方修正された。

**期末在庫量** 前年度比 前月比



資料:USDA「PS&D」(2025.9.12)をもとに農林水産省にて作成

### ◎世界のとうもろこし需給

(単位:百万トン)

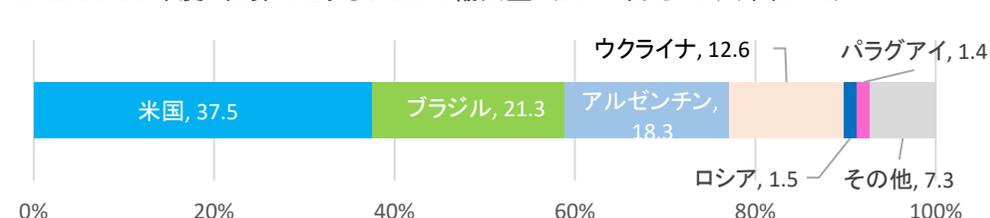
年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,231.1	1,228.9	1,286.6	▲ 2.0	4.7
消費量	1,220.9	1,260.3	1,289.4	0.2	2.3
うち飼料用	769.6	786.7	810.5	▲ 0.7	3.0
輸出量	192.6	193.8	201.7	0.8	4.1
輸入量	197.4	183.0	193.2	1.0	5.6
期末在庫量	315.5	284.2	281.4	▲ 1.1	▲ 1.0
期末在庫率	25.8%	22.5%	21.8%	▲ 0.1	▲ 0.7

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 September 2025)

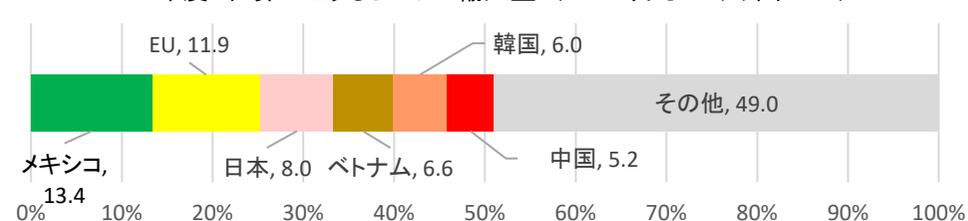
#### ○ 2025/26年度 世界のとうもろこしの生産量 (1,286.6百万トン)(単位:%)



#### ○ 2025/26年度 世界のとうもろこしの輸出量 (201.7百万トン)(単位:%)



#### ○ 2025/26年度 世界のとうもろこしの輸入量 (193.2百万トン)(単位:%)



## (2) 国別のとうもろこしの需給動向

### < 米国 > 2025/26 年度の生産量は、前年度から 13.1%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実績は、単収が前月より引き下げられたものの、収穫面積が引き上げられたことを受け、前月予測から 1.9 百万トン上方修正され、前年度から 13.1%増の 427.1 百万トンと、史上最高の見込み。とうもろこしに有利な価格相場により、多くの農家が大豆から作付けを切り替えたとみられる。

同「Crop Progress」(2025.9.15)によれば、9月 14 日現在、デント(穀粒が歯(デント)のように硬くなっていく段階)進捗率は 85%と前年同期(83%)を上回ったものの、過去5年平均(86%)を下回った。8~9月には主産地の一部で乾燥した天候に見舞われたものの、全体としては作柄に大きな影響はなく、生育期間を通じて概して良好な天候に恵まれ、作柄評価は「良~優良」の割合が 67%と、前年同期(65%)を上回っている。また、現在、収穫が開始されており、収穫進捗率は7%と、前年同期(8%)を下回った。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加等を受け、前年度から 4.7%増の 332.3 百万トンと、史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測から 2.5 百万トン上方修正され、前年度から 5.1%増の 75.6 百万トンと、史上最高の見込み。なお、2024/25 年度の輸出量は、前月予測から 0.3 百万トン上方修正され、米国産の価格競争力の高まり等により、2023/24 年度から 25.5%増の 71.9 百万トンとなる見込み。

同「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」によれば、2024/25 年度(2024 年9月~2025 年8月)の輸出量は 6,776.2 万トンと、前年度(5,243.5 万トン)に比べ 29.2%増。輸出先国別には、メキシコ 2,212.2 万トン(32.6%)、日本 1,344.0 万トン(19.8%)、コロンビア 743.7 万トン(11.0%)の順となっている(表)。

同「Grain: World Markets and Trade」(2025.9.12)によれば、9月9日現在、米国産の輸出価格は 203ドル/トンと、新穀の堅調な需要を受け、前月から6ドル/トン上昇した。ブラジル産は前月から 1ドル/トン上昇し 211ドル/トン、アルゼンチン産は前月から4ドル/トン下落し 199ドル/トンとなった(図)。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.2 百万トン下方修正されたものの、生産量の増加等を受け、前年度から 59.2%増、過去5年平均(35.9 百万トン)から 49.4%増の 53.6 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度から 4.5 ポイント増の 13.1%となる見込み。

## とうもろこしー米国

(概ね4~5月に作付けされ、9~11月に収穫される。)

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年9月~26年8月)		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	389.7	377.6	427.1	1.9	13.1
消費量	322.9	317.4	332.3	-	4.7
うち飼料用	148.1	144.2	155.0	-	7.5
エタノール用等	139.4	138.1	142.2	-	3.0
輸 出 量	57.3	71.9	75.6	2.5	5.1
輸 入 量	0.7	0.5	0.6	-	25.5
期末在庫量	44.8	33.7	53.6	▲ 0.2	59.2
期末在庫率	11.8%	8.6%	13.1%	▲ 0.1	4.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	35.01	33.55	36.44	0.55	8.6
単収(t/ha)	11.13	11.26	11.72	▲ 0.13	4.1

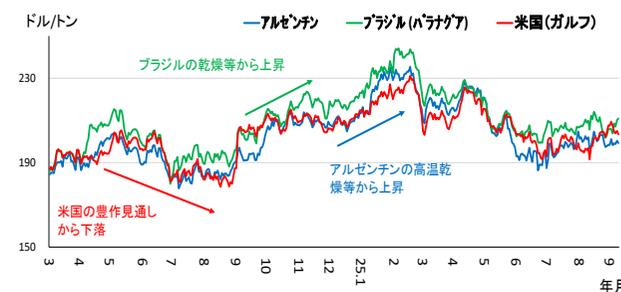
資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)

### 表 米国のとうもろこしの輸出先国と輸出量

2023/24年度 (2023年9月~2024年8月)			2024/25年度 (2024年9月~2025年8月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
メキシコ	2,090.4	39.9	メキシコ	2,212.2	32.6
日本	1,109.2	21.2	日本	1,344.0	19.8
コロンビア	612.1	11.7	コロンビア	743.7	11.0
中国	286.0	5.5	韓国	617.4	9.1
韓国	234.9	4.5	台湾	241.6	3.6
その他	910.9	17.4	その他	1,617.3	23.9
合計	5,243.5	100.0	合計	6,776.2	100.0

資料:USDA「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」をもとに農林水産省にて作成

### 図 米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格(FOB)の推移



資料:IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

## < ブラジル > 2025/26 年度の生産量は、前年度から 3.0%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、単収の減少を受け前年度から 3.0%減となるものの、過去5年平均(118.8 百万トン)から 10.3%増の 131.0 百万トンと、史上3番目の生産量となる見込み。なお、2024/25 年度は、2023/24 年度から 13.4%増の 135.0 百万トンと史上2番目の生産量となる見込み。

ブラジル食料供給公社(CONAB)の月例報告(2025.9.11)によれば、2024/25 年度のとうもろこしの生産量は、良好な気象条件、生産技術の向上等を受け、前年度から 20.9%増の 139.7 百万トンの見込み。夏とうもろこし(第1期作)の収穫作業は8月までに終了し、生産量は前年度から 8.6%増の 24.9 百万トンの見込み。また、冬とうもろこし(第2・3期作)の生産量は、前年度から 24.0%増の 114.8 百万トンの見込み。冬とうもろこしの大部分を占める第2期作の収穫進捗率は9月上旬で 97%と、9月中旬には収穫作業が終了する見込みであり、第3期作は9月中旬に収穫作業が開始される見込み。なお、リオ・グランデ・ド・スール州の一部地域では、2025/26 年度の夏とうもろこしの作付けが開始された(図)。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、飼料用及びエタノール向けとうもろこしの国内需要の高まりにより、前年度から 2.2%増の 95.0 百万トンと、史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、主にエタノール向けとうもろこしの国内需要の高まりにより輸出増加が抑制され、前年度と同水準の 43.0 百万トンの見込み。なお、2024/25 年度の輸出量は、2023/24 年度から 12.4%増の 43.0 百万トンとなる見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024/25 年度のうち 2025 年3～8月の輸出量は 1,073.1 万トンと、前年同期(1,136.8 万トン)に比べ 5.6%減。輸出先国別には、イラン 183.8 万トン(17.1%)、エジプト 134.8 万トン(12.6%)、ベトナム 116.7 万トン(10.9%)の順となっている(表)。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.2 百万トン下方修正され、生産量の減少及び消費量の増加を受け、前年度から 61.2%減、過去5年平均(7.1 百万トン)から 51.8%減の 3.4 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度から 4.0 ポイント減の 2.5%となる見込み。

## とうもろこし—ブラジル

(夏とうもろこしは、概ね8～翌年1月に作付けされ、2～6月に収穫される。冬とうもろこしは、大豆収穫後の概ね1～3月に作付けされ、6～10月に収穫される。)

(単位:百万トン)

年度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (26年3月～27年2月)		
			予測値、( ) はCONAB	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	119.0	135.0	131.0 ( - )	-	▲ 3.0
消費量	84.0	93.0	95.0 ( - )	1.0	2.2
うち飼料用	62.5	65.0	65.5 ( - )	-	0.8
輸出量	38.3	43.0	43.0 ( - )	-	-
輸入量	1.7	1.5	1.6 ( - )	-	6.7
期末在庫量	8.3	8.8	3.4 ( - )	▲ 0.2	▲ 61.2
期末在庫率	6.8%	6.5%	2.5% ( - )	▲ 0.1	▲ 4.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	21.65	22.30	22.60 ( - )	-	1.3
単収(t/ha)	5.50	6.05	5.80 ( - )	-	▲ 4.1

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)、  
CONAB「Graos」(11 September 2025)

## 図 ブラジルのクロープカレンダー(中部から南部)

2024/25年度	2024年				2025年								
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
夏とうもろこし (リオ・グランデ・ド・スール州等)	作付 3.8(百万ha)				収穫 24.9(百万t) → 収穫夏冬作計 139.7百万t								
冬とうもろこし (マツ・グロソ州、パラナ州等)	作付面積夏冬作計 21.9百万ha				作付 18.1(百万ha) → 収穫 114.8(百万t)								
大豆 (マツ・グロソ州、パラナ州等)	作付 47.4(百万ha)				収穫 171.5(百万t)								

大豆収穫後の一部農場で夏とうもろこし作付け

資料: CONAB「Graos」(2025.9.11)をもとに農林水産省にて作成

## 表 ブラジルのとうもろこしの輸出先国と輸出量

(輸出量:万トン、シェア:%)

国名	2023/24年度 (2024年3月～2025年2月)		2023/24年度 (2024年3月～2024年8月)		2024/25年度 (2025年3月～2025年8月)			
	輸出量	シェア	輸出量	シェア	輸出量	シェア		
エジプト	601.1	15.7	エジプト	145.9	12.8	イラン	183.8	17.1
イラン	536.9	14.1	韓国	130.7	11.5	エジプト	134.8	12.6
ベトナム	450.9	11.8	ベトナム	94.2	8.3	ベトナム	116.7	10.9
韓国	243.3	6.4	アルジェリア	92.1	8.1	スペイン	80.9	7.5
日本	214.3	5.6	サウジアラビア	88.2	7.8	サウジアラビア	79.4	7.4
その他	1,772.8	46.4	その他	585.7	51.5	その他	477.6	44.5
合計	3,819.4	100.0	合計	1,136.8	100.0	合計	1,073.1	100.0

資料:ブラジル貿易統計のデータをもとに農林水産省にて作成

## < アルゼンチン > 2025/26 年度の生産量は、前年度から 6.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 6.0%増、過去5年平均(49.0 百万トン)から 8.2%増の 53.0 百万トンとなる見込み。前年度は病害虫のヨコバイによる被害が生産者の作付意欲に負の影響を及ぼしたが、被害の改善により2025/26 年度は作付面積が回復する見込み。なお、2024/25 年度の実産量は、2023/24 年度から 2.0%減の 50.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン農牧漁業庁(SAGyP)の週報(2025.9.11)によれば、9月 11 日現在、主要生産地のうち、コルドバ州、サンタフェ州では 2024/25 年度の実産が終了しており、ブエノスアイレス州、ラ・パンパ州では実産が続いている。また、一部地域では、2025/26 年度の実産が開始されている。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加を受け、前年度から 2.6%増の 15.6 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加等を受け、前年度から 7.2%増の 37.0 百万トンの見込み。なお、2024/25 年度の実輸出量は、2023/24 年度から 4.9%減の 34.5 百万トンとなる見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2024/25 年度のうち 2025 年3～8月の実輸出量は 1,957.1 万トンと、前年同期(2,063.7 万トン)に比べ 5.2%減。輸出先国別には、ベトナム 393.2 万トン(20.1%)、ペルー 232.2 万トン(11.9%)、アルジェリア 179.8 万トン(9.2%)の順となっている(表)。

アルゼンチン政府は、2025 年9月 22 日、とうもろこしを含む穀物及びその副産物について、輸出税を一時的に撤廃すると発表した。期限は 10 月 31 日又は申告された輸出額が 70 億米ドルに相当する額に達する日(いずれか早い方)までとしていたが、輸出額の上限に達し、9月 25 日から再び輸出税を課すこととなった。報道情報によれば、輸出を加速させることで、低迷するペソ通貨を支えるために必要なドルを調達する狙いがあったとみられる。政府はこれまで、2025 年1月から6月末までとうもろこしの輸出税を 9.5%に引き下げていたが、7月 1 日からは従来の税率である 12%に引き上げ、8月 1 日には、再び 9.5%に引き下げていた。

USDA によれば、2025/26 年度の実在庫量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加を受け、前年度から 14.7%増、過去5年平均(3.1 百万トン)から 3.0%増の 3.2 百万トンの見込み。実在庫率は前年度から 0.5ポイント増の 6.1%となる見込み。

## とうもろこしーアルゼンチン

(早植えとうもろこしは、概ね9月後半～12 月前半に作付けされ、遅植えとうもろこしは、概ね 12 月前半～翌年2月前半に作付けされる。概ね3～8月に収穫される。)

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (26年3月～27年2月)		
			予測値、( ) はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	51.0	50.0	53.0 (59.1)	-	6.0
消費量	14.6	15.2	15.6 (20.9)	-	2.6
うち飼料用	10.4	10.8	11.2 (15.9)	-	3.7
輸出量	36.3	34.5	37.0 (38.0)	-	7.2
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	2.5	2.8	3.2 (1.8)	-	14.7
期末在庫率	4.9%	5.6%	6.1% (3.1%)	-	0.5

(単位:百万トン)

(参考)  
 収穫面積(百万ha) 7.78 6.90 7.50 (8.22) - 8.7  
 単収(t/ha) 6.56 7.25 7.07 (7.20) - ▲2.5  
 資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,  
 「World Agricultural Production」(12 September 2025)  
 IGC「Grain Market Report」(21 August 2025)

## 表 アルゼンチンのとうもろこしの輸出先国と輸出量

2023/24年度 (2024年3月～2025年2月)			2023/24年度 (2024年3月～2024年8月)			2024/25年度 (2025年3月～2025年8月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
ベトナム	667.8	18.4	ベトナム	412.4	20.0	ベトナム	393.2	20.1
ペルー	433.1	11.9	ペルー	220.1	10.7	ペルー	232.2	11.9
マレーシア	333.6	9.2	韓国	200.1	9.7	アルジェリア	179.8	9.2
韓国	282.2	7.8	マレーシア	180.8	8.8	マレーシア	175.6	9.0
アルジェリア	280.1	7.7	サウジアラビア	156.8	7.6	エジプト	155.9	8.0
その他	1,628.2	44.9	その他	893.4	43.3	その他	820.4	41.9
合計	3,624.9	100.0	合計	2,063.7	100.0	合計	1,957.1	100.0

資料:アルゼンチン国家統計局(INDEC)をもとに農林水産省にて作成

## 写真 サンタフェ州の作付けを待つ圃場(8月 26 日撮影)



作付け前の準備として、収穫後の切り株を土壌にすき込み、土壌を平らにする等の作業を行った圃場。

撮影者:José Daniel Peloni

## < ウクライナ > 2025/26 年度の生産量は、前年度から 19.4%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加を受け、高温乾燥等の影響により生産量が減少した前年度から 19.4%増となるものの、ロシアの侵攻前の過去5年平均(2017/18～2021/22 年度、33.6 百万トン)から 4.9%減の 32.0 百万トンとなる見込み(図)。

現地情報会社によれば、8月末現在のとうもろこしの生育ステージは、早生種は黄熟期～完熟期を迎えている一方、西部や北部では、開花期～乳熟期の圃場もある。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、飼料用消費の増加を受け、前年度から 10.9%増の 6.4 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加等を受け、前年度から 23.8%増の 25.5 百万トンとなる見込み。なお、2024/25 年度の輸出量は、2023/24 年度から 30.1%減の 20.6 百万トンとなる見込み。

ウクライナ税関庁によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 10 月～2025 年 8 月の輸出量は 1,996.6 万トンと、前年同期(2,904.2 万トン)に比べ 31.3%減。輸出先国別には、トルコ 568.8 万トン(28.5%)、イタリア 271.7 万トン(13.6%)、スペイン 240.7 万トン(12.1%)の順となっている(表)。2025 年 8 月の輸出量は前年同月比 68.9%減の 24.1 万トンと、2020/21 年度以降では最低水準となった。現地報道情報(2025.8.27)によれば、畜産や加工産業の成長により国内消費量が増加したことが一つの要因とみられている。

2022 年 6 月より適用されてきた EU のウクライナ産品に対する輸入関税と輸入割当の停止措置が 2025 年 6 月 5 日に適用期限を迎え失効し、欧州委員会は、6 月 6 日以降、深化した包括的自由貿易協定(DCFTA)に基づく関税割当を適用している。6 月 30 日には欧州委員会とウクライナが DCFTA の下で新たな貿易措置に合意したことが発表され、とうもろこしの年間の関税割当量は、現行の 65 万トンから 100 万トンに拡大された。現地情報会社によれば、とうもろこしについては、EU の関税率は 0%であるため、割当量の増減による影響はないとみられる。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.2 百万トン上方修正され、生産量の増加により、前年度から 8.5%増となるものの、ロシアの侵攻前の過去5年平均(2.5 百万トン)からは 54.4%減の 1.2 百万トンの見込み。2025/26 年度の期末在庫率は、前年度から 0.4 ポイント減の 3.6%となる見込み。

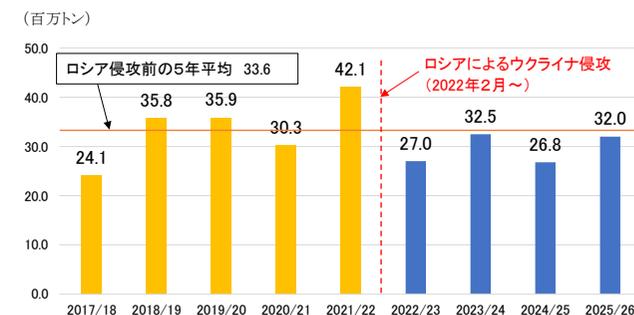
## とうもろこし-ウクライナ

(概ね4～5月に作付けされ、8～11月に収穫される。)

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年10月～26年9月)			
			予測値( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	32.5	26.8	32.0 (31.5)	-	19.4	
消費量	5.4	5.8	6.4 (6.1)	0.1	10.9	
うち飼料用	4.5	4.9	5.5 (4.7)	0.1	12.2	
輸出量	29.5	20.6	25.5 (25.5)	-	23.8	
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	▲ 50.0	
期末在庫量	0.6	1.1	1.2 (1.0)	0.2	8.5	
期末在庫率	1.8%	4.0%	3.6% (3.2%)	0.6	▲ 0.4	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	4.20	4.10	4.40 (4.40)	-	7.3	
単収(t/ha)	7.74	6.54	7.27 (7.16)	-	11.2	

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)  
IGC「Grain Market Report」(21 August 2025)

## 図 ウクライナのとうもろこしの生産量の推移



資料:USDA「PS&D」(2025.9.12)をもとに農林水産省にて作成

## 表 ウクライナのとうもろこしの輸出先国と輸出量

2023/24年度 (2023年10月～2024年9月)			2023/24年度 (2023年10月～2024年8月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年8月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
スペイン	617.4	21.0	スペイン	616.4	21.2	トルコ	568.8	28.5
中国	461.9	15.7	中国	461.9	15.9	イタリア	271.7	13.6
エジプト	361.9	12.3	エジプト	361.9	12.5	スペイン	240.7	12.1
オランダ	277.7	9.4	オランダ	270.8	9.3	オランダ	199.1	10.0
イタリア	253.0	8.6	イタリア	238.8	8.2	エジプト	162.5	8.1
その他	975.1	33.1	その他	954.4	32.9	その他	553.8	27.7
合計	2,947.0	100.0	合計	2,904.2	100.0	合計	1,996.6	100.0

資料:APK-Inform Agencyのデータをもとに農林水産省にて作成

< 中国 > 2025/26 年度の生産量は、前年度から 0.03%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、単収の増加を受け、前年度から 0.03%増、過去5年平均(278.8 百万トン)から 5.8%増の 295.0 百万トンと、史上最高の見込み。

中国中央气象台「全国農業気象週報」(2025.9.8)によれば、9月初旬、生産地の一部では過度な降水量が生育に負の影響を及ぼしたものの、大部分では、適切な気温や良好な土壌水分量に恵まれ、作物の生長に好影響を与えた。同「作物生育期監視」(2025.9.7~9.13)によれば、生育ステージは、主に乳熟期~成熟期を迎えている。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加を受け、前年度から 1.6%増の 321.0 百万トンと史上最高の見込み。ただし、中国農業農村部「中国農業展望報告(2025-2034)」(2025.4)によれば、飼料用とうもろこしの需要は、今後、畜産物単位当たりの飼料消費量の減少に伴い、減少に転じる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、大幅に輸入量が減少した前年度から 233.3%増の 10.0 百万トンとなる見込み。なお、2024/25 年度の輸入量は、報復関税などの貿易政策の変更や国内農家の利益を守るための輸入抑制により、2023/24 年度から 87.1%減の 3.0 百万トンとなる見込み(図)。

中国海関統計によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 10 月~2025 年7月の輸入量は 173.0 万トンと、前年同期(2,263.6 万トン)に比べ 92.4%減。輸入先国別には、ブラジル 72.4 万トン(41.9%)、ウクライナ 37.6 万トン(21.7%)、ロシア 30.1 万トン(17.4%)の順となっている(表)。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2025 年7月号」によれば、7月の国内価格は、需給は逼迫気味であったものの、配合飼料におけるとうもろこしの使用比率が低下し、加工企業の稼働率も低水準に落ち込んだことから、前月から横ばいの 2,420 元/トン。

中国国務院関税税則委員会は、5月 14 日以降、米国産とうもろこしに対して計 25%の追加関税を課している。8月 12 日には 90 日間停止されてきた 24%が上乘せされることとなっていたが、米中の合意により、この停止期間はさらに 90 日間延長されることとなった。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、期首在庫量の引下げを受け、前月予測から 1.1 百万トン下方修正され、消費量の増加を受け、前年度から 8.3%減、過去5年平均(205.0 百万トン)から 13.6%減の 177.1 百万トンの見込み(図)。期末在庫率は前年度から 5.9 ポイント減の 55.2%となる見込み。

とうもろこしー中国

(春とうもろこしは、概ね2~4月に作付けされ、7~9月に収穫される。夏とうもろこしは、概ね4~6月に作付けされ、9~10月に収穫される。)

(単位:百万トン)

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年10月~26年9月)			
			予測値、( ) はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)	
生産量	288.8	294.9	295.0 (299.5)	-	0.03	
消費量	307.0	316.0	321.0 (313.2)	-	1.6	
うち飼料用	225.0	234.0	239.0 (211.0)	-	2.1	
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-	
輸 入 量	23.3	3.0	10.0 (8.0)	-	233.3	
期末在庫量	211.2	193.1	177.1 (178.4)	▲ 1.1	▲ 8.3	
期末在庫率	68.8%	61.1%	55.2% (57.0%)	▲ 0.3	▲ 5.9	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	44.22	44.74	44.30 (44.90)	-	▲ 1.0	
単収(t/ha)	6.53	6.59	6.66 (6.67)	-	1.1	

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)  
IGC「Grain Market Report」(21 August 2025)

図 中国のとうもろこしの輸入量の推移

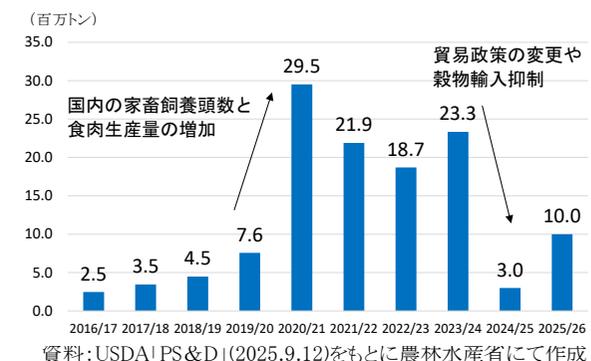


表 中国のとうもろこしの輸入先国と輸入量

(輸入量:万トン、シェア:%)

2023/24 年度 (2023年10月~2024年9月)		2023/24年度 (2023年10月~2024年7月)		2024/25年度 (2024年10月~2025年7月)	
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	1,502.3	64.4	ブラジル	1,479.6	65.4
ウクライナ	456.5	19.6	ウクライナ	439.3	19.4
米国	298.8	12.8	米国	272.4	12.0
ミャンマー	19.8	0.8	ミャンマー	19.7	0.9
ブルガリア	18.2	0.8	ブルガリア	18.2	0.8
ロシア	15.6	0.7	ロシア	13.7	0.6
その他	21.8	0.9	その他	20.6	0.9
計	2,332.9	100.0	計	2,263.6	100.0

資料:中国海関統計をもとに農林水産省にて作成

### 3 コメ

#### (1) 国際的なコメ需給の概要(詳細は右表を参照)

<USDAの見通し> 2025/26年度

**生産量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・ベトナム、豪州等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

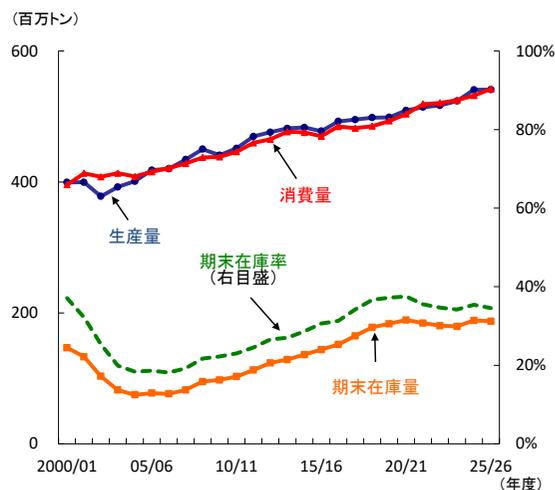
**消費量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ミャンマー、アフガニスタン等で下方修正されたものの、インド、マダガスカル等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

**輸出量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・パキスタン、米国、豪州等で下方修正されたものの、ミャンマーで上方修正され、前月から上方修正された。

**期末在庫量** 前年度比 ↓ 前月比 ↑



資料:USDA「PS&D」(2025.9.12)をもとに農林水産省にて作成

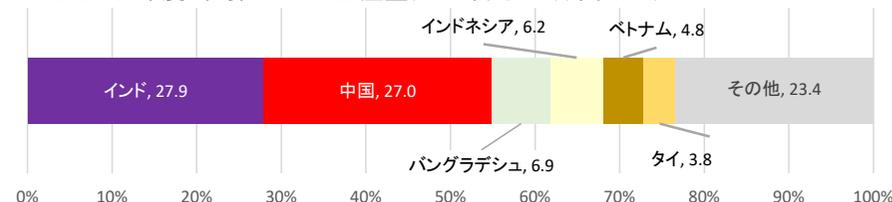
#### ◎世界のコメ需給

(単位:百万精米トン)

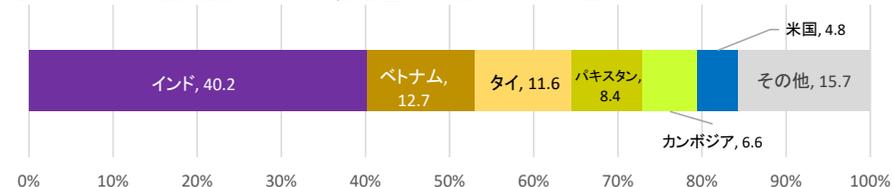
年度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	523.7	540.9	541.1	▲ 0.4	0.03
消費量	524.8	532.0	542.2	0.2	1.9
輸出量	56.8	61.12	62.2	0.04	1.7
輸入量	53.4	58.2	58.8	0.1	1.0
期末在庫量	179.4	188.4	187.3	0.6	▲ 0.6
期末在庫率	34.2%	35.4%	34.5%	0.1	▲ 0.9

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 September 2025)

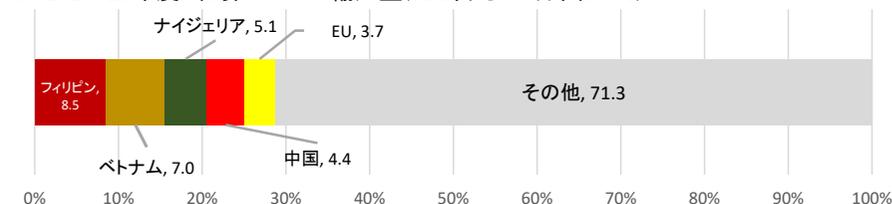
#### ○ 2025/26年度 世界のコメの生産量(541.1百万トン)(単位:%)



#### ○ 2025/26年度 世界のコメの輸出量(62.2百万トン)(単位:%)



#### ○ 2025/26年度 世界のコメの輸入量(58.8百万トン)(単位:%)



## (2) 国別のコメの需給動向

### < タイ > 2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 0.7%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が前年度から8万ヘクタール減少(前年度比 0.7%減)することから、前年度に比べ 0.7%減の 20.4 百万トンの見込み。単収は、過去最高の 2.86 トン/ヘクタールを維持する見込み。

タイ農業協同組合農業経済局「農業経済」(2025.8)によれば、2024/25 年度の乾季米(2024 年 11 月～2025 年4月作付け)の作付面積は、前月予測から 24 万ヘクタール上方修正され 210 万ヘクタールとなる見込み。これは天候不順で灌漑用水による水供給が制限を受けた 2023/24 年度に比べ、雨季中の降雨量が多く、十分な灌漑用水の供給があったことから 31%増となる。また、2025/26 年度の雨季米(2025 年5月～10 月作付け)の作付面積は、前月予測から変更はなく、前年度(992 万ヘクタール)から微減の 991 万ヘクタールとなる見込み。

アセアン食料安全保障情報システム(2025.8)によれば、雨季米の作付進捗率は、予測作付面積 991 万ヘクタールの約 88%に達しており、作物は分けつ期を迎えている。ほとんどの地域で、降水量及び日射量が十分なことから、生育条件は良好で、単収及び生産量の増加が見込まれる。一方、7月には北部、北東部高地及び中部地域で、非常に激しい豪雨が発生した。この継続的な降雨と7月下旬に発生した台風ウィパーが重なり、複数地域で洪水が発生し、約6万8千ヘクタールが影響を受けた。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度同の 7.2 百万トンの見込み。同「Grain and Feed Monthly」(2025.9.3)によれば、タイのコメ輸出は、インドの低価格米の市場復帰と、インドネシアやフィリピンを含む主要輸出先国の需要減退が要因となり輸出量減少及び競争力の低下という厳しい環境に直面している。

タイ関税局によれば、2024/25 年度のうち 2025 年1～7月の輸出量は、前年同期比 25%減の 429.7 万トンで、輸出先国別には、イラク 62.8 万トン(14.6%)、米国 49.2 万トン(11.4%)、南アフリカ 41.2 万トン(9.6%)の順となっている(表)。政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大していたインドネシア向けの輸出量は 5.7 万トンと大幅に減少し、前年同期比で 95%減となった。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、政府の大規模備蓄計画を受け、前年度比 19.3%増の 3.7 百万トンの見込み。期末在庫率は、前月予測からの変更はなく、前年度より 2.9 ポイント増の 18.7%となる見込み。

## コメータイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培。

(単位:百万精米トン)

年度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (26年1月～26年12月)		
			予測値、0はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	20.0	20.6	20.4 (20.4)	-	▲ 0.7
消費量	12.3	12.5	12.7 (12.7)	-	1.2
輸出量	9.9	7.2	7.2 (7.6)	-	-
輸入量	0.1	0.1	0.1 (0.02)	-	-
期末在庫量	2.2	3.1	3.7 (3.1)	-	19.3
期末在庫率	10.0%	15.8%	18.7% (15.2%)	-	2.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.65	10.88	10.80 (10.80)	-	▲ 0.7
単収(穂t/ha)	2.85	2.86	2.86 (1.89)	-	-

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)  
IGC「Grain Market Report」(21 August 2025) (単収は精米t/ha)

写真 タイ北部の圃場(9月6日撮影)



作付後  
34 日  
目で分け  
つ期を迎  
えた圃場。  
生育は順  
調。

表 タイのコメの輸出先国と輸出量

(輸出量:万トン,シェア:%)

2023/24年度 (2024年1月～12月)			2023/24年度 (2024年1月～7月)			2024/25年度 (2025年1月～7月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
インドネシア	133.3	13.3	インドネシア	110.3	19.2	イラク	62.8	14.6
イラク	99.7	10.0	イラク	63.0	11.0	米国	49.2	11.4
米国	84.8	8.5	米国	46.5	8.1	南アフリカ	41.2	9.6
南アフリカ	83.3	8.3	南アフリカ	40.2	7.0	中国	40.7	9.5
フィリピン	61.8	6.2	フィリピン	30.7	5.3	セネガル	18.6	4.3
セネガル	46.2	4.6	コートジボワール	22.3	3.9	フィリピン	16.1	3.8
その他	489.6	49.0	その他	261.2	45.5	その他	201.0	46.8
計	998.7	100.0	計	574.4	100.0	計	429.7	100.0

資料:タイ関税局「Electronic Service」をもとに農林水産省で作成

## < 米国 > 2025/26年度の生産量は、前年度に比べ6.0%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA「Rice Outlook」(2025.9.16)によれば、2025/26年度の実生産量は、収穫面積が前月予測から0.01百万ヘクタールとわずかに上方修正されたことを受け、前月予測から0.01百万トン上方修正されたものの、前年度比6.0%減の6.6百万トンの見込み。種類別では、長粒種は4.9百万トンと前月予測から0.02百万トン下方修正され、前年度比11%減の見込み。これは米国最大の長粒種生産地域であるミシシッピ・デルタ地域における4～5月にかけての異常な豪雨と、それに続く洪水により、作付面積が減少したことによる。一方、中・短粒種は1.7百万トンと、前月予測から0.03百万トン上方修正され、前年度比9.8%増の見込み。これは、中・短粒種の主要生産地であるカリフォルニア州における作付面積の拡大による。

同「Crop Production」(2025.9.12)によれば、2025/26年度の実収穫面積は、1.12百万ヘクタールで、前年同期比3.7%減。種類別の収穫面積は、長粒種は、アーカンソー州等で減少し、7.5%減の0.84百万ヘクタール。中・短粒種は、カリフォルニア州、ルイジアナ州等で増加し、11.2%増の0.26百万ヘクタール。中・短粒種の主要生産地であるカリフォルニア州では、前年度に比べ14.2%増の0.21百万ヘクタールの見込み。

同「Crop Progress」(2025.9.8)によれば、9月7日現在の作柄評価は、「良～優良」の割合は74%と前年同期(80%)を6ポイント下回っている。同「Crop Progress」(2025.9.15)によれば、9月14日現在、主要生産6州の収穫進捗率は61%と前年同期(63%)をやや下回るものの、過去5年平均(46%)を15ポイント上回っている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2025/26年度の輸入量は、前月予測から0.03百万トン上方修正され、引き続きタイからのジャスミン米やインド、パキスタンからのバスマティ米の輸入継続が予測され、前年度に比べ2.5%増の1.6百万トンと史上最高の見込み。

同「Rice Outlook」(2025.9.16)によれば、2025/26年度の実輸出量は、世界の長粒種市場における価格競争力の低下や主要輸出先国(特にメキシコ)への販売の減速等を受け、前月予測から0.1百万トン下方修正されたものの、前年度から4.2%増の3.0百万トンの見込み。同「Exports Sales Query System」によれば、2025/26年度のうち2025年8月の輸出量は14.2万トンで、輸出先国別には、メキシコ4.3万トン(30.0%)、日本3.0万トン(21.3%)、ハイチ2.4万トン(16.6%)の順(表)。種類別には、長粒種は、輸出量9.7万トンで、輸出先国別には、メキシコ3.6万トン(国別シェア37.0%)、ハイチ2.4万トン(同24.3%)、ベネズエラ1.5万トン(同15.4%)。中・短粒種は、輸出量4.5万トンで、輸出先国別には、日本3.0万トン(国別シェア66.6%)、メキシコ0.7万トン(同14.9%)、韓国0.3万トン(同7.3%)。

## コメ-米国

長粒種の実生産量は7割、中・短粒種の実生産量は3割を占め、長粒種の6割をアーカンソー州が、中・短粒種の7割をカリフォルニア州が占める。

(単位:百万精米トン)

年度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26(25年8月～26年7月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.9	7.1	6.6	0.01	▲6.0
消費量	4.9	5.3	5.3	▲0.03	▲0.6
輸出量	3.2	2.9	3.0	▲0.1	4.2
輸入量	1.4	1.6	1.6	0.03	2.5
期末在庫量	1.3	1.7	1.7	0.3	▲1.2
期末在庫率	15.8%	20.9%	20.5%	3.5	▲0.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.16	1.16	1.12	0.01	▲3.4
単収(割t/ha)	8.56	8.69	8.47	▲0.1	▲2.5

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)

## 表 米国のコメの輸出先国と輸出量

(輸出量:万トン、シェア:%)

2024/25年度 (2024年8月～2025年7月)			2024/25年度 (2024年8月)			2025/26年度 (2025年8月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
メキシコ	68.6	23.5	メキシコ	3.6	20.0	メキシコ	4.3	30.0
日本	39.4	13.5	トルコ	2.8	15.6	日本	3.0	21.3
ハイチ	28.6	9.8	ハイチ	1.8	9.9	ハイチ	2.4	16.6
ホンジュラス	27.4	9.4	日本	1.7	9.3	ベネズエラ	1.5	10.5
イラク	22.0	7.5	コロンビア	1.5	8.2	サウジアラビア	1.1	7.4
韓国	13.4	4.6	サウジアラビア	1.2	6.5	カナダ	0.8	5.7
その他	92.3	31.7	その他	5.5	30.5	その他	1.2	8.6
計	291.6	100.0	計	18.1	100.0	計	14.2	100.0

資料:USDA「Exports Sales Query System」をもとに農林水産省で作成

## < 中国 > 2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 0.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、農作物の生産性向上との政府計画に沿って、作付面積が安定し単収が増加するとの予測から、前年度比 0.5%増の 146.0 百万トン(精米ベース)となる見込み。

中国中央气象台「晩生稲二期作生育状況」及び「一期作稲生育状況」(2025.9.7~9.13)によれば、二期作晩稲米は、南部稲作地域の華南(広東省、海南省、広西(コワンシー)壮族自治区)から江南(江蘇省南部から浙江省北部)地域で、分けつ期から出穂準備期にあり、湖南省と江西省では出穂、乳熟期に進んでいる。一期作米は、東北(遼寧省、吉林省、黒龍江省)地域と華南地域で、出穂から乳熟及び成熟期に達し、収穫期に近づいている。

中国国家统计局(2025.8.22)によれば、2025/26 年度の中国全土の一期米の作付面積は、前年度から 1.2 万ヘクタール減少し 0.3%減の 474 万ヘクタールとなる見込み。生産量(粳ベース)は、2,851 万トンと、前年度から 34 万トン増加し、1.2%増となる見込み。単収は、前年度から 0.09 トン/ヘクタール増加し、1.5%増の 6.01 トン/ヘクタールとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度比 0.5%増の 146.7 百万トンとなる見込み。

2025/26 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、国際市場におけるコメ価格の下落と国内コメ価格の高止まりを要因として、ミャンマー、タイ、ベトナム及びインドといった伝統的なインディカ米供給国からの輸入が増加するとの予測から、前年度比 11.1%増の 2.6 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2025/26 年度のうち 2025 年7月の輸入量は、前年同期(8.4 万トン)と比べ 258.1%増の 30.1 万トンとなっている。輸入先国別には、ミャンマー12.0 万トン(39.8%)、タイ 8.7 万トン(28.9%)、ベトナム 4.5 万トン(14.9%)の順となっている(表)。

USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度比 21.7%減の 0.9 百万トンの見込み。

2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加予測や政府の備蓄プログラム等を受け前年度比 1.0%増の 104.5 百万トンの見込み。期末在庫率は前月予測から変更はなく、前年度比 0.4 ポイント増の 70.8%となる見込み。

## コメー中国

中国の主要コメ生産地域は、南部稲作地域(華南、華中、西南高原地域)で、インディカ米とジャポニカ米を栽培。北部稲作地域では、主にジャポニカ米を栽培。

(単位:百万精米トン)

年度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26(25年7月~26年6月)		
			予測値、OはIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	144.6	145.3	146.0 (146.0)	-	0.5
消費量	148.1	146.0	146.7 (145.6)	-	0.5
輸出量	1.6	1.2	0.9 (1.9)	-	▲ 21.7
輸入量	1.5	2.3	2.6 (2.5)	-	11.1
期末在庫量	103.0	103.5	104.5 (103.0)	-	1.0
期末在庫率	68.8%	70.4%	70.8% (69.8%)	-	0.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	28.95	29.01	29.00 (29.00)	-	▲ 0.03
単収(粳t/ha)	7.14	7.15	7.19 (5.03)	-	0.6

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)  
IGC「Grain Market Report」(21 August 2025) (単収は精米t/ha)

## 表 中国のコメの輸入先国と輸入量

(輸入量:万トン、シェア:%)

2024/25年度 (2024年7月~2025年6月)			2024/25年度 (2024年7月)			2025/26年度 (2025年7月)		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ミャンマー	67.4	28.9	ミャンマー	4.5	53.1	ミャンマー	12.0	39.8
タイ	56.1	24.0	タイ	1.9	22.0	タイ	8.7	28.9
ベトナム	49.6	21.3	ベトナム	1.1	12.8	ベトナム	4.5	14.9
インド	24.1	10.3	パキスタン	0.9	10.3	インド	2.9	9.5
パキスタン	20.7	8.9	インド	0.1	0.8	パキスタン	1.3	4.2
カンボジア	11.7	5.0	カンボジア	0.1	0.7	カンボジア	0.8	2.7
その他	3.8	1.6	その他	0.0	0.3	その他	0.0	0.0
合計	233.5	100.0	合計	8.4	100.0	合計	30.1	100.0

資料:中国海関統計をもとに農林水産省で作成

## < インド > 2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 0.7%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度比 0.7%増の 151.0 百万トンと、過去5年平均(135.5 百万トン)と比べても 11.5%増加し、史上最高の見込み。

インド農業・農民福祉省によれば、2025/26 年度のカリフ米の作付面積は、8月 15 日時点で前年度比 9.91%増の 39.9 百万ヘクタールとなっており、南西モンスーンの早期到来及び範囲拡大が増加要因となっている。9月初旬時点では、国内の大部分で、稲は生育期から登熟初期にあるが、ハリヤナ州ソニパット県など北インドの一部品種は、登熟後期にある(写真)。

【貿易情報・その他】USDA「Grain and Feed Update」(2025.9.3)によれば、2025/26 年度の消費量は、インド政府が国内市場及びエタノール製造業者向けに補助価格で過剰米の在庫処分を進めることによる需要増が見込まれ、前月予測から 0.5 百万トン上方修正、前年度比 4.1%増の 127.0 百万トンと予測されている。また、生産量の増加により、政府は食料安全保障法に基づく公的食料配給制度(PDS)の継続実施が可能となっている。政府は PDS により市場からコメ等を調達し、低所得世帯(8.14 億人以上)に無償又は低価格で配給している。本年度もより多くのコメが国民に供給される見込み。

USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度比 6.4%増の 25.0 百万トンの見込み。

同「Grain: World Markets and Trade」(2025.7.11)によれば、インドのパーボイルド米輸出は、規制の撤廃後、価格の下落によりサハラ以南のアフリカ及びバングラデシュへの販売が増加し、過去最高を記録する勢いにある。

インド輸出入統計によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 10 月～2025 年6月の輸出量は、1,788.0 万トンと前年同期(1,125.1 万トン)と比べ、58.9%増となっている。輸出先国別には、ベナン 168.2 万トン(9.4%)、バングラデシュ 114.3 万トン(6.4%)、サウジアラビア 112.4 万トン(6.3%)の順となっている(表)。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、政府備蓄米放出等により前年度に比べ 2.2%減の 45.5 百万トンとなるが、政府が望む在庫水準(13.54 百万トン)は大幅に上回る見込み。

インド食品公社(Food Cooperation India)によれば、2025 年8月時点の期末在庫量は、37.9 百万トン(精米)と前年同期比で 15.9%増の見込み。

## コメーインド

**カリフ米: 雨季/モンスーン期(5～10月)に栽培。**  
**ラビ米: 冬季の 11 月～翌3月に栽培。**  
**夏季米: 3～6月に栽培。**

(単位:百万精米トン)

年度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26(25年10月～26年9月)		
			予測値、0はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	137.8	150.0	151.0 (151.0)	-	0.7
消費量	116.4	122.0	127.0 (124.2)	0.5	4.1
輸出量	14.4	23.5	25.0 (24.1)	-	6.4
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	42.0	46.5	45.5 (49.2)	-	▲2.2
期末在庫率	32.1%	32.0%	29.9% (33.2%)	▲0.1	▲2.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	47.83	51.42	51.50 (51.50)	-	0.2
単収(粒t/ha)	4.32	4.38	4.40 (2.93)	-	0.5

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)  
IGC「Grain Market Report」(21 August 2025) (単収は精米t/ha)

## 写真 ハリヤナ州の圃場(9月2日撮影)



カリフ米の  
早生品  
種。登熟  
期半ば～  
後期の粒  
の肥大期  
にある。

## 表 インドのコメの輸出先国と輸出量

(輸出量:万トン,シェア:%)

2023/24年度 (2023年10月～2024年9月)			2023/24年度 (2023年10月～2024年6月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年6月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
サウジアラビア	136.7	9.4	サウジアラビア	110.3	9.8	ベナン	168.2	9.4
ベナン	125.0	8.6	ベナン	81.3	7.2	バングラデシュ	114.3	6.4
イラク	90.2	6.2	ギニア	75.7	6.7	サウジアラビア	112.4	6.3
ギニア	84.5	5.8	イラク	70.1	6.2	ギニア	93.3	5.2
イラン	74.0	5.1	コートジボワール	55.1	4.9	コートジボワール	92.3	5.2
コートジボワール	71.8	4.9	イラン	58.8	5.2	トーゴ	80.2	4.5
その他	872.1	60.0	その他	673.9	59.9	その他	1,127.3	63.0
計	1,454.2	100.0	計	1,125.1	100.0	計	1,788.0	100.0

資料:インド農業・加工食品輸出振興局(APEDA)「Agri Xchange」をもとに農林水産省で作成

## < ベトナム > 2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 2.8%減少する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2025/26年度の生産量は26.0百万トンと、前月予測から0.3百万トン下方修正され、収穫面積及び単収の減少により前年度を2.8%下回る見込み。

ベトナム総統計局(2025.9.6)によれば、2025年(USDA:2024/25年度)の雨季作(ムア米)の作付面積は、8月20日時点で、全国で前年同期より0.64万ヘクタール減の137.56万ヘクタールとなった。うち北部の作付面積は、土地転用等により、前年同期より1.56万ヘクタール減少し97.83万ヘクタールとなっている。南部の作付面積は、塩害の影響が軽減されたことから、前年同期で、0.92万ヘクタール増の39.73万ヘクタールとなっている。なお、雨季作(夏秋米)の作付面積は、前年同期に比べ0.87万ヘクタール減の189.94万ヘクタールとなっている。

アセアン食料安全保障情報システム(2025.8)によれば、北部では雨季米(夏秋作)が幼穂形成期にある。また、ムア米(夏秋作)は出穂期にある。天候に恵まれ、灌漑用水も十分に供給されているため、生育は良好である。南部では、雨季米(早期夏秋作)が収穫期を迎え、作付面積177万ヘクタールのうち、収穫面積は53万ヘクタールに達した。その他雨季米(後期夏秋作及びムア作)は生育期にあり、生育は良好である。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2025/26年度の輸入量は、前月予測から変更はなく、カンボジアからの籾米(国内精米用)の大量輸入継続から、前年度に比べ2.5%増の4.1百万トンと、過去最高となる見込み。

同「Grain and Feed Quarterly」(2025.8.6)によれば、国内のコメ供給はカンボジアからの玄米輸入で補われており、2025年上半期にベトナムはカンボジアから約170万トン輸入し、前年同期と比べ77%増となった。

2025/26年度の輸出量は、前月予測からの変更はないものの、インドやタイといった輸出国との競争激化が予測され、前年度に比べ3.7%減の7.9百万トンとなる見込み。

ベトナム税関総局によれば、2024/25年度のうち2025年1～8月の輸出量は、637.4万トンと、前年同期(617.3万トン)に比べ3.3%増加。輸出先国別には、フィリピン292.5万トン(45.9%)、コートジボワール75.4万トン(11.8%)、ガーナ64.2万トン(10.1%)の順(表)。

USDA「Grain: World Markets and Trade」(2025.9.12)によれば、ベトナム産米(長粒種、5%砕米混入)の9月9日までの週の価格は、フィリピンの一時的な輸入禁止を受け、前月8月9日までの週から22ドル/トン下落し372ドル/トンとなった。

2025/26年度の期末在庫量は、前月予測から0.5百万トン下方修正、前年度比17.0%減の2.4百万トンとなる見込み。期末在庫率は、前月予測から1.6ポイント下方修正、前年度比1.6ポイント減の8.0%となる見込み。

## コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培。

(単位:百万精米トン)

年度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26(26年1月～26年12月)		
			予測値、OはIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.2	26.8	26.0 (28.6)	▲ 0.3	▲ 2.8
消費量	22.5	22.6	22.7 (23.0)	-	0.4
輸出量	9.0	8.2	7.9 (8.0)	-	▲ 3.7
輸入量	3.7	4.0	4.1 (2.7)	-	2.5
期末在庫量	3.0	2.9	2.4 (2.3)	▲ 0.5	▲ 17.0
期末在庫率	9.5%	9.5%	8.0% (7.5%)	▲ 1.6	▲ 1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.11	6.95	6.80 (7.18)	▲ 0.10	▲ 2.2
単収(穀t/ha)	6.12	6.16	6.12 (3.99)	0.02	▲ 0.6

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)、  
IGC「Grain Market Report」(21 August 2025) (単収は精米t/ha)

## 写真 ベトナム南部カントー市の圃場(9月7日撮影)



移植後 91 日目で、稲の草丈は 95～100cm。生育段階は乳熟後期から黄熟期にある。

## 表 ベトナムのコメの輸出先国と輸出量 (輸出量:万トン,シェア:%)

2023/24年度 (2024年1月～12月)			2023/24年度 (2024年1月～8月)			2024/25年度 (2025年1月～8月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
フィリピン	422.1	46.7	フィリピン	281.1	45.5	フィリピン	292.5	45.9
インドネシア	125.7	13.9	インドネシア	91.2	14.8	コートジボワール	75.4	11.8
マレーシア	71.9	8.0	マレーシア	57.7	9.3	ガーナ	64.2	10.1
ガーナ	61.3	6.8	ガーナ	33.9	5.5	中国	56.5	8.9
コートジボワール	48.3	5.3	コートジボワール	29.5	4.8	マレーシア	32.0	5.0
中国	28.5	3.2	中国	23.5	3.8	セネガル	12.3	1.9
その他	145.5	16.1	その他	100.5	16.3	その他	104.4	16.4
計	903.4	100.0	計	617.3	100.0	計	637.4	100.0

資料:ベトナム税関総局「月別主要輸出統計データ」をもとに農林水産省で作成

## II 油糧種子 大豆

### (1) 国際的な大豆需給の概要(詳細は右表を参照)

<USDA の見通し> 2025/26 年度

**生産量** 前年度比 前月比

・ロシア等で上方修正されたものの、インド等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

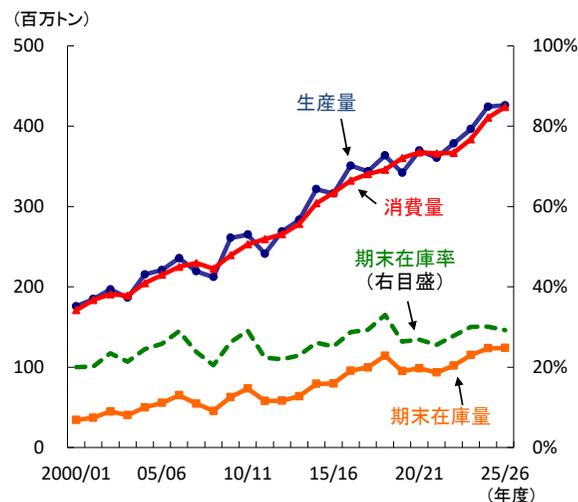
**消費量** 前年度比 前月比

・米国、エジプト等で上方修正されたものの、インド、アルゼンチン、バングラデシュ等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

**輸出量** 前年度比 前月比

・米国等で下方修正されたものの、ロシア、カナダ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

**期末在庫量** 前年度比 前月比



資料:USDA「PS&D」(2025.9.12)をもとに農林水産省で作成

## ◎世界の大豆需給

(単位:百万トン)

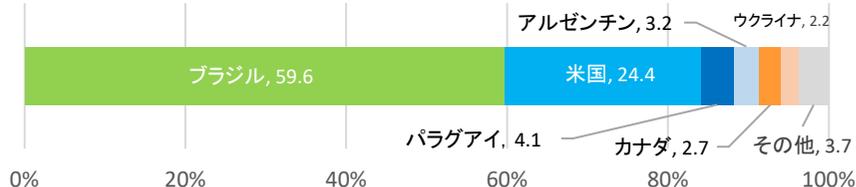
年度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	396.4	424.2	425.9	▲ 0.5	0.4
消費量	383.6	410.5	423.9	▲ 1.2	3.3
うち搾油用	331.2	354.5	366.6	▲ 1.1	3.4
輸出量	177.8	183.5	187.8	0.3	2.3
輸入量	178.3	178.2	186.2	0.3	4.5
期末在庫量	115.1	123.6	124.0	▲ 0.9	0.3
期末在庫率	0.3	0.3	0.3	▲ 0.1	▲ 0.9

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 September 2025)

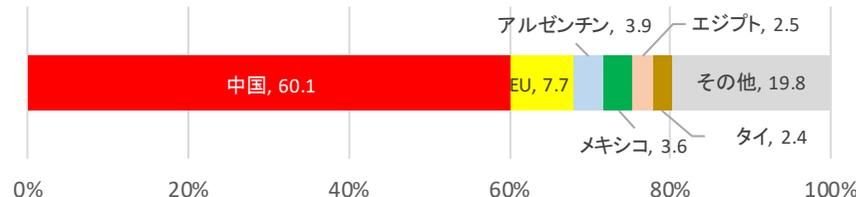
### ○ 2025/26 年度 世界の大豆の生産量(425.9 百万トン)(単位:%)



### ○ 2025/26 年度 世界の大豆の輸出量(187.8 百万トン)(単位:%)



### ○ 2025/26 年度 世界の大豆の輸入量(186.2 百万トン)(単位:%)



## (2) 国別の大豆の需給動向

### < 米国 > 2025/26 年度の生産量は前年度から 1.5% 減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実績は、収穫面積の引上げを受け前月予測から 0.2 百万トン上方修正されたものの、収穫面積の減少を受け前年度から 1.5% 減の 117.1 百万トンの見込み。作付け時の価格相場がとうもろこしの作付けに有利であったため、多くの農家がとうもろこしの作付けに切り替えたとみられる。

同「Crop Progress」(2025.9.15)によれば、9月14日現在、落葉進捗率は41%と前年同期(41%)と同水準で、過去5年平均(40%)を上回っている。7月下旬までは概して良好な天候に恵まれていたものの、8～9月には主要生産地であるイリノイ州、インディアナ州、オハイオ州等で高温乾燥に見舞われ((<カナダ>図 オンタリオ州、ケベック州及び米国の大豆主要生産地の土壌水分量平年対比(2025年9月1日～15日))参照)作柄が悪化し、作柄評価が「良～優良」の割合は63%と、前週(64%)及び前年同期(64%)をやや下回っている。また収穫進捗率は5%と、収穫が開始されている。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の実績は、前月予測から 0.5 百万トン上方修正され、搾油用需要の増加等を受け前年度から 5.3% 増の 72.5 百万トンと史上最高の見込み。

米国環境保護庁(EPA)は、6月13日、再生可能燃料基準制度(RFS)について、2026～2027年の混合基準量を公表した。バイオディーゼルに関しては、2025年の33億5,000万ガロンに対して、2026年は56億1,000万ガロン、2027年は58億6,000万ガロンと過去最高の数量を設定している。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の実績は、搾油用需要の引上げ等を受け前月予測から 0.5 百万トン下方修正され、前年度から 10.1% 減の 45.9 百万トンの見込み。

同「Oilseeds:World Markets and Trade」(2025.9.12)によれば、米国産の輸出価格は、作柄悪化の報告を受け8月下旬までに415ドル/トンまで上昇したものの、中国からの需要不足により、9月以降は再び下落している(図)。

同「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」によれば、2024/25 年度の実績は 4,998.6 万トンと、前年度(4,480.9 万トン)から 11.6% 増。輸出先国別には、中国 2,232.5 万トン(44.7%)、メキシコ 498.5 万トン(10.0%)、エジプト 369.2 万トン(7.4%)の順となっている(表)。

USDA によれば、2025/26 年度の実績は、輸出量の引下げ等を受け前月予測から 0.3 百万トン上方修正され、搾油用需要の増加等を受け前年度から 9.0% 減の 8.2 百万トンと、過去5年平均(8.0 百万トン)を上回る見込み。期末在庫率は、前年度から 0.6 ポイント減の 6.9% となる見込み。

## 大豆－米国

(概ね5～6月に作付けされ、9～11月に収穫される。)

(単位:百万トン)

年度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年9月～26年8月)		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	113.3	118.8	117.1	0.2	▲ 1.5
消費量	65.4	68.9	72.5	0.5	5.3
うち搾油用	62.2	66.1	69.5	0.4	5.2
輸出量	46.3	51.0	45.9	▲ 0.5	▲ 10.1
輸入量	0.6	0.7	0.5	-	▲ 27.0
期末在庫量	9.3	9.0	8.2	0.3	▲ 9.0
期末在庫率	8.3%	7.5%	6.9%	-	▲ 0.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	33.29	34.82	32.50	0.08	▲ 6.7
単収(t/ha)	3.40	3.41	3.60	-	5.6

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)

### 図 米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格(FOB)の推移



資料:IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

### 表 米国の大豆の輸出先国と輸出量

(輸出量:万トン、シェア:%)

2023/24年度 (2023年9月～2024年8月)			2024/25年度 (2024年9月～2025年8月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
中国	2,455.2	54.8	中国	2,232.5	44.7
メキシコ	461.0	10.3	メキシコ	498.5	10.0
ドイツ	251.3	5.6	エジプト	369.2	7.4
インドネシア	227.9	5.1	ドイツ	273.1	5.5
日本	188.4	4.2	イタリア	210.0	4.2
その他	897.2	20.0	その他	1,415.2	28.3
合計	4,480.9	100.0	合計	4,998.6	100.0

資料:USDA「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」のデータをもとに農林水産省にて作成

## < ブラジル > 2025/26 年度の生産量は前年度から 3.6%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が史上最高となり単収も増加することから、前年度から 3.6%増の 175.0 百万トンと史上最高の見込み。なお、2024/25 年度の実産量は、2023/24 年度から 9.4%増の 169.0 百万トンの見込み(図)。

ブラジル食料供給公社(CONAB)の月例報告(2025.9.11)によれば、2024/25 年度の実産量は、生産技術の向上及び良好な気象条件を受け、前年度(151.3 百万トン)から 13.3%増の 171.5 百万トンと史上最高の見込み。単収も 3.62トン/ヘクタールと史上最高を記録した。

報道情報(2025.9.8)によれば、同国の 2025/26 年度の大豆作付けはパラナ州で開始され、9月4日時点の同国の作付進捗率は 0.02%となっている。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用需要の増加等を受け前年度から 2.0%増の 62.3 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル政府は、インフレ懸念により 14%からの引上げが延期されていたバイオディーゼル混合率について、2025 年8月1日から 15%へ引き上げた。これにより化石燃料輸入量の減少、脱炭素化、農家の所得向上等が期待されている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加等により前年度から 9.7%増の 112.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 10 月～2025 年8月の輸出量は 9,580.9 万トンと前年同期(9,805.2 万トン)から 2.3%減。輸出先国別には、中国 7,298.3 万トン(76.2%)、スペイン 383.4 万トン(4.0%)、タイ 335.8 万トン(3.5%)の順となっている(表)。

USDA によれば、米中貿易摩擦等により、ブラジルの中国向け輸出が増加する見込み。

業界情報誌「Oil World Weekly」(2025.9.5)によれば、中国はブラジル産大豆をプレミアム価格で輸入しており、ブラジルにとって中国は収益性の高い市場となっている。2025 年1～8月の中国向け輸出量は大幅に増加し、8月の輸出に占める割合は 85%に達した一方、他国向けの輸出は減少している。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、輸入量の引上げ等を受け前月予測から 0.3 百万トン上方修正され、生産量の増加を受け、前年度から 2.9%増の 37.3 百万トンと、過去5年平均(31.9 百万トン)を上回る見込み。期末在庫率は、前年度から 0.8 ポイント減の 21.4%となる見込み。

## 大豆—ブラジル

(概ね9～12月に作付けされ、1～4月に収穫される。)

(単位:百万トン)

年度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年10月～26年9月)		
			予測値、( )は CONAB	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	154.5	169.0	175.0 ( - )	-	3.6
消費量	58.3	61.1	62.3 ( - )	-	2.0
うち搾油用	54.4	57.0	58.0 ( - )	-	1.8
輸出量	104.2	102.1	112.0 ( - )	-	9.7
輸入量	0.9	0.7	0.4 ( - )	0.2	▲ 46.2
期末在庫量	29.8	36.2	37.3 ( - )	0.3	2.9
期末在庫率	18.3%	22.2%	21.4% ( - )	0.2	▲ 0.8

(参考)  
 収穫面積(百万ha) 46.15 47.40 48.80 ( - ) - 3.0  
 単収(t/ha) 3.35 3.57 3.59 ( - ) - 0.6  
 資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
 「World Agricultural Production」(12 September 2025)  
 CONAB「Graos」(11 September 2025)

### 図 ブラジルの大豆の生産量、収穫面積及び単収の推移

(百万t、百万ha)



資料:USDA「PS&D」(2025.9.12)をもとに農林水産省にて作成

### 表 ブラジルの大豆の輸出先国と輸出量

(輸出量:万トン、シェア:%)

2023/24年度 (2023年10月～2024年9月)			2023/24年度 (2023年10月～2024年8月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年8月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
中国	7,820.2	75.1	中国	7,389.1	75.4	中国	7,298.3	76.2
スペイン	393.4	3.8	スペイン	354.9	3.6	スペイン	383.4	4.0
タイ	303.3	2.4	タイ	271.7	2.8	タイ	335.8	3.5
トルコ	248.4	2.9	トルコ	244.9	2.5	トルコ	184.8	1.9
イラン	180.5	1.7	イラン	174.1	1.8	イラン	146.3	1.5
その他	1,469.8	14.1	その他	1,370.5	14.0	その他	1,232.5	12.9
合計	10,415.6	100.0	合計	9,805.2	100.0	合計	9,580.9	100.0

資料:ブラジル貿易統計のデータをもとに農林水産省にて作成

## < カナダ > 2025/26 年度の生産量は前年度から 6.1%減少する見込み(AAFC)

【生育・生産状況】AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2025.8.20)によれば、2025/26 年度の実産量は、7月予測から 0.3 百万トン下方修正され、単収が前年度から減少すること受け前年度(7.6 百万トン)から 6.1%減の 7.1 百万トンの見込み。

カナダ統計局「Model-based Principal field crop estimates, August 2025」(2025.9.17)によれば、2025/26 年度の実産量は前年度から 5.7%減の 7.1 百万トンの見込み。州別には、マニトバ州では前年度から 2.9%増の 1.7 百万トンとなるものの、主要生産地のオンタリオ州では前年度から 8.8%減の 4.0 百万トン、ケベック州では前年度から 7.8%減の 1.3 百万トンとなる見込み。各州とも単収は前年度を下回る見込みで、カナダ東部(オンタリオ州及びケベック州等)では、生育期を通じて高温乾燥に見舞われたことから、8月 31 日時点の作柄は平年並みか平年を下回る水準と評価されている。

USDA「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2025.9.16)によれば、9月初旬のカナダ南東部では平年より気温が低く、作物の生育の進行に遅れがみられたほか、オンタリオ州東部の一部地域では霜害が発生した。なお、9月 13 日現在、カナダ南東部では温暖で乾燥した天候へと移行している(図)。

【需要状況】AAFC によれば、2025/26 年度の実消費量は、7月予測から 0.01 百万トン下方修正され、飼料用需要の減少等を受け、前年度(2.5 百万トン)から 9.1%減の 2.2 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2025/26 年度の実輸出量は、7月予測から 0.3 百万トン下方修正され、生産量の減少等を受け前年度(5.4 百万トン)から 0.9%減の 5.4 百万トンとなる見込み。

カナダ統計局によれば、2024/25 年度の実輸出量は 544.3 万トンと、前年同期(483.6 万トン)から 12.6%増。輸出先国別には、中国 104.3 万トン(19.2%)、イラン 76.5 万トン(14.1%)、アルジェリア 54.9 万トン(10.1%)の順となっている(表)。

AAFC によれば、2025/26 年度の実在庫量は、7月予測から 0.01 百万トン下方修正され、前年度(0.6 百万トン)から、5.4%減の 0.5 百万トンの見込み。実在庫率は、前年度から 0.1 ポイント減の 6.9%となる見込み。

## 大豆—カナダ

(概ね5~6月に作付けされ、9~11月に収穫される。)

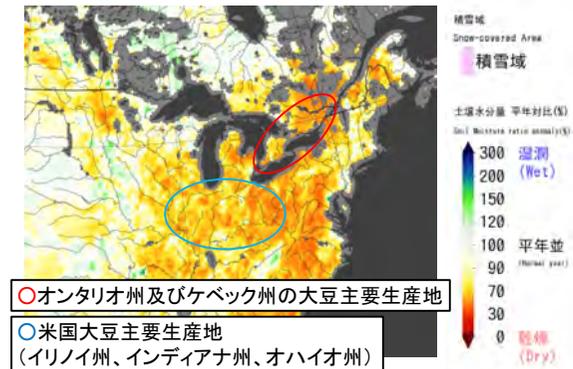
年度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年8月~26年7月)		
			予測値、( )はAAFC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	7.0	7.6	7.0 (7.1)	-	▲ 7.5
消費量	2.3	2.4	2.3 (2.2)	▲ 0.3	▲ 6.3
うち搾油用	1.7	1.6	1.6 (1.7)	▲ 0.2	-
輸出量	4.8	5.4	5.1 (5.4)	0.3	▲ 6.4
輸入量	0.3	0.2	0.4 (0.5)	-	44.6
期末在庫量	0.6	0.5	0.5 (0.5)	▲ 0.2	1.9
期末在庫率	7.9%	6.8%	7.4% (6.9%)	▲ 3.5	0.6

(参考)

取穫面積(百万ha)	2.26	2.29	2.30 (2.30)	-	0.4
単収(t/ha)	3.09	3.30	3.04 (3.09)	-	▲ 7.9

資料:USDA「PS&D」,  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)  
AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(20 August 2025)

## 図 オンタリオ州、ケベック州及び米国の大豆主要生産地の土壌水分量平年対比(2025年9月1日~15日)



資料:農業気象情報衛星モニタリングシステム(JASMAI)

## 表 カナダの大豆の輸出先国と輸出量

2023/24年度 (2023年8月~2024年7月)			2024/25年度 (2024年8月~2025年7月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
中国	152.9	31.6	中国	104.3	19.2
アルジェリア	58.2	12.0	イラン	76.5	14.1
イラン	52.3	10.8	アルジェリア	54.9	10.1
日本	33.9	7.0	米国	43.2	7.9
インドネシア	27.7	5.7	日本	40.0	7.4
米国	21.7	4.5	インドネシア	31.8	5.8
その他	136.9	28.3	その他	193.6	35.6
合計	483.6	100.0	合計	544.3	100.0

資料:カナダ統計局のデータをもとに農林水産省にて作成

## < 中国 > 2025/26 年度の生産量は前年度から 1.7%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加を受け、前年度から 1.7%増の 21.0 百万トンとなり、史上最高の見込み。

中国中央气象台「全国農業気象月報」(2025.9.5)、「全国農業気象週報」(2025.9.22)によれば、主要生産地の東北部の大部分で8月から9月にかけて、日照、気温及び土壌水分量が良好で、大豆の成熟及び乾燥に好影響を与えている。同「作物生育期監視」(2025.9.14~20)によれば、9月 20 日現在、子実肥大期及び成熟期を迎えている。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用需要の増加等を受け、前年度から 4.8%増の 133.0 百万トンと史上最高の見込み。

中国農業農村部「中国農業展望報告(2025-2034)」(2025.4)によれば、2025 年は豚肉生産量の増加に伴い、短期的に飼料用需要の増加が見込まれるものの、2034 年までの長期的な見通しでは、養豚施設の大規模化や防疫水準の向上により、飼料用需要は今後安定的に推移する見込み。その一方で、飼料用大豆粕の減量への取組が本格的に進み、大豆粕需要は徐々に減少する見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、搾油用需要の増加等を受け前年度から 5.2%増の 112.0 百万トンと、2023/24 年度と並び、史上最高の見込み。

中国海関統計によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 10 月~2025 年7月の輸入量は 8,422.2 万トンと前年同期(8,123.2 万トン)から 3.7%増。輸出先国別には、ブラジル 5,466.8 万トン(64.9%)、米国 2,416.2 万トン(28.7%)、アルゼンチン 254.2 万トン(3.0%)の順(表)。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2025 年7月号」によれば、端境期による市場流通量の減少により、7月の国内価格は 4,680 元/トンと、前月(4,640 元/トン)から上昇した。

中国国務院関税税則委員会は、5月 14 日以降、米国産大豆に対して計 20%の追加関税を課している。8月 12 日には 90 日間停止されてきた 24%が上乗せされることとなっていたが、米中の合意により、この停止期間はさらに 90 日間延長されることとなった。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、搾油用需要の増加等を受け、前年度から 0.2%減の 43.4 百万トンとなるものの、過去5年平均(34.6 百万トン)を上回り、史上2番目の見込み(図)。期末在庫率は、前年度から 1.6 ポイント減の 32.6%となる見込み。

## 大豆—中国

(概ね4~6月に作付けされ、9~10月に収穫される。)

(単位:百万トン)

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年10月~26年9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	20.8	20.7	21.0 (21.1)	-	1.7	
消費量	121.8	126.9	133.0 (132.9)	-	4.8	
うち搾油用	99.0	103.0	108.0 (109.5)	-	4.9	
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	25.0	
輸 入 量	112.0	106.5	112.0 (109.5)	-	5.2	
期末在庫量	43.3	43.5	43.4 (45.4)	-	▲ 0.2	
期末在庫率	35.5%	34.2%	32.6% (34.2%)	-	▲ 1.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	10.47	10.33	10.50 (10.50)	-	1.6	
単収(t/ha)	1.99	2.00	2.00 (2.01)	-	-	

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)  
IGC「Grain Market Report」(21 August 2025)

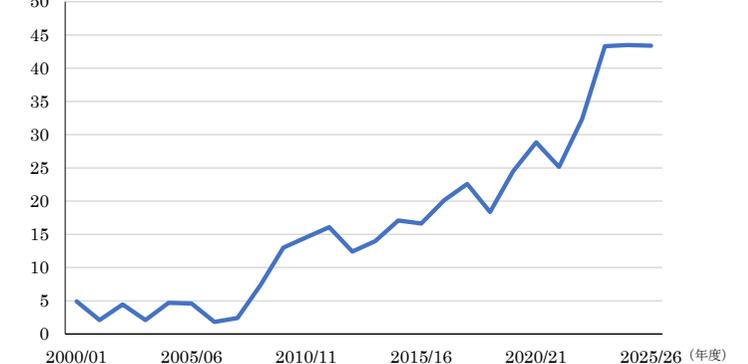
### 表 中国の大豆の輸入先国と輸入量

(輸入量:万トン、シェア:%)

2023/24年度 (2023年10月~2024年9月)			2023/24年度 (2023年10月~2024年7月)			2024/25年度 (2024年10月~2025年7月)		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	7,732.1	73.8	ブラジル	5,863.8	72.2	ブラジル	5,466.8	64.9
米国	2,091.6	20.0	米国	1,900.2	23.4	米国	2,416.2	28.7
アルゼンチン	267.7	2.6	カナダ	151.4	1.9	アルゼンチン	254.2	3.0
カナダ	151.9	1.5	アルゼンチン	77.3	1.0	ウルグアイ	131.7	1.6
ウルグアイ	102.7	1.0	ロシア	72.8	0.9	カナダ	114.9	1.4
ロシア	79.8	0.8	ベナン	21.4	0.3	ロシア	37.6	0.4
その他	48.8	0.5	その他	36.3	0.4	その他	0.7	0.0
合計	10,474.7	100.0	合計	8,123.2	100.0	合計	8,422.2	100.0

資料:中国海関統計のデータをもとに農林水産省にて作成

図 中国の大豆の期末在庫量の推移 2025/26年度の期末在庫量は、前年度から減少するもの、史上2番目の見込み。



資料:USDA「PS&D」(2025.9.12)をもとに農林水産省にて作成

## < アルゼンチン > 2025/26 年度の生産量は前年度から 4.7%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の減少を受け、前年度から 4.7%減の 48.5 百万トンの見込み(図)。前年度は病害虫のヨコバイによる被害により、とうもろこしから大豆に作付けがシフトしたが、2025/26 年度は被害の改善により、大豆からとうもろこしに作付けがシフトする見込み。なお、2024/25 年度の実績は、2023/24 年度から 5.6%増の 50.9 百万トンの見込み。

アルゼンチン農牧漁業庁(SAGyP)の週報(2025.7.24)によれば、2024/25 年度の収穫は終了している。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測から 0.6 百万トン下方修正され、搾油用需要が減少することから、前年度から 1.0%減の 49.9 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、同国への大豆主要供給国であるパラグアイの実績増加等を受け前年度から 5.9%増の 7.2 百万トンの見込み。なお、2024/25 年度の輸入量は、2023/24 年度から 13.0%減の 6.8 百万トンとなる見込み。

2025/26 年度の輸出量は、前月予測から 0.2 百万トン上方修正されたものの、大幅に輸出量が増加した前年度から 17.8%減の 6.0 百万トンの見込み。なお、2024/25 年度の輸出量は、2023/24 年度から 42.9%増の 7.3 百万トンとなる見込み。報道情報(2025.9.22)によれば、この増加は、中国からの旺盛な需要によるものとみられる。

アルゼンチン政府は、2025 年9月 22 日、穀物(大豆含む)及び副産物について、23 日から輸出税を一時的に撤廃することを発表した。期限は、10 月 31 日又は申告された輸出額が 70 億米ドルに相当する額に達する日(いずれか早い方)までとされていたが、輸出額の上限に達し、9月 25 日から再び輸出税を課すこととなった。報道情報によれば、輸出を加速させることで、低迷するペソ通貨を支えるために必要なドルを調達する狙いがあったとみられる。政府はこれまで、1月から6月末まで大豆の輸出税を 26%、大豆油及び大豆粕の輸出税を 24.5%に引き下げていたが、7月1日からは従来の税率である大豆 33%、大豆油及び大豆粕を 31%に引き上げ、8月1日には、再び大豆 26%、大豆油及び大豆粕 24.5%に引き下げていた。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、期首在庫量の引下げ等を受け前月予測から 0.8 百万トン下方修正され、生産量の減少を受け前年度から 0.8%減の 23.9 百万トンとなるものの、過去5年平均(22.7 百万トン)を上回る見込み。期末在庫率は前年度から 1.0 ポイント減の 42.7%となる見込み。

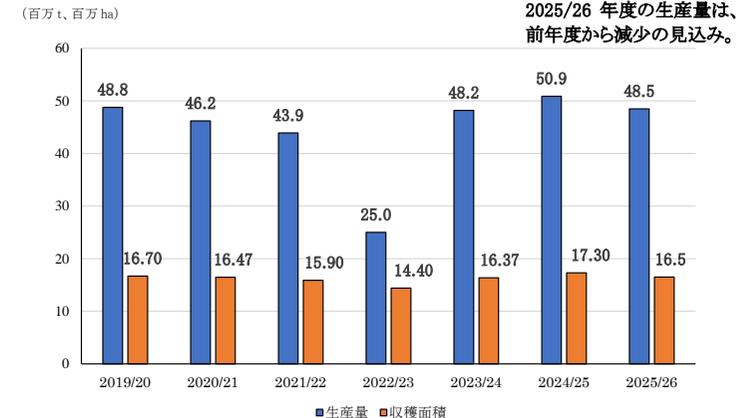
## 大豆—アルゼンチン

(早植え大豆は、概ね 10~11月に作付けされ、3~7月に収穫され、  
遅植え大豆は、概ね 10~11月に作付けされ、4~7月に収穫される。)  
(単位:百万トン)

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年10月~26年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	48.2	50.9	48.5 (50.5)	-	▲ 4.7
消費量	43.8	50.4	49.9 (50.5)	▲ 0.6	▲ 1.0
うち搾油用	36.6	42.6	42.4 (44.0)	▲ 0.6	▲ 0.5
輸 出 量	5.1	7.3	6.0 (4.7)	0.2	▲ 17.8
輸 入 量	7.8	6.8	7.2 (5.4)	-	5.9
期末在庫量	24.1	24.1	23.9 (9.8)	▲ 0.8	▲ 0.8
期末在庫率	49.1%	41.7%	42.7% (17.7%)	▲ 1.1	1.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.37	17.30	16.50 (17.30)	-	▲ 4.6
単収(t/ha)	2.95	2.94	2.94 (2.92)	-	-

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)  
IGC「Grain Market Report」(21 August 2025)

## 図 アルゼンチンの大豆の生産量と収穫面積の推移



資料:USDA「PS&D」(2025.9.12)をもとに農林水産省にて作成

## 写真 サンタフェ州の大豆圃場の様子 (2025.8.26 撮影)



作付け開始に向け、動力噴射機で除草剤を散布している様子。現時点では、理想的な土壌及び気象条件となっている。

撮影者: José Daniel Peloni

(参考1)本レポートに使用されている各国の市場年度について (2025/26年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	25年6月～26年5月	25年9月～26年8月	25年8月～26年7月	25年9月～26年8月
カナダ	25年8月～26年7月			25年8月～26年7月
豪州	25年10月～26年9月		26年3月～27年2月	
EU	25年7月～26年6月	25年10月～26年9月		
中国	25年7月～26年6月	25年10月～26年9月	25年7月～26年6月	25年10月～26年9月
ロシア	25年7月～26年6月	25年10月～26年9月		25年9月～26年8月
ウクライナ	25年7月～26年6月	25年10月～26年9月		
ブラジル		26年3月～27年2月	26年4月～27年3月	25年10月～26年9月
アルゼンチン	25年12月～26年11月	26年3月～27年2月		25年10月～26年9月
タイ			26年1月～12月	
インド	25年4月～26年3月		25年10月～26年9月	
ベトナム			26年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。  
 例えば、2025/26年度は、米国の小麦では2025年6月～2026年5月、ブラジルのとうもろこしでは2026年3月～2027年2月です。  
 なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。  
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

1 Bushel (ブッシェル) (穀物により異なる)	0.027216	メトリックトン	小麦、大豆	米国等
	0.021772	メトリックトン	大麦	
	0.025401	メトリックトン	とうもろこし	
	0.014515	メトリックトン	オーツ	
1 CWT(百ポンド)	0.045359	メトリックトン	コメ	米国等

2 面積

1Acre(エーカー)	0.40469	ヘクタール	米国等
1rai(ライ)	0.16	ヘクタール	タイ
1 亩(ムー)	0.0667	ヘクタール	中国

3 その他

1ガロン	4.536	リットル	英国
1ガロン	3.785	リットル	米国
1LAKH(ラーク)	10万	位取り	インド
1斤	500g	重量	中国

華氏→摂氏 : °C = (° F - 32) ÷ 1.8			
-------------------------------	--	--	--

(参考3)各国のクロープカレンダー一覧(主要品目毎)

# 主要生産国のクロープカレンダー(小麦)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2024/2025 (単位: 百万トン)		生産量に占める輸出量の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出量 (シェア)	
中国													140 (17.5%)	1 (0.5%)	0.7%												
EU													122 (15.3%)	27 (12.9%)	22%												
インド													113 (14.2%)	0.2 (0.1%)	0.2%												
ロシア													82 (10.2%)	44 (21.1%)	53%												
アメリカ													54 (6.7%)	22 (10.8%)	42%												
カナダ													35 (4.4%)	27 (13.1%)	77%												
オーストラリア													34 (4.3%)	25 (12.1%)	73%												
パキスタン													31 (3.9%)	1 (0.2%)	2%												

資料 : AMIS 「Supply and demand balances manual」、USDA 「Crop Calendars」、 「PS&D」 (2025.5)

注 : 生産量のシェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。  
冬小麦と春小麦の収穫量の割合は便宜的にデュラム小麦は全て春小麦としている。

その他 : 188 (23.6%) 輸出量 60 (29.2%)

# 主要生産国のクロープカレンダー(米)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2024/2025 (単位:百万トン)		生産量に占める輸出量の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出量 (シェア)	
<b>インド</b> 	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> <p>Market year</p> <p>雨季(カリフ期) 播種 → 収穫</p> <p>乾季(ラビ期) 播種 → 収穫</p> </div>												147 (27.3%)	25 (39.9%)	17%												
<b>中国</b> 	<p>南部二期作 一期目 播種 → 収穫</p> <p>北部 一期作 播種 → 収穫</p> <p>南部二期作 二期目 播種 → 収穫</p>												145 (27.0%)	1 (1.5%)	0.6%												
<b>バングラデシュ</b> 	<p>播種(アマン種) → 収穫</p> <p>播種(アラス種) → 収穫</p> <p>播種(バロ種) → 収穫</p>												37 (6.8%)	0 (0.0%)	0.0%												
<b>インドネシア</b> 	<p>二期作 一期目 播種 → 収穫</p> <p>二期作 二期目 播種 → 収穫</p>												35 (6.4%)	0 (0%)	0.0%												
<b>ベトナム</b> 	<p>播種 冬春作 → 収穫</p> <p>播種 夏秋作 → 収穫</p> <p>播種 冬作 → 収穫</p>												27 (5.0%)	8 (12.9%)	29%												
<b>タイ</b> 	<p>播種 雨季作 → 収穫</p> <p>播種 乾季作 → 収穫</p>												21 (3.8%)	7 (11.4%)	34%												

資料: AMIS 「Supply and demand balances manual」、USDA 「Crop Calendar」、PS&D (2025.5) 注: 生産量のシェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。 その他: 127 (23.6%) 21 (34.4%)

# 主要生産国のクロープカレンダー(とうもろこし)

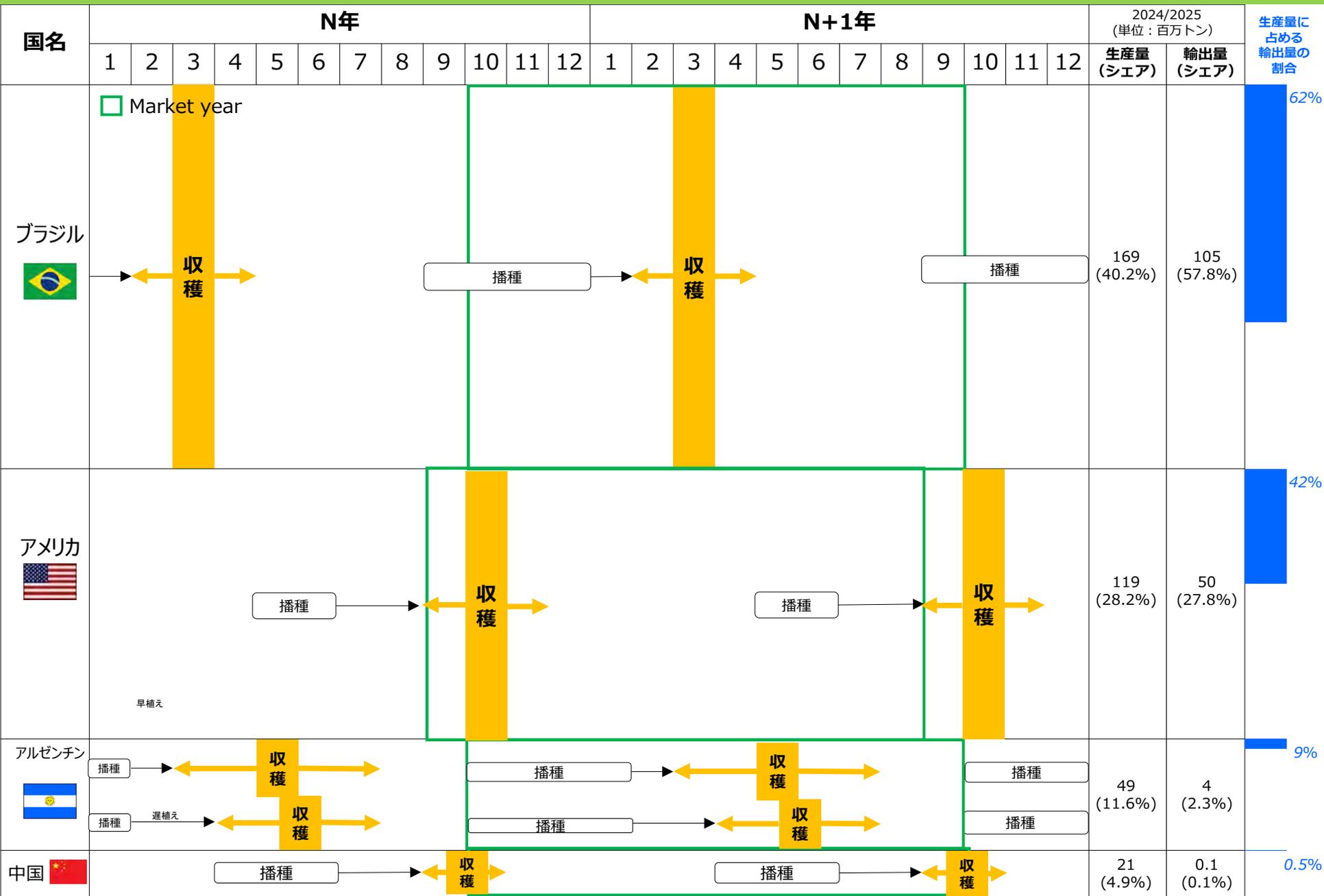
※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2024/2025 (単位：百万トン)		生産量に占める輸出量の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出量 (シェア)	
アメリカ 	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> <span style="border: 1px solid green; display: inline-block; width: 10px; height: 10px; margin-right: 5px;"></span> Market year                 </div>																								378 (30.9%)	66 (34.9%)	17%
中国 	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>播種 → 春作 → 収穫</p> <p>播種 → 夏作 → 収穫</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>播種 → 収穫</p> <p>播種 → 収穫</p> </div> </div>																								295 (24.1%)	0 (0.0%)	0.0%
ブラジル 	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>夏とうもろこし → 収穫</p> <p>播種 → 冬とうもろこし → 収穫</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>播種 → 収穫</p> <p>播種 → 収穫</p> </div> </div>																								130 (10.6%)	43 (22.7%)	33%
EU 	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>播種 → 収穫</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>播種 → 収穫</p> </div> </div>																								59 (4.9%)	2 (1.3%)	4%
アルゼンチン 	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>播種 → 収穫</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>播種 → 収穫</p> </div> </div>																								50 (4.1%)	36 (18.7%)	71%
インド 	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>乾期(ラビ期) → 播種 → 収穫</p> <p>雨期(カリフ期) → 播種 → 収穫</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>播種 → 収穫</p> <p>播種 → 収穫</p> </div> </div>																								40 (3.3%)	0.4 (0.2%)	0.9%

資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「PS&D」(2025.5) 注：生産量のシェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。 その他：269 (22.1%) 42 (22.2%)

# 主要生産国のクロープカレンダー(大豆)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料: AMIS 「Supply and demand balances manual」、USDA 「PS&D」 (2025.5) 注: 生産量のシェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。 その他: 63 (15.1%) 22 (12.0%)

# 主要生産国のクロープカレンダー(菜種)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2024/2025 (単位：百万トン)		生産量に占める輸出量の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出量 (シェア)	
カナダ 	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> <span style="border: 1px solid green; display: inline-block; width: 10px; height: 10px; margin-right: 5px;"></span> Market year                 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>播種 → 収穫</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>播種 → 収穫</p> </div> </div>												19 (22.1%)	9 (46.7%)	47%												
EU 	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> <span style="border: 1px solid green; display: inline-block; width: 10px; height: 10px; margin-right: 5px;"></span> Market year                 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>収穫 → 播種</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>収穫 → 播種</p> </div> </div>												17 (19.8%)	0.3 (1.6%)	2%												
中国 	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> <span style="border: 1px solid green; display: inline-block; width: 10px; height: 10px; margin-right: 5px;"></span> Market year                 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>収穫</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>播種 → 収穫</p> </div> </div>												16 (18.6%)	0 (0.0%)	0.0%												
インド 	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> <span style="border: 1px solid green; display: inline-block; width: 10px; height: 10px; margin-right: 5px;"></span> Market year                 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>収穫</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>播種 → 収穫</p> </div> </div>												12 (13.5%)	0 (0.0%)	0.0%												
オーストラリア 	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> <span style="border: 1px solid green; display: inline-block; width: 10px; height: 10px; margin-right: 5px;"></span> Market year                 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>播種 → 収穫</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>播種 → 収穫</p> </div> </div>												6 (7.0%)	5 (25.9%)	82%												
ロシア 	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> <span style="border: 1px solid green; display: inline-block; width: 10px; height: 10px; margin-right: 5px;"></span> Market year                 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>播種 → 収穫</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>播種 → 収穫</p> </div> </div>												5 (5.5%)	1 (4.5%)	18%												
ウクライナ 	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> <span style="border: 1px solid green; display: inline-block; width: 10px; height: 10px; margin-right: 5px;"></span> Market year                 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>収穫 → 播種</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>収穫 → 播種</p> </div> </div>												4 (4.5%)	3 (17.2%)	85%												

資料：USDA「Crop Calendar」、IPS&D (2025.5)

注：生産量のシェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。

その他：(9.1%)  
(4.1%)

## 【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関(各国政府機関、FAO、IGC等)の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

### ○ 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

#### (1) 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・食料需給表:<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
  - ・食品の価格動向:<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>
  - ・米に関するマンスリーレポート:<https://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>
- イ 中・長期見通しに関する情報
- ・食料需給見通し(農林水産政策研究所):<https://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

#### (2) 農林水産関係機関の情報(ALICの情報サイト):<https://www.alic.go.jp/>

- ・砂糖、でんぷん:<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・野菜:<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・畜産物:<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

#### (3) その他海外の機関(英語及び各国語となります)

ア 国際機関

- ・国連食糧農業機関(FAO):<https://www.fao.org/home/en>
- ・国際穀物理事会(IGC):<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・経済協力開発機構(OECD)(農業・水産業分野):<https://www.oecd.org/en/topics/agriculture-and-fisheries.html>
- ・農業市場情報システム(AMIS):<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関(代表的なものです)

- ・米国農務省(USDA):<https://www.usda.gov/>
- ・ブラジル食料供給公社(CONAB):<https://www.gov.br/conab/pt-br>
- ・カナダ農務農産食品省(AAFC):<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・豪州農業資源経済科学局(ABARES):<http://www.agriculture.gov.au/abares>

### ○ 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が2025年9月中旬までに発表した情報を引用しています。(最新年度2025/26年度です)

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

[http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY\\_REPORTS](http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS)

## 主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain:World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds:World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。  
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。  
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>  
(注:同サイトの「Reference Data」を参照)
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所(農林水産省発行「食料安全保障月報」)を併記願います。

なお、生産見通し等の予測は、各国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

ロシアが占領しているウクライナのクリミアの生産量については、米国農務省はウクライナとして集計しています。

○ 本月報の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

[https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j\\_rep/index.html](https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html)

○ 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

**連絡先 農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室**  
**TEL:03-6744-2368(直通)**

## 「食料安全保障月報」に関するアンケート

いつも食料安全保障月報（以下、「月報」）を御愛読いただきありがとうございます。  
今後のより良い月報の作成に生かすため、皆様の声を是非お聞かせください。

- 1 あなたの所属を教えてください。（選択式）  
商社、食品・飼料メーカー、食品卸・小売業、調査会社、自治体、大学・研究機関、大  
学生・高校生、その他
- 2 あなたの所属する会社・組織が所在する地域を教えてください。（選択式）  
北海道、東北、関東（東京以外）、東京、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄、海外  
その他
- 3 月報をどこで知りましたか。（選択式）  
口コミ、以前から（海外食料需給レポート時代から）、検索エンジン、農水省 HP、  
書籍、その他
- 4 月報を書籍で知った場合、その書名が分かれば教えてください。
- 5 月報で一番関心／参考にしている項目は何ですか。（複数選択可）  
概要編（今月の主な動き（穀物等の国際価格の動向）、今月の注目情報、今月のコラム、  
その他）  
品目別需給編（小麦、とうもろこし、コメ、油糧種子（大豆））  
特別分析トピック
- 6 今後重点的に取り上げてほしいテーマは何ですか。（自由記載）  
テーマ例：世界的な異常気象（干ばつ、洪水など）の穀物生産への影響  
地域別の穀物需給動向（米国、南米、豪州、東南アジア等）  
ウクライナ情勢の生産・貿易への影響  
中国の需要・輸入動向  
世界的な人口増加による食料需要・貿易への影響  
中長期（10年先）、超長期（30年先）的な食料需給見通し
- 7 今後月報に期待することはありますか。（自由記載）

ご回答は以下 URL または右の QR コードよりアクセス願います。

[https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/anpo/anpo\\_geppou\\_ankeeto.html](https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/anpo/anpo_geppou_ankeeto.html)

